平成 26 年度

第 2 回　市政モニターアンケート報告書

テーマ

1．危険物(ガソリン、灯油等)に関する意識調査について

2．大阪 880 万人訓練について

3．生涯学習について

堺市　市長公室　広報部　市政情報課

■ 調査概要

1. 趣旨・目的

(1) 危険物(ガソリン、灯油等)に関する意識調査について

ガソリンや灯油等の危険物は、自動車・暖房機器・キャンプ用器具等の燃料として社会生活に浸透し、消費者が容易に取り扱うことができるものです。

一方、平成 25 年 8 月に発生した福知山市での花火大会火災では、露店関係者が発電機に燃料であるガソリンを補給する際、誤った取扱いにより多数の死傷者を出しました。この事故は、危険物の取扱い上の知識不足が大きな事故につながることを示しています。

ガソリンや灯油等の危険物は、社会生活には欠かせないものです。正しい知識を持って適切に取り扱えば、事故を未然に防ぐことができます。

今回のアンケートは、ガソリンや灯油等の危険物の危険性に関する消費者の知識・認識等についての実態を把握し、消費者が関わる危険物の事故を防止するための普及啓発事項等を検討するために実施するものです。

(2) 大阪 880 万人訓練について

平成 26 年度の大阪 880 万人訓練は、9 月 5 日(金)の午前 11 時に防災行政無線屋外スピーカー、館内放送、車内放送、Yahoo!防災速報などで一斉に訓練開始の合図を流し、その情報を受けた市民の皆様が、各ご家庭や学校・職場などそれぞれの場所で、一斉に机の下に身を隠すなど、自ら考えた訓練を実施していただくものでした。また、訓練開始合図とは別に、午前 11 時 3 分～7 分にかけて、緊急速報メールによる訓練情報の配信を行いました。

今回のアンケートは、大阪府民全体を対象としたこの訓練について、堺市内でどれだけの方が参加いただけたのか、事前にこの訓練の内容をどの程度ご存じだったかなどを検証するものです。次年度以降の訓練をより良いものに改善し、継続的な取組とすることにより、市民一人ひとりの更なる防災意識の啓発につなげていくことを目的に実施します。

(3) 生涯学習について

本市では、平成 23 年に「堺市第 3 期生涯学習推進プラン」を策定、循環型生涯学習社会の実現をめざし、諸施策を進めております。平成 10 年に最初の計画を策定してから今日までの間、社会情勢が急速に変化する中、市民の皆様が地域や様々なコミュニティの中で、いきいきと安心・安全に生活を営むことができる市民主体のまちづくりを進めていくためには、生涯学習のさらなる推進が求められています。

今回のアンケートは、皆様がどのような生涯学習を行っているのか、市の生涯学習事業について、どのように考えているのかを把握し、市民ニーズに即した生涯学習施策の一層の充実を図るとともに、今後、生涯学習推進プランの見直しを図る際の基礎的な資料として活用するために実施します。

2. 調査期間

平成 26 年 9 月 26 日（金）～平成 26 年 10 月 10 日（金）

3. テーマ担当課

(1) 危険物（ガソリン、灯油等）に関する意識調査について

・消防局予防部危険物保安課

(2) 大阪 880 万人訓練について

・危機管理室

(3) 生涯学習について

・市民人権局市民生活部生涯学習課

4. 調査方法

(1) 対象

市内在住・在勤・在学の 18 歳以上の方で、公募による市政モニター

(2) 人数

498 人（郵送モニター249 人、eモニター249 人）

(3) 調査方法

調査票（回答用紙）への記入、インターネットを通じたアンケート回答

(4) 回収率

調査対象者 498 人に対して、有効回収数 488 人　回収率 98.0％となった。

5. 報告書の見方

(1) 本調査の集計分析対象とした調査票総数は 488 である。数表中の N は比例算出の基礎となる回答者総数を表している。

(2) 個々の選択肢比率を合算する場合は、個々の回答数の合計をＮで除して百分率を求め、小数点２位を四捨五入した。このため、個々の比率の合計が 100％にならない場合がある。

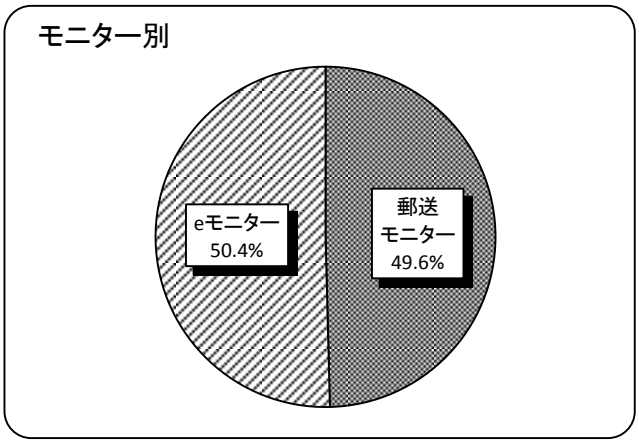
(3) アンケートへの回答は、単数回答と複数回答を求めた設問があり、複数回答を求めた設問では、比率の合計が 100％を超える。

(4) MT(Multiple Total)は、回答総数の N（回答者総数）に対する比を示している。

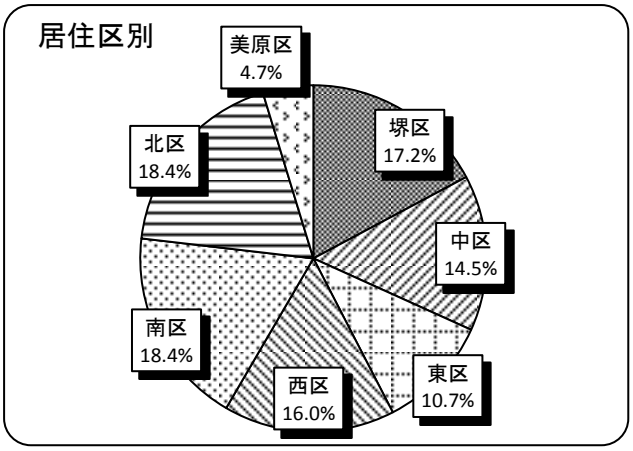
(5) 「その他記述」および「自由回答」に関しては、紙面の都合上、主な内容を集約、抜粋して掲載した。

■ 回答者属性

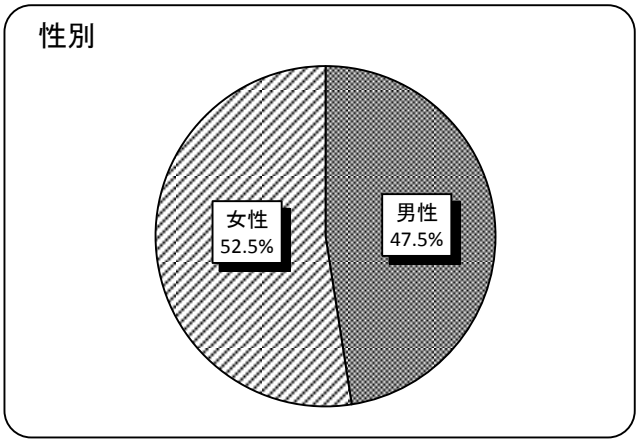
	モニター別	回答数	構成比
1	郵送モニター	242	49.6%
2	eモニター	246	50.4%
	計	488	100.0%



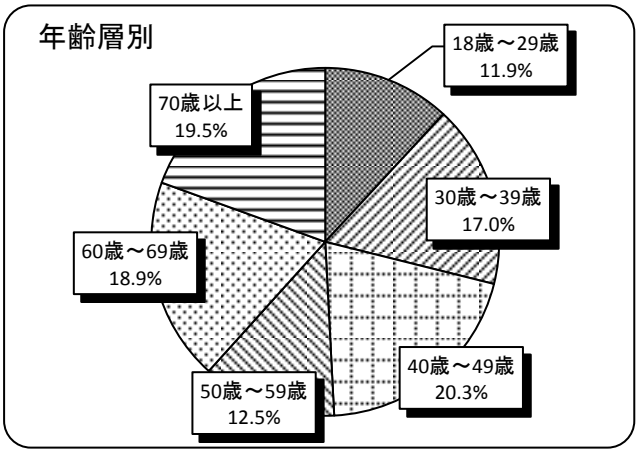
	居住区別	回答数	構成比
1	堺区	84	17.2%
2	中区	71	14.5%
3	東区	52	10.7%
4	西区	78	16.0%
5	南区	90	18.4%
6	北区	90	18.4%
7	美原区	23	4.7%
	計	488	100.0%



	性別	回答数	構成比
1	男性	232	47.5%
2	女性	256	52.5%
	計	488	100.0%



	年齢層別	回答数	構成比
1	18歳～29歳	58	11.9%
2	30歳～39歳	83	17.0%
3	40歳～49歳	99	20.3%
4	50歳～59歳	61	12.5%
5	60歳～69歳	92	18.9%
6	70歳以上	95	19.5%
	計	488	100.0%



1. 危険物（ガソリン、灯油等）に関する意識調査について

(1) 消費者の危険物に関する知識、認識について

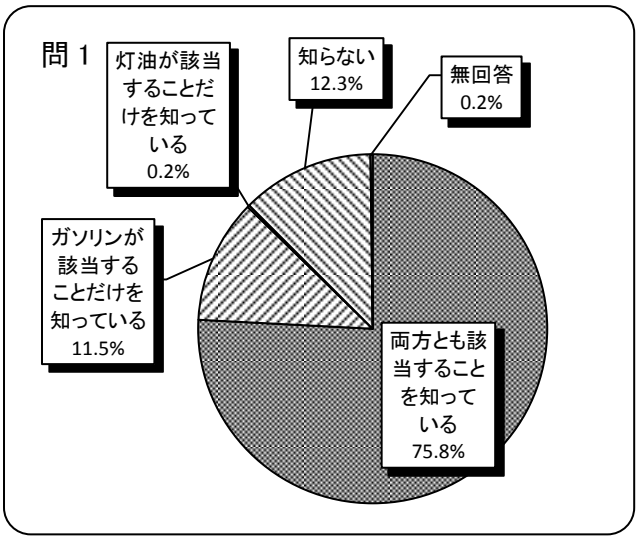
≪ガソリン・灯油に関する認識≫

問１　ガソリンまたは灯油が消防法により定められた危険物に該当することを知っていますか。

【選択は１つ】

７割以上の方が「両方とも該当することを知っている」（75.8%）と回答しているが、「ガソリンが該当することだけを知っている」（11.5%）、「知らない」（12.3%）と回答した方を合わせると、灯油が危険物に該当することを知らない方が 23.8%いることがわかった。このことから、特に灯油が危険物であることを周知することが課題である。

	選択項目（ N= 488 ）	回答数	構成比
1	両方とも該当することを知っている	370	75.8%
2	ガソリンが該当することだけを知っている	56	11.5%
3	灯油が該当することだけを知っている	1	0.2%
4	知らない	60	12.3%
	無回答	1	0.2%
	計（回答総数）	488	100.0%



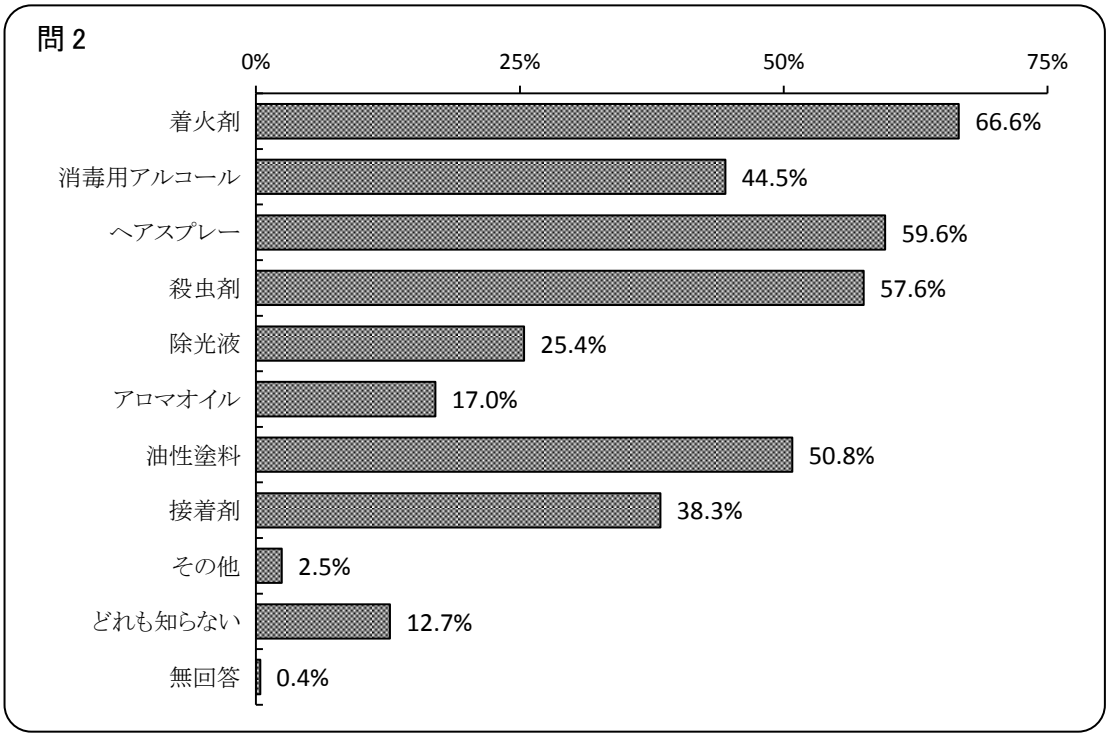
≪身近にある危険物に関する認識≫

問 2　次に掲げるものは、その含まれる成分によっては危険物に該当する場合がありますが、これらのうち知っているものは何ですか。　【複数回答可：いくつでも】

「着火剤」(66.6%)、「ヘアスプレー」(59.6%)、「殺虫剤」(57.6%)、「油性塗料」(50.8%)にあっては、半数以上の方が身近にある危険物として認識している。

一方、「消毒用アルコール」(44.5%)、「接着剤」(38.3%)、「除光液」(25.4%)、「アロマオイル」(17.0%)にあっては、危険物として認識している方が 2～4 割程度となっている。このことから、身近にある危険物の周知をさらに図ることが必要である。

	選択項目(N= 488) (MT= 375.4%)	回答数	構成比
1	着火剤	325	66.6%
2	消毒用アルコール	217	44.5%
3	ヘアスプレー	291	59.6%
4	殺虫剤	281	57.6%
5	除光液	124	25.4%
6	アロマオイル	83	17.0%
7	油性塗料	248	50.8%
8	接着剤	187	38.3%
9	その他	12	2.5%
10	どれも知らない	62	12.7%
	無回答	2	0.4%
	計(回答総数)	1,832	375.4%



[9 その他]

【主な意見】

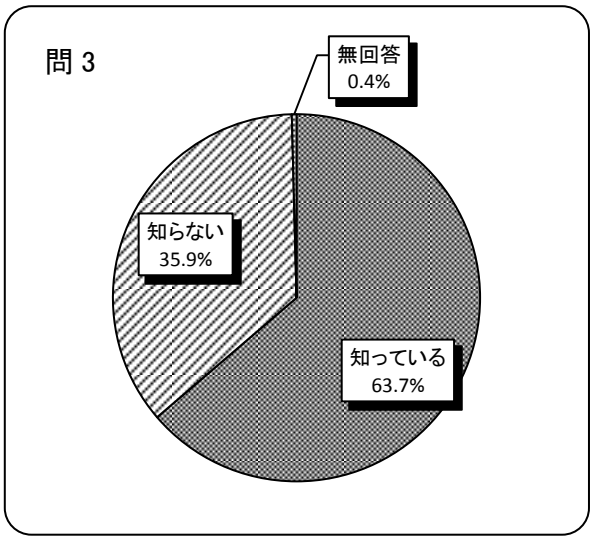
- シンナー
- ベンジン
- エンジンオイル

≪許可制度に関する認識≫

問 3　危険物について、法律で定められた数量（以下「指定数量」という。）以上を貯蔵（保管）または取り扱おうとする場合は、許可が必要になることを知っていますか。　【選択は 1 つ】

「知っている」(63.7%)、「知らない」(35.9%)となっており、6 割以上の方が許可制度を知っていることがわかった。

	選択項目(N= 488)	回答数	構成比
1	知っている	311	63.7%
2	知らない	175	35.9%
	無回答	2	0.4%
	計(回答総数)	488	100.0%

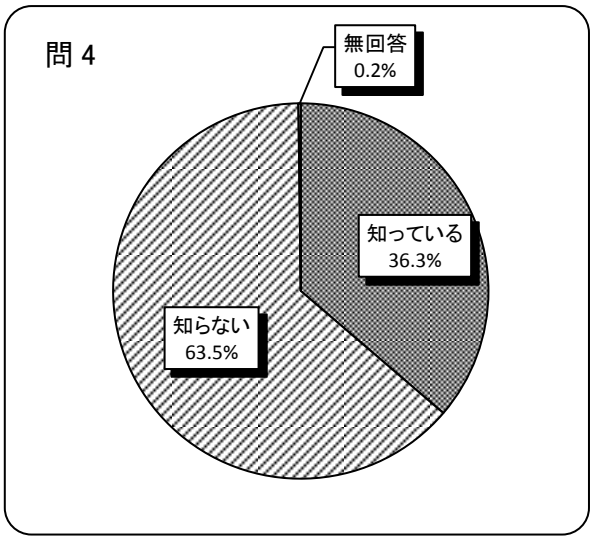


≪届出制度に関する認識≫

問 4　指定数量未満であっても、一定数量以上の危険物を貯蔵（保管）または取り扱おうとする場合は、堺市火災予防条例により届出が必要になることを知っていますか。　【選択は 1 つ】

「知っている」(36.3%)、「知らない」(63.5%)となっており、問 3 の許可制度は知っていても、堺市火災予防条例による届出制度は 6 割以上の方が知らないことがわかった。このことから、届出制度のより一層の周知を図ることが課題である。

	選択項目(N= 488)	回答数	構成比
1	知っている	177	36.3%
2	知らない	310	63.5%
	無回答	1	0.2%
	計(回答総数)	488	100.0%



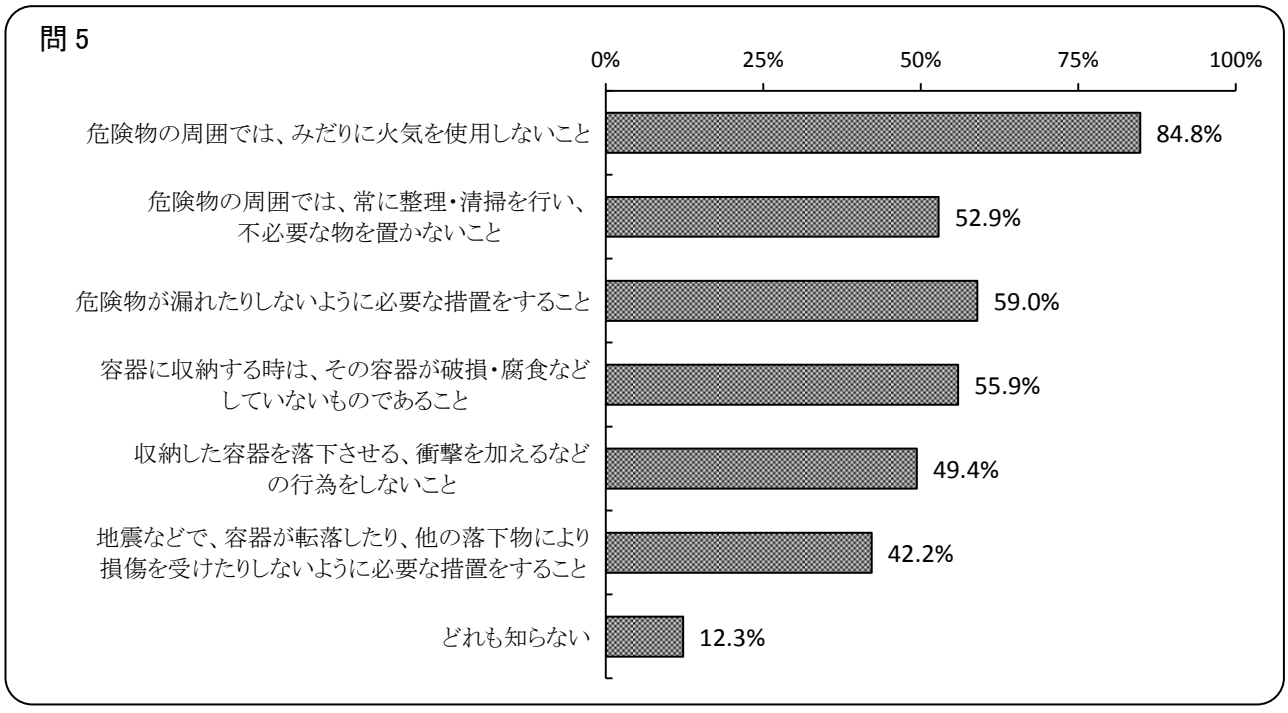
≪堺市火災予防条例に関する知識≫

問５　下記事項は、堺市火災予防条例により一般のご家庭などで危険物を貯蔵（保管）または取り扱う場合に守らなければならない内容ですが、これらのうち知っているものは何ですか。

【複数回答可：いくつでも】

危険物を貯蔵または取り扱ううえで守らなければならない内容について、それぞれの項目で概ね半数以上の方が知っていると回答しており、危険物の貯蔵、取扱いに対し注意しなければならないという認識を持っていることがわかった。

	選択項目（N= 488 ）（ MT= 356.6% ）	回答数	構成比
1	危険物の周囲では、みだりに火気を使用しないこと	414	84.8%
2	危険物の周囲では、常に整理・清掃を行い、不必要な物を置かないこと	258	52.9%
3	危険物が漏れたりしないように必要な措置をすること	288	59.0%
4	容器に収納する時は、その容器が破損・腐食などしていないものであること	273	55.9%
5	収納した容器を落下させる、衝撃を加えるなどの行為をしないこと	241	49.4%
6	地震などで、容器が転落したり、他の落下物により損傷を受けたりしないように必要な措置をすること	206	42.2%
7	どれも知らない	60	12.3%
	計（回答総数）	1,740	356.6%

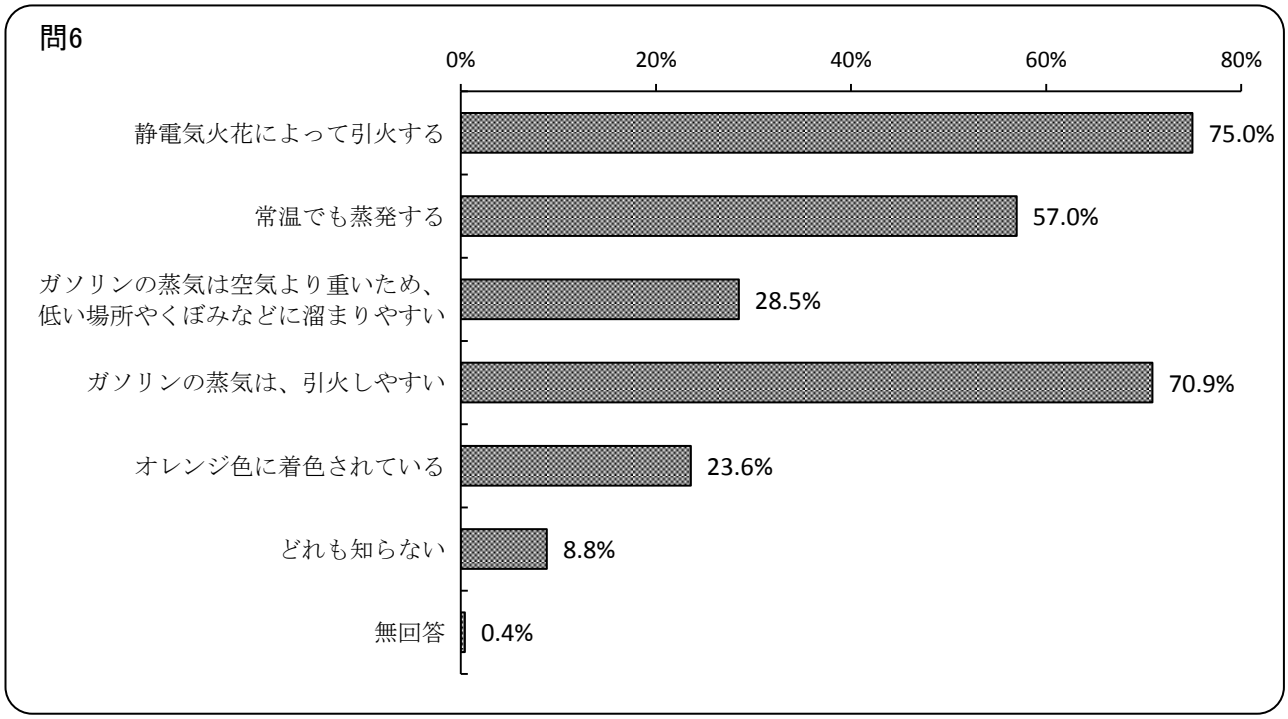


≪ガソリンの性質に関する知識≫

問 6　ガソリンの主な性質について、次のうち知っているものは何ですか。【複数回答可:いくつでも】

「静電気火花によって引火する」(75.0%)、「ガソリンの蒸気は、引火しやすい」(70.9%)、といった火災になり得る性質に関しては、7割以上の方が知っていたが、その他の性質にあっては、「常温でも蒸発する」(57.0%)以外は、2割程度とあまり知られていないことがわかった。

	選択項目(N= 488) (MT= 264.1%)	回答数	構成比
1	静電気火花によって引火する	366	75.0%
2	常温でも蒸発する	278	57.0%
3	ガソリンの蒸気は空気より重いため、低い場所やくぼみなどに溜まりやすい	139	28.5%
4	ガソリンの蒸気は、引火しやすい	346	70.9%
5	オレンジ色に着色されている	115	23.6%
6	どれも知らない	43	8.8%
	無回答	2	0.4%
	計(回答総数)	1,289	264.1%

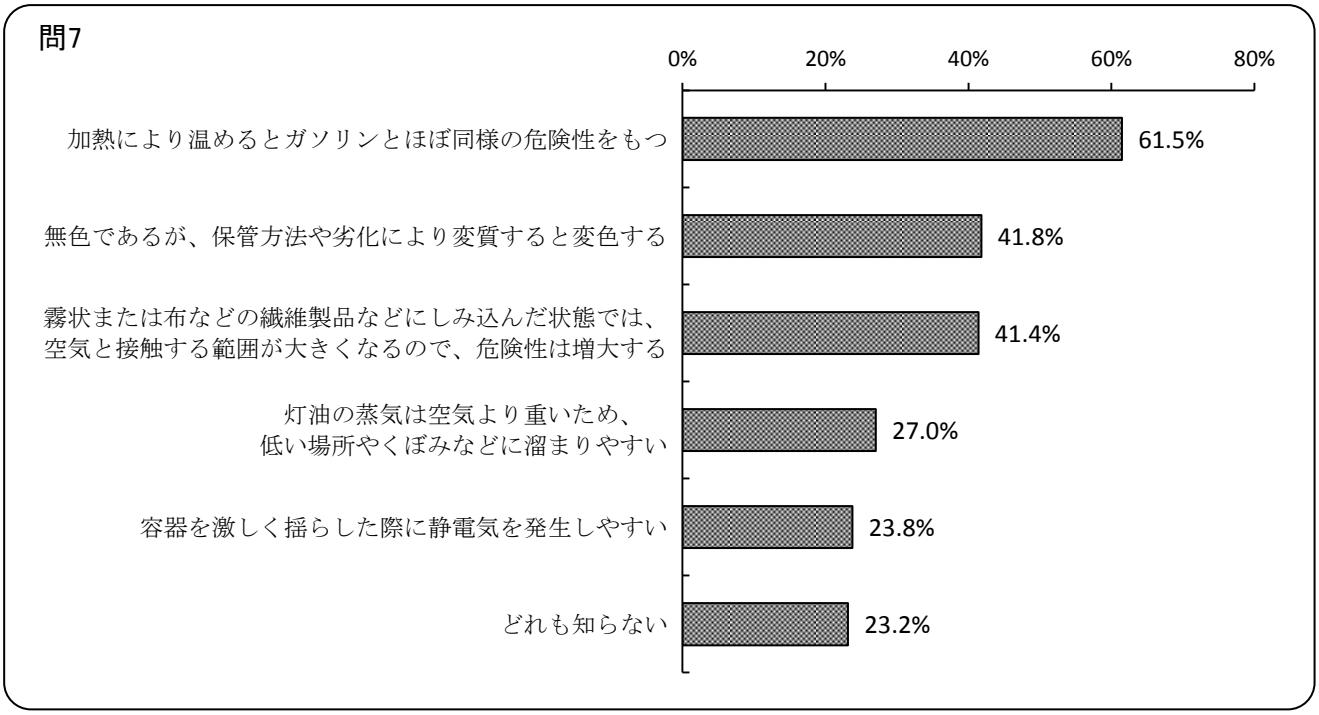


≪灯油の性質に関する知識≫

問 7　灯油の主な性質について、次のうち知っているものは何ですか。【複数回答可:いくつでも】

「加熱により温めるとガソリンとほぼ同様の危険性をもつ」(61.5%)を知っていた方は6割程度であったが、その他の性質にあっては、2～4 割程度とあまり知られていないことがわかった。また、「どれも知らない」が23.2%と多く、灯油の性質を周知する必要がある。

	選択項目(N= 488) (MT= 218.6%)	回答数	構成比
1	加熱により温めるとガソリンとほぼ同様の危険性をもつ	300	61.5%
2	無色であるが、保管方法や劣化により変質すると変色する	204	41.8%
3	霧状または布などの繊維製品などにしみ込んだ状態では、空気と接触する範囲が大きくなるので、危険性は増大する	202	41.4%
4	灯油の蒸気は空気より重いため、低い場所やくぼみなどに溜まりやすい	132	27.0%
5	容器を激しく揺らした際に静電気を発生しやすい	116	23.8%
6	どれも知らない	113	23.2%
	計(回答総数)	1,067	218.6%

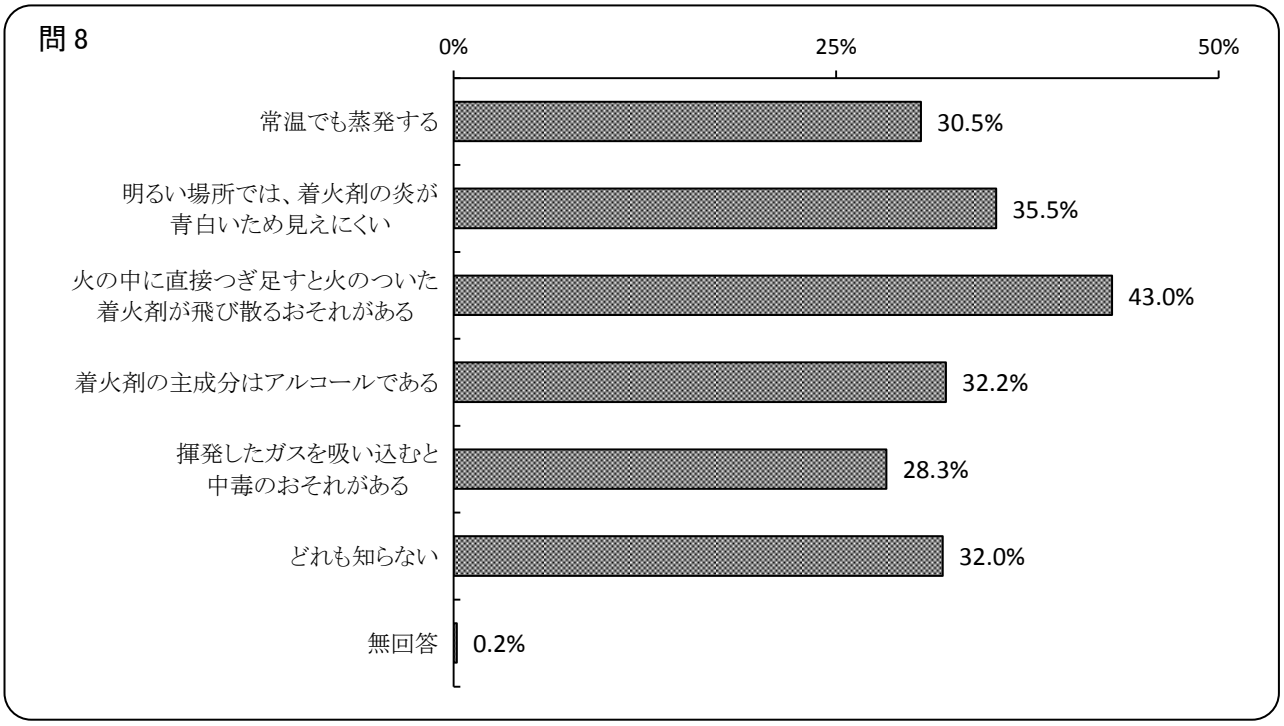


≪着火剤の性質に関する知識≫

問 8　着火剤の主な性質について、次のうち知っているものは何ですか。【複数回答可：いくつでも】

各性質とも認知度は 3～4 割程度しかなく、内容の周知を図ることが課題である。

	選択項目（N= 488 ）（ MT= 201.6% ）	回答数	構成比
1	常温でも蒸発する	149	30.5%
2	明るい場所では、着火剤の炎が青白いため見えにくい	173	35.5%
3	火の中に直接つぎ足すと火のついた着火剤が飛び散るおそれがある	210	43.0%
4	着火剤の主成分はアルコールである	157	32.2%
5	揮発したガスを吸い込むと中毒のおそれがある	138	28.3%
6	どれも知らない	156	32.0%
	無回答	1	0.2%
	計（回答総数）	984	201.6%



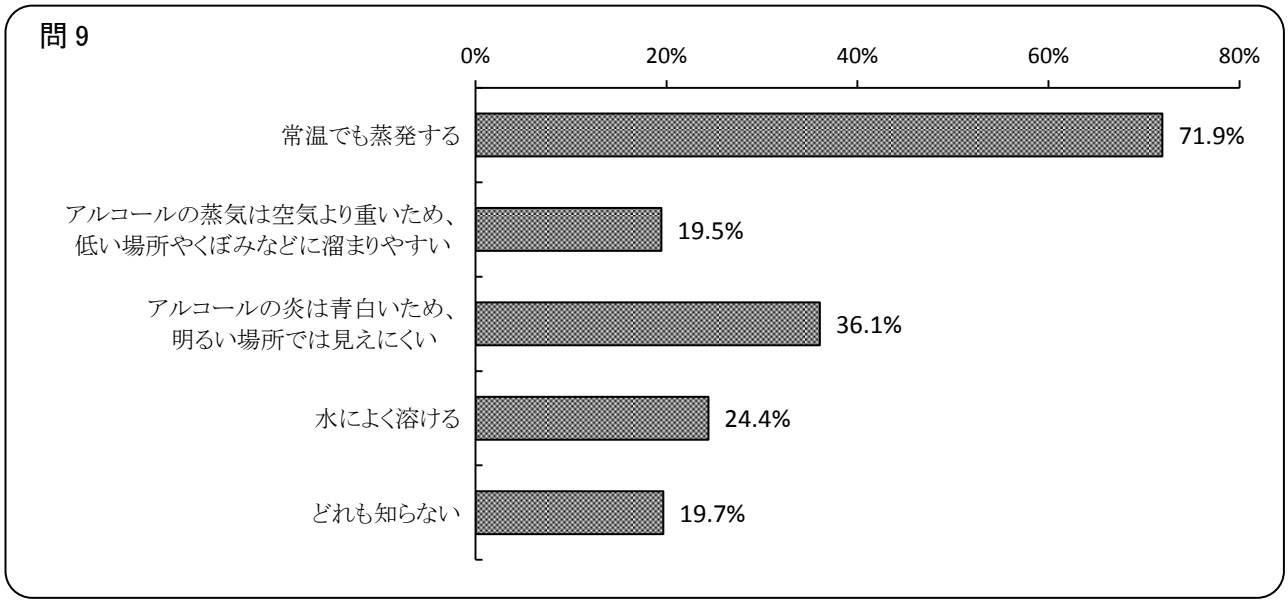
≪消毒用アルコールの性質に関する知識≫

問 9　消毒用アルコールの主な性質について、次のうち知っているものは何ですか。

【複数回答可：いくつでも】

「常温でも蒸発する」(71.9%)を知っている方は 7 割となっていたが、その他の性質は、2～3 割程度とあまり知られていないことがわかった。

	選択項目(N= 488) (MT= 171.5%)	回答数	構成比
1	常温でも蒸発する	351	71.9%
2	アルコールの蒸気は空気より重いため、低い場所やくぼみなどに溜まりやすい	95	19.5%
3	アルコールの炎は青白いため、明るい場所では見えにくい	176	36.1%
4	水によく溶ける	119	24.4%
5	どれも知らない	96	19.7%
	計(回答総数)	837	171.5%

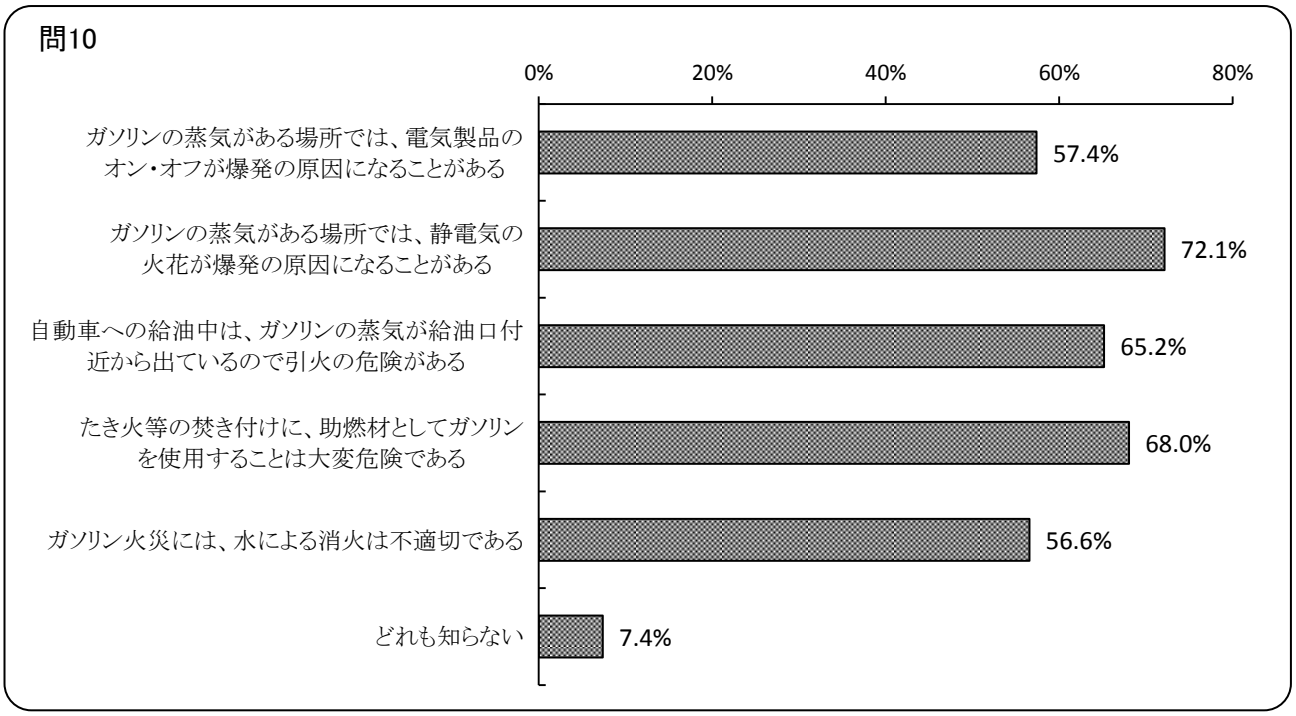


≪ガソリンの取扱いに関する知識≫

問 10　ガソリンの正しい取扱いについて、次のうち知っているものは何ですか。【複数回答可：いくつでも】

「ガソリンの蒸気がある場所では、静電気の火花が爆発の原因になることがある」が 72.1%と最も多く、それ以外の知識についても 50%以上の認知度があった。

	選択項目(N= 488) (MT= 326.6%)	回答数	構成比
1	ガソリンの蒸気がある場所では、電気製品のオン・オフが爆発の原因になることがある	280	57.4%
2	ガソリンの蒸気がある場所では、静電気の火花が爆発の原因になることがある	352	72.1%
3	自動車への給油中は、ガソリンの蒸気が給油口付近から出ているので引火の危険がある	318	65.2%
4	たき火等の焚き付けに、助燃材としてガソリンを使用することは大変危険である	332	68.0%
5	ガソリン火災には、水による消火は不適切である	276	56.6%
6	どれも知らない	36	7.4%
	計(回答総数)	1,594	326.6%

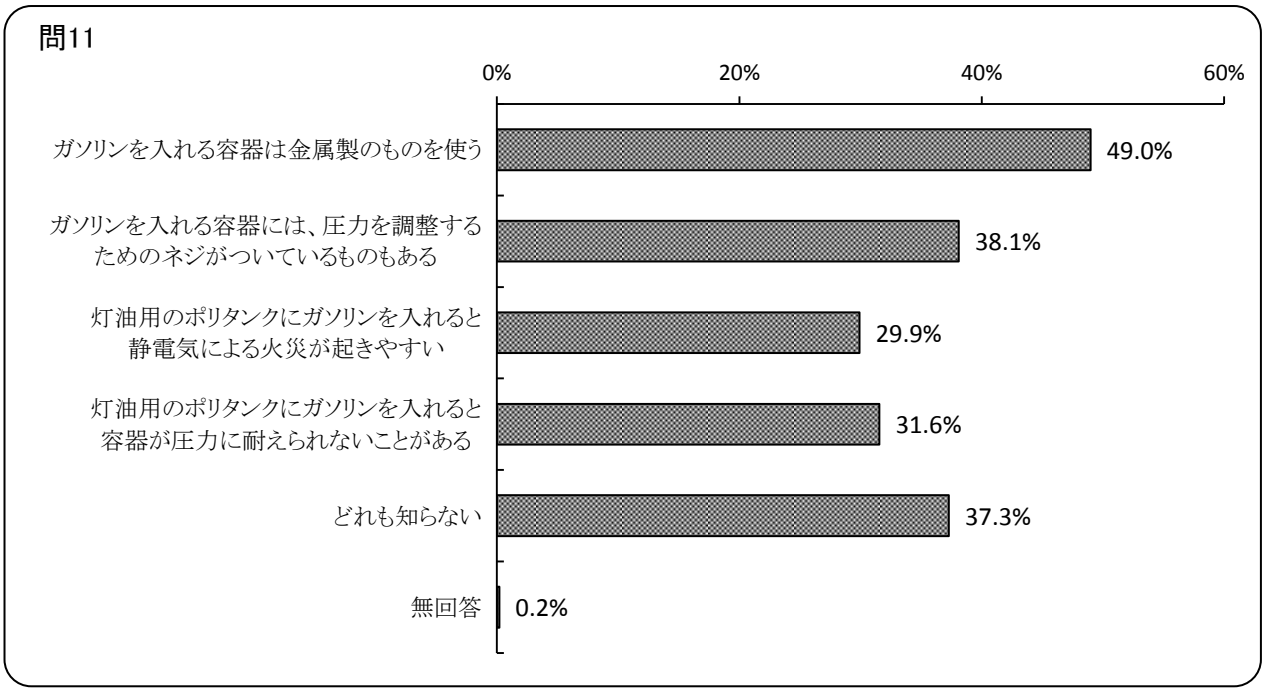


≪ガソリン容器に関する知識≫

問 11　ガソリンを入れる容器について、次のうち知っているものは何ですか。【複数回答可：いくつでも】

「ガソリンを入れる容器は金属製のものを使う」(49.0%)が最も多いものの、全ての項目が 5 割以下であり、「どれも知らない」も 37.3%と多いことから、ガソリン容器に関する知識の周知を図ることが課題である。

	選択項目(N= 488) (MT= 186.1%)	回答数	構成比
1	ガソリンを入れる容器は金属製のものを使う	239	49.0%
2	ガソリンを入れる容器には、圧力を調整するためのネジがついているものもある	186	38.1%
3	灯油用のポリタンクにガソリンを入れると静電気による火災が起きやすい	146	29.9%
4	灯油用のポリタンクにガソリンを入れると容器が圧力に耐えられないことがある	154	31.6%
5	どれも知らない	182	37.3%
	無回答	1	0.2%
	計(回答総数)	908	186.1%



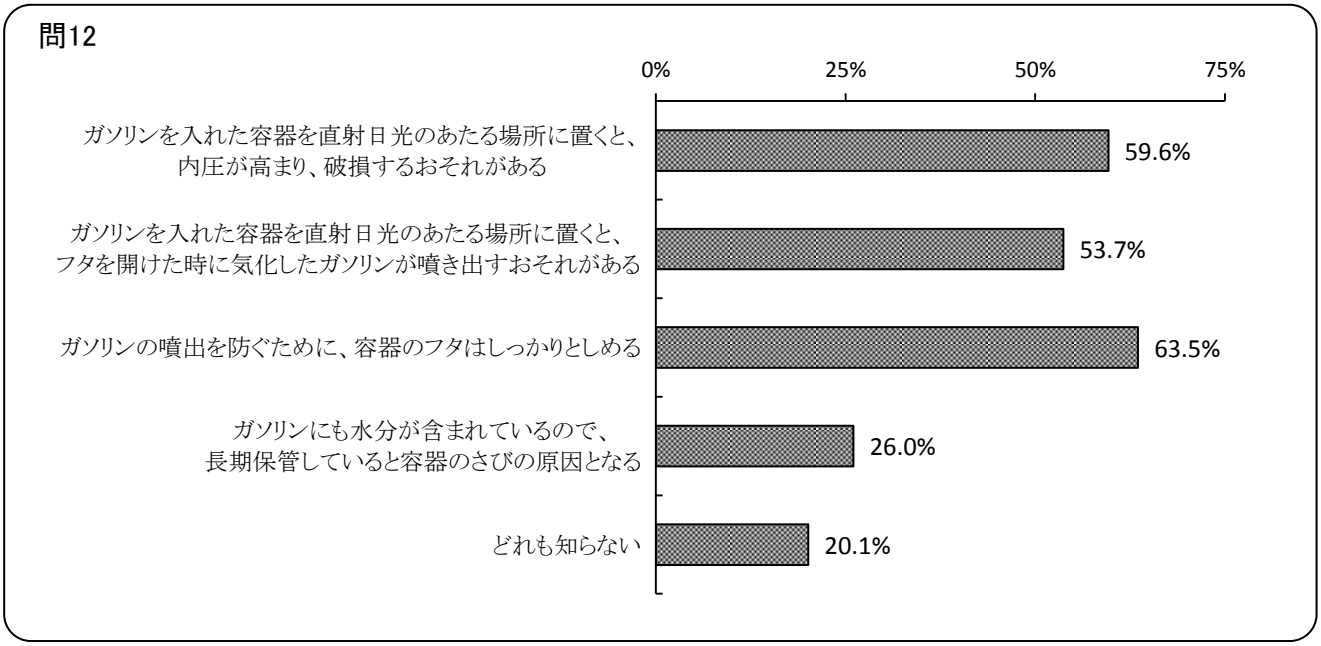
≪ガソリンの保管に関する知識≫

問 12　ガソリンの正しい保管方法について、次のうち知っているものは何ですか。

【複数回答可：いくつでも】

「ガソリンにも水分が含まれているので、長期保管していると容器のさびの原因となる」（26.0%）以外の知識は、50%以上の認知度があった。

	選択項目（ N= 488 ）（ MT= 223.0% ）	回答数	構成比
1	ガソリンを入れた容器を直射日光のあたる場所に置くと、内圧が高まり、破損するおそれがある	291	59.6%
2	ガソリンを入れた容器を直射日光のあたる場所に置くと、フタを開けた時に気化したガソリンが噴き出すおそれがある	262	53.7%
3	ガソリンの噴出を防ぐために、容器のフタはしっかりとしめる	310	63.5%
4	ガソリンにも水分が含まれているので、長期保管していると容器のさびの原因となる	127	26.0%
5	どれも知らない	98	20.1%
	計（回答総数）	1,088	223.0%

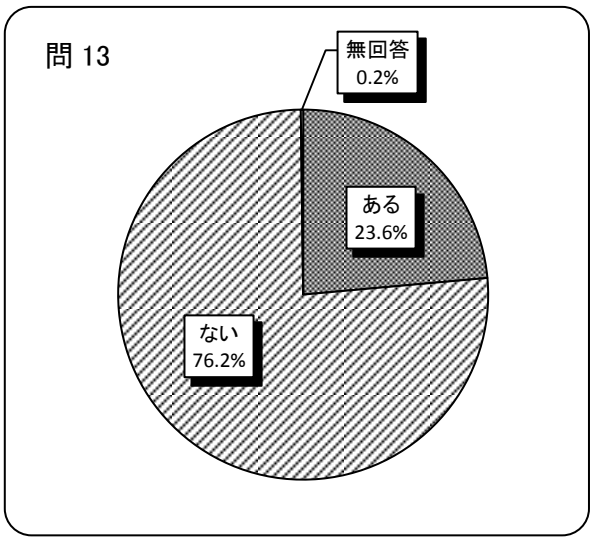


≪危険物に関する教育状況≫

問 13　危険物に関して、その危険性や貯蔵または取扱い時の注意事項について、教わったことがありますか。　【選択は1つ】

7割以上の方が教わったことが「ない」(76.2%)ことがわかった。

	選択項目(N= 488)	回答数	構成比
1	ある	115	23.6%
2	ない	372	76.2%
	無回答	1	0.2%
	計(回答総数)	488	100.0%

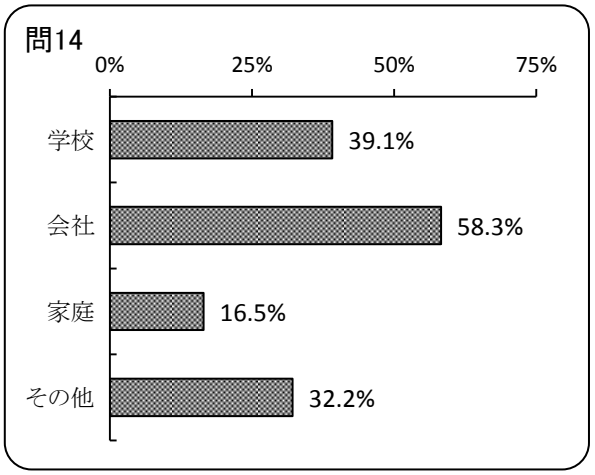


≪危険物に関する教育の場所≫

問 14　問 13 で「1 ある」と回答された方にお伺いします。どのような場所で教わりましたか。
【複数回答可:いくつでも】

「会社」(58.3%)が最も多く、次いで「学校」(39.1%)、「家庭」(16.5%)と続いている。

	選択項目 (N= 115) (MT= 146.1%)	回答数	構成比
1	学校	45	39.1%
2	会社	67	58.3%
3	家庭	19	16.5%
4	その他	37	32.2%
	計(回答総数)	168	146.1%



[4 その他]

【主な意見】

- テレビ、新聞
- 危険物取扱者の資格取得
- ガソリンスタンド

≪危険物に関する教育の内容≫

問 15　問 13 で「1 ある」と回答された方にお伺いします。
具体的にどのような内容を教わりましたか。【自由記述】

【危険物全般について】

- 性質や取扱い方法について
- 引火しやすい服装（静電気が起きやすいもの）は避けるように注意があった。
- 保管場所・保管状態・保管量など守らなければならないことがある。

【ガソリン、灯油について】

- 灯油を給油する際、ストーブの火を完全に消してから給油する。
- 灯油やガソリンは引火しやすいので、火の気のあるところには置かない。
- セルフのガソリンスタンドでガソリンを給油するときは、静電気除去をしないと危険である。
- ガソリンを給油するときは、車のエンジンを止めないと引火の恐れがあり危険である。
- ガソリンは専用容器に入れる。

【その他の危険物について】

- アロマオイルのついた衣服を乾燥機にいれない。
- ヘアスプレー缶を捨てる時は完全にガスを抜き切る。

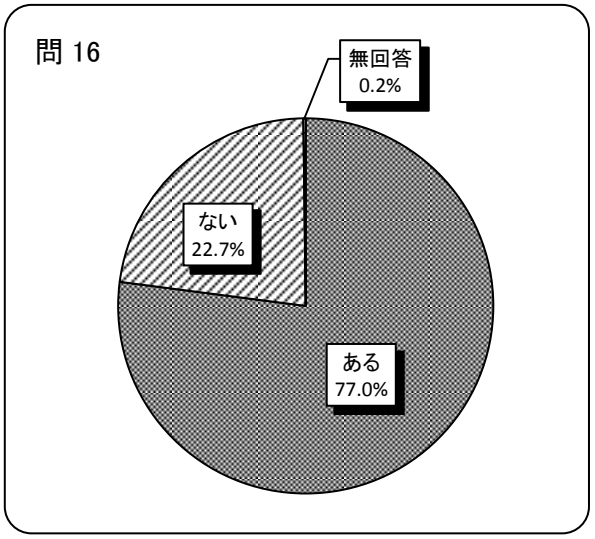
(2) ガソリン、灯油販売時における消費者への助言や注意喚起の実態について

≪ガソリン、灯油の購入の実態≫

問 16　ガソリン、灯油を実際に購入したことがありますか。　【選択は 1 つ】

「ある」が 77.0%と、概ね 8 割の方が実際にガソリン、灯油を購入したことがあることがわかった。

	選択項目(N= 488)	回答数	構成比
1	ある	376	77.0%
2	ない	111	22.7%
	無回答	1	0.2%
	計(回答総数)	488	100.0%

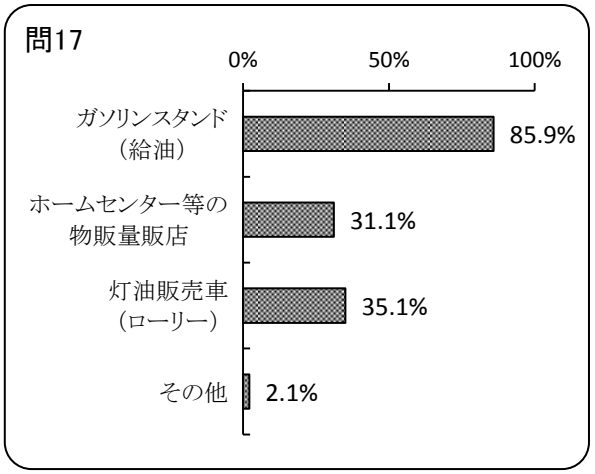


≪ガソリン、灯油の購入場所≫

問 17　問 16 で「1 ある」と回答された方にお伺いします。どのような場所で購入しましたか。
【複数回答可:いくつでも】

8 割以上の方が「ガソリンスタンド(給油)」(85.9%)で購入しており、次いで「灯油販売車(ローリー)」(35.1%)、「ホームセンター等の物販量販店」(31.1%)と続いている。

	選択項目 (N= 376) (MT= 154.3%)	回答数	構成比
1	ガソリンスタンド(給油)	323	85.9%
2	ホームセンター等の物販量販店	117	31.1%
3	灯油販売車(ローリー)	132	35.1%
4	その他	8	2.1%
	計(回答総数)	580	154.3%



[4 その他]

【主な意見】

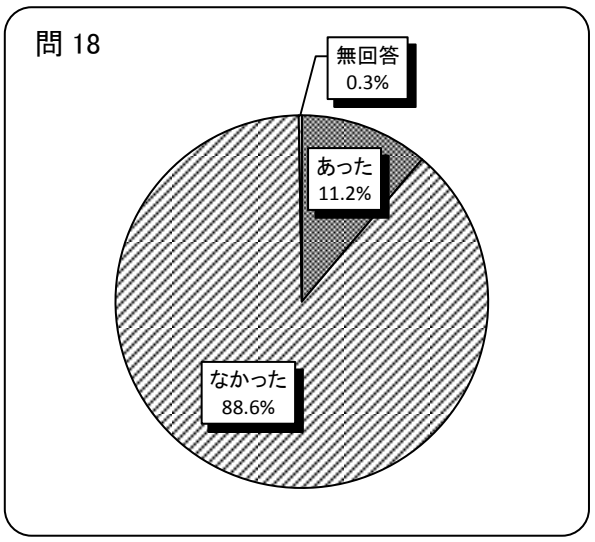
- 酒屋
- 灯油販売店
- アウトドアショップ

≪販売者からの助言の実態≫

問 18　問 16 で「1 ある」と回答された方にお伺いします。
購入する際、販売者から危険物の取扱いなどに関する助言はありましたか。
※複数回購入し、1回でも助言があった場合は、「1 あった」と回答してください。　【選択は 1 つ】

購入する際、販売者から危険物の取扱いなどに関する助言が「なかった」と答えた方が 88.6%となっていることから、販売者を通じた広報を充実する必要がある。

	選択項目(N= 376)	回答数	構成比
1	あった	42	11.2%
2	なかった	333	88.6%
	無回答	1	0.3%
	計(回答総数)	376	100.0%



≪販売者からの助言の内容≫

問 19　問 18 で「1 あった」と回答された方にお伺いします。
どのような助言をされましたか。【自由記述】

【取扱いについて】

- 近くに引火するものを置いてはいけないと言われた。
- 吹きこぼれがないように取り扱うよう言われた。
- 車への給油中はタバコの火を消すよう言われた。
- 車への給油時に、静電気除去シートに触れるよう言われた。
- 給油中はエンジンをきるように言われた。

【保管について】

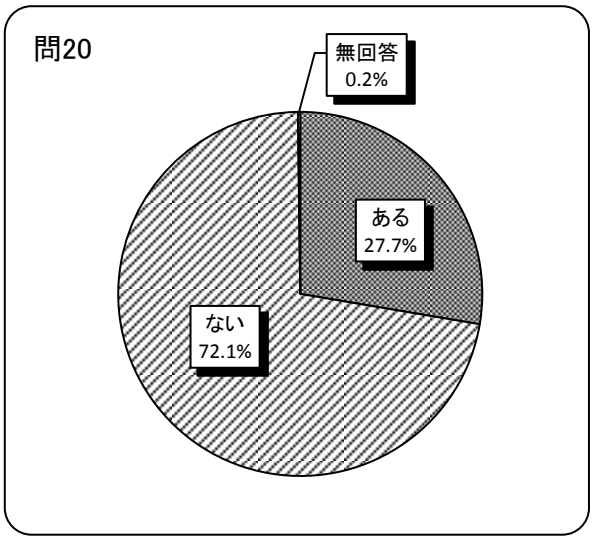
- 容器の蓋をしっかりと閉めておくよう言われた。
- 長期の保存は変質するので避けるよう言われた。
- 日の当たる場所を避け、風通しの良いところに置くよう言われた。

≪注意喚起に関する実態≫

問 20　ガソリン、灯油を購入する際または見かけた際に、注意事項が記載されたチラシや看板等を見たことはありますか。　【選択は 1 つ】

注意事項が記載されたチラシや看板等を見たことが「ない」(72.1%)と答えた方が7割以上いることから、販売時に注意喚起を促すよう販売店へ積極的に働きかける必要がある。

	選択項目(N= 488)	回答数	構成比
1	ある	135	27.7%
2	ない	352	72.1%
	無回答	1	0.2%
	計(回答総数)	488	100.0%



≪注意喚起の内容≫

問 21　問 20 で「1 ある」と回答された方にお伺いします。
注意事項とはどのような内容でしたか。　【自由記述】

【車への給油時に関する内容について】

- 給油中は車のエンジンを停止してください。
- 給油口から目を離さないでください。
- 静電気除去シートに必ず触れてください。
- セルフスタンドでは、ポリタンク等に自分で給油することは禁じられている。

【灯油について】

- 古い灯油は使用しない。
- 給油はストーブの火を消してから行ってください。
- 灯油の保管場所、並びに使用時の注意事項の看板やチラシが貼ってあった。
- 石油ストーブを使うときはこまめに換気をすること。

【その他の内容について】

- 火気厳禁
- 取扱注意
- ガソリンをポリタンクに入れてはならない。
- 気化しやすいのでフタをきちんとしめて直射日光のあたるところに置かないこと。
- 子どもや幼児に触らせないこと。

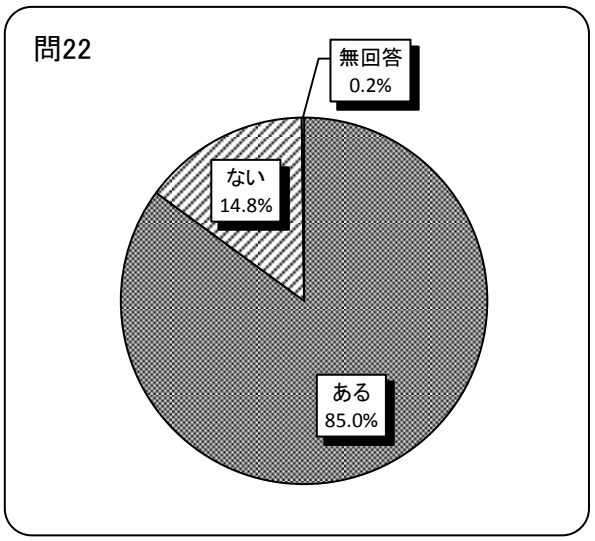
(3) 消費者によるガソリン、灯油の取扱いの実態について

≪ガソリン、灯油の使用経験≫

問 22　ガソリン、灯油を実際に使用した経験はありますか。　【選択は 1 つ】

「ある」が 85.0%と、8 割以上の方がガソリン、灯油を実際に使用した経験があることがわかった。

	選択項目(N= 488)	回答数	構成比
1	ある	415	85.0%
2	ない	72	14.8%
	無回答	1	0.2%
	計(回答総数)	488	100.0%

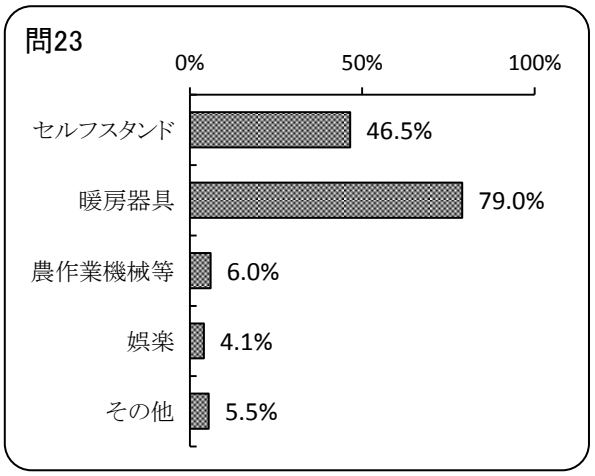


≪ガソリン、灯油の使用用途≫

問 23　問 22 で「1 ある」と回答された方にお伺いします。ガソリン、灯油をどこで使用されましたか。
【複数回答可:いくつでも】

「暖房器具」(79.0%)で使用したことがある方が最も多く、次いで「セルフスタンド」(46.5%)となっている。「農作業機械等」(6.0%)や「娯楽」(4.1%)は数%程度と少なかった。

	選択項目 (N= 415) (MT= 141.2%)	回答数	構成比
1	セルフスタンド	193	46.5%
2	暖房器具	328	79.0%
3	農作業機械等	25	6.0%
4	娯楽	17	4.1%
5	その他	23	5.5%
	計(回答総数)	586	141.2%



[5 その他]

【主な意見】

- 車、バイク
- アウトドアでの発電機、灯具、炊飯等
- エンジンポンプ
- 消火実験
- 機械洗浄

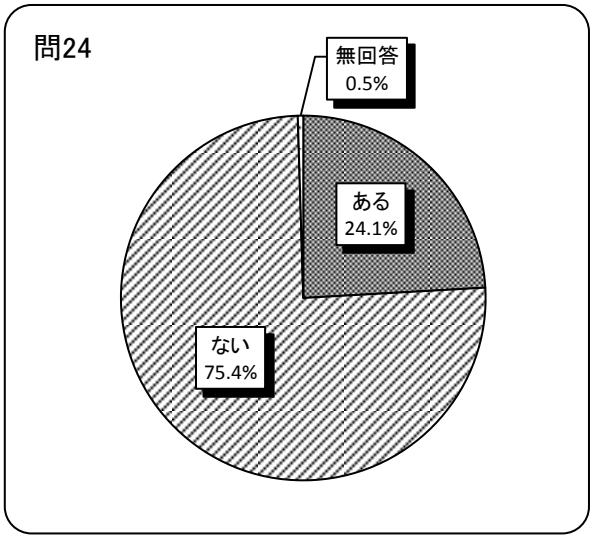
≪ガソリン、灯油の誤った取扱いの経験≫

問 24　問 22 で「1 ある」と回答された方にお伺いします。ガソリン、灯油に関係する火災や事故の原因となる次の行動のうち、いずれかを経験したことがありますか。　【選択は1つ】

・灯油用のポリタンクにガソリンを入れる
・セルフスタンドでガソリン車以外（携行缶や機械など）に入れる
・セルフスタンドで静電気除去シートを触らずに給油する
・ガソリンスタンドでエンジンを停止しないまま給油する
・石油ストーブやファンヒーターを使用しながら灯油を補給する

「ある」が 24.1%と、概ね 2 割の方がガソリン、灯油の誤った取扱いの経験があることがわかった。

	選択項目(N= 415)	回答数	構成比
1	ある	100	24.1%
2	ない	313	75.4%
	無回答	2	0.5%
	計(回答総数)	415	100.0%



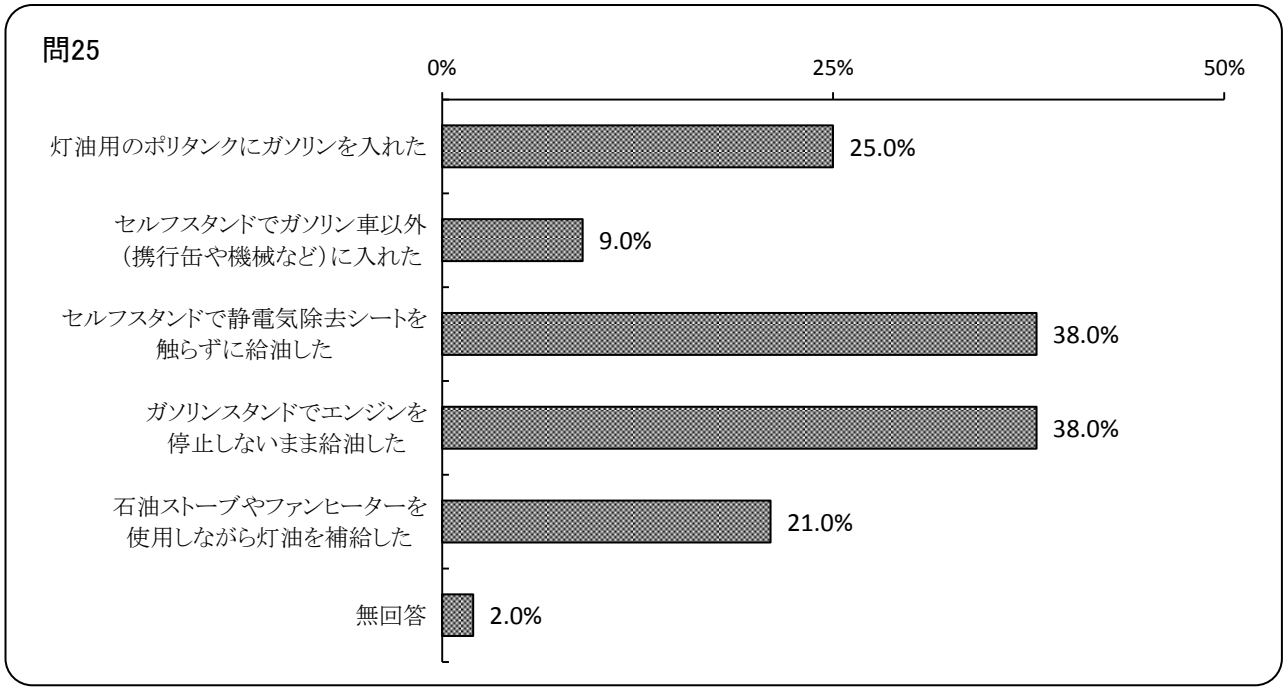
≪ガソリン、灯油の誤った取扱い方法≫

問 25　問 24 で「1 ある」と回答された方にお伺いします。経験があるものは何ですか。

【複数回答可：いくつでも】

「セルフスタンドで静電気除去シートを触らずに給油した」(38 人)と「ガソリンスタンドでエンジンを停止しないまま給油した」(38 人)が最も多く、次いで「灯油用のポリタンクにガソリンを入れた」(25 人)、「石油ストーブやファンヒーターを使用しながら灯油を補給した」(21 人)、「セルフスタンドでガソリン車以外(携行缶や機械など)に入れた」(9 人)と続いている。

	選択項目(N= 100) (MT= 133.0%)	回答数	構成比
1	灯油用のポリタンクにガソリンを入れた	25	25.0%
2	セルフスタンドでガソリン車以外(携行缶や機械など)に入れた	9	9.0%
3	セルフスタンドで静電気除去シートを触らずに給油した	38	38.0%
4	ガソリンスタンドでエンジンを停止しないまま給油した	38	38.0%
5	石油ストーブやファンヒーターを使用しながら灯油を補給した	21	21.0%
	無回答	2	2.0%
	計(回答総数)	133	133.0%

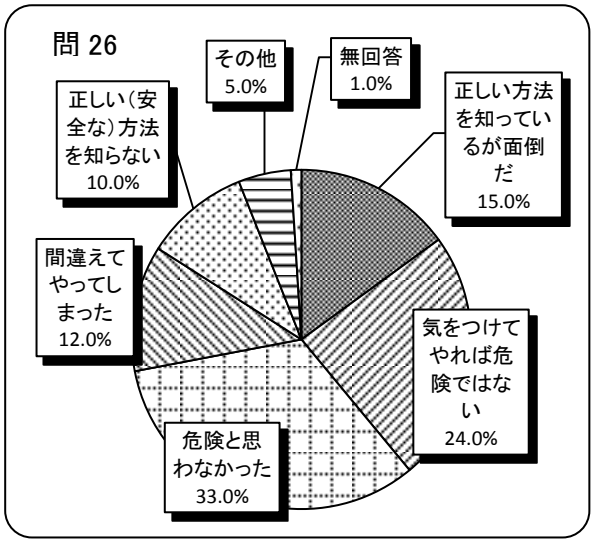


≪消費者のガソリン、灯油の取扱いに関する認識≫

問 26　問 24 で「1 ある」と回答された方にお伺いします。
その時の気持ちを表現すると一番あてはまるものは何ですか。　【選択は1つ】

「正しい方法を知っているが面倒だ」(15.0%)と「気をつけてやれば危険ではない」(24.0%)を合わせると、概ね 4 割の方がガソリン、灯油の取扱いに際して、危険性を認識しているにもかかわらず、不適切な行動を取っていることがわかる。また、「危険と思わなかった」(33.0%)と「正しい(安全な)方法を知らない」(10.0%)も合わせると、概ね 4 割の方がガソリン、灯油に関する知識が不足していることがわかる。

	選択項目(N= 100)	回答数	構成比
1	正しい方法を知っているが面倒だ	15	15.0%
2	気をつけてやれば危険ではない	24	24.0%
3	危険と思わなかった	33	33.0%
4	間違えてやってしまった	12	12.0%
5	正しい(安全な)方法を知らない	10	10.0%
6	その他	5	5.0%
	無回答	1	1.0%
	計(回答総数)	100	100.0%



[6 その他]

【主な意見】

- 給油の際、クーラーを切りたくなかったから。

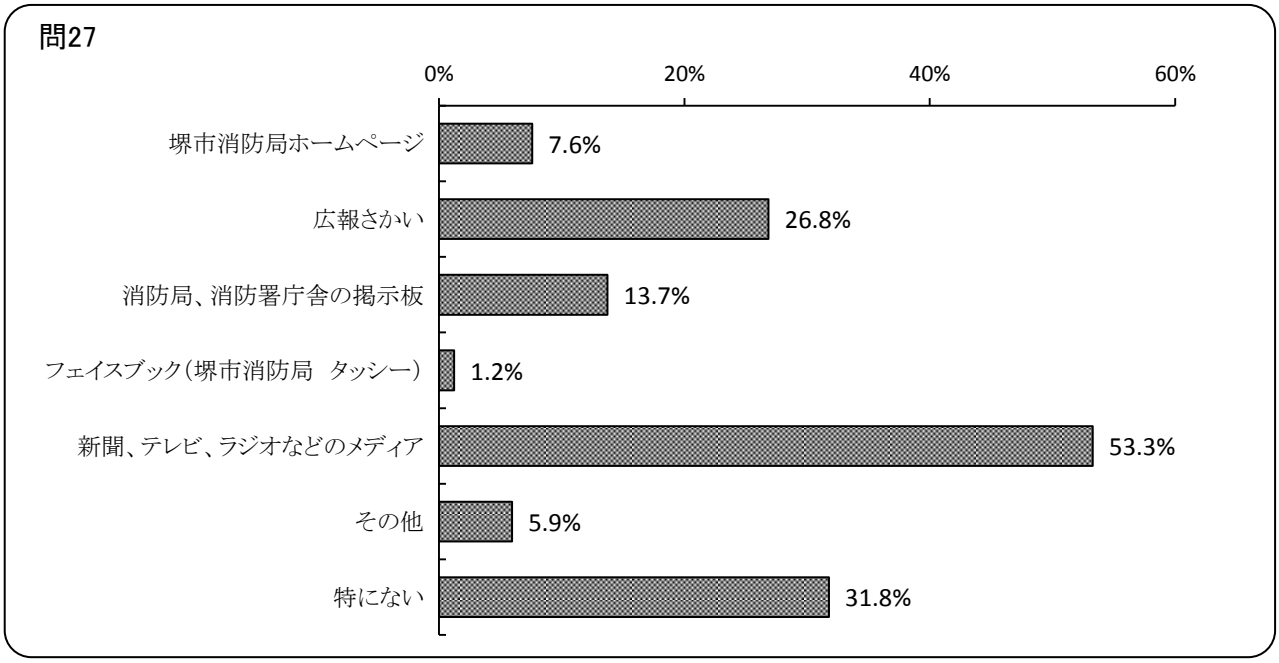
(4) 消防局の取組への理解度・認知度について

≪危険物に関する情報の収集方法≫

問 27　危険物に関する情報は主に何から得ていますか。　【複数回答可:いくつでも】

危険物に関する情報の収集方法としては、「新聞、テレビ、ラジオなどのメディア」(53.3%)が最も多く、次いで「広報さかい」(26.8%)、「消防局、消防署庁舎の掲示板」(13.7%)、「堺市消防局ホームページ」(7.6%)と続いている。

	選択項目(N= 488) (MT= 140.4%)	回答数	構成比
1	堺市消防局ホームページ	37	7.6%
2	広報さかい	131	26.8%
3	消防局、消防署庁舎の掲示板	67	13.7%
4	フェイスブック(堺市消防局　タッシー)	6	1.2%
5	新聞、テレビ、ラジオなどのメディア	260	53.3%
6	その他	29	5.9%
7	特にない	155	31.8%
	計(回答総数)	685	140.4%



[6 その他]

【主な意見】

- 学校
- 家族
- 石油ストーブやファンヒーターの取扱説明書
- 会社の業務

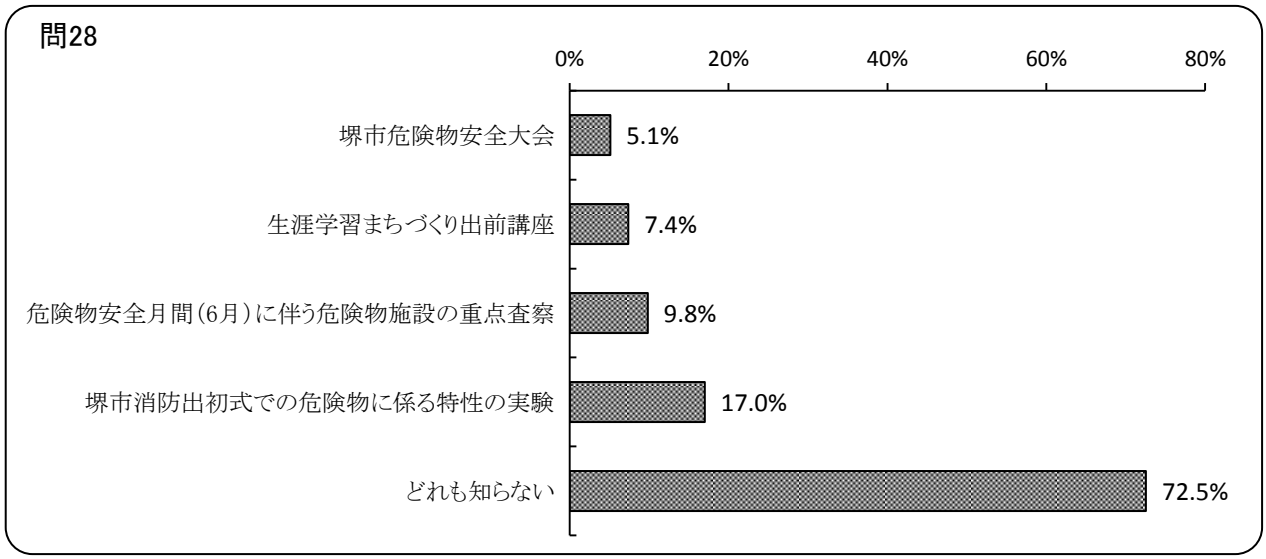
≪消防局の取組に関する認知度≫

問 28　危険物に関する内容で消防局が行っている行事等で、次のうち知っているものは何ですか。

【複数回答可：いくつでも】

消防局が行っている行事等について「どれも知らない」（72.5%）と答えた方が最も多いことから、消防局の取組に関する認知度が低いことがわかる。

	選択項目（N= 488 ）（ MT= 111.9% ）	回答数	構成比
1	堺市危険物安全大会	25	5.1%
2	生涯学習まちづくり出前講座	36	7.4%
3	危険物安全月間（6月）に伴う危険物施設の重点査察	48	9.8%
4	堺市消防出初式での危険物に係る特性の実験	83	17.0%
5	どれも知らない	354	72.5%
	計（回答総数）	546	111.9%



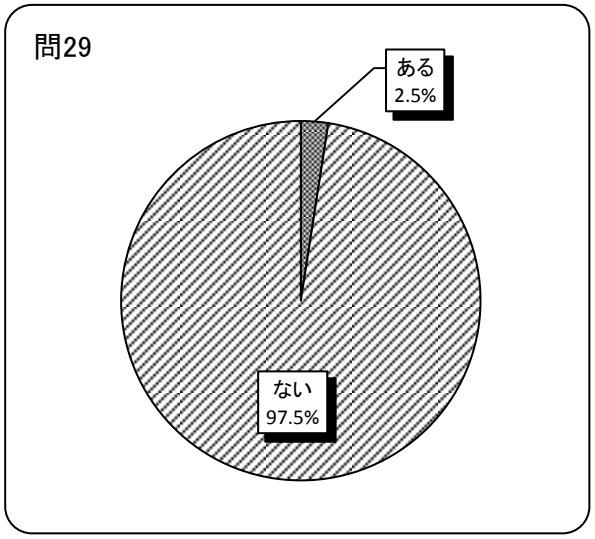
≪出前講座の利用実態≫

問 29　生涯学習まちづくり出前講座のうち、危険物に関する講座を受講したことがありますか。

【選択は 1 つ】

受講したことが「ない」(97.5%)と答えた方がほとんどであった。

	選択項目(N= 488)	回答数	構成比
1	ある	12	2.5%
2	ない	476	97.5%
	計(回答総数)	488	100.0%

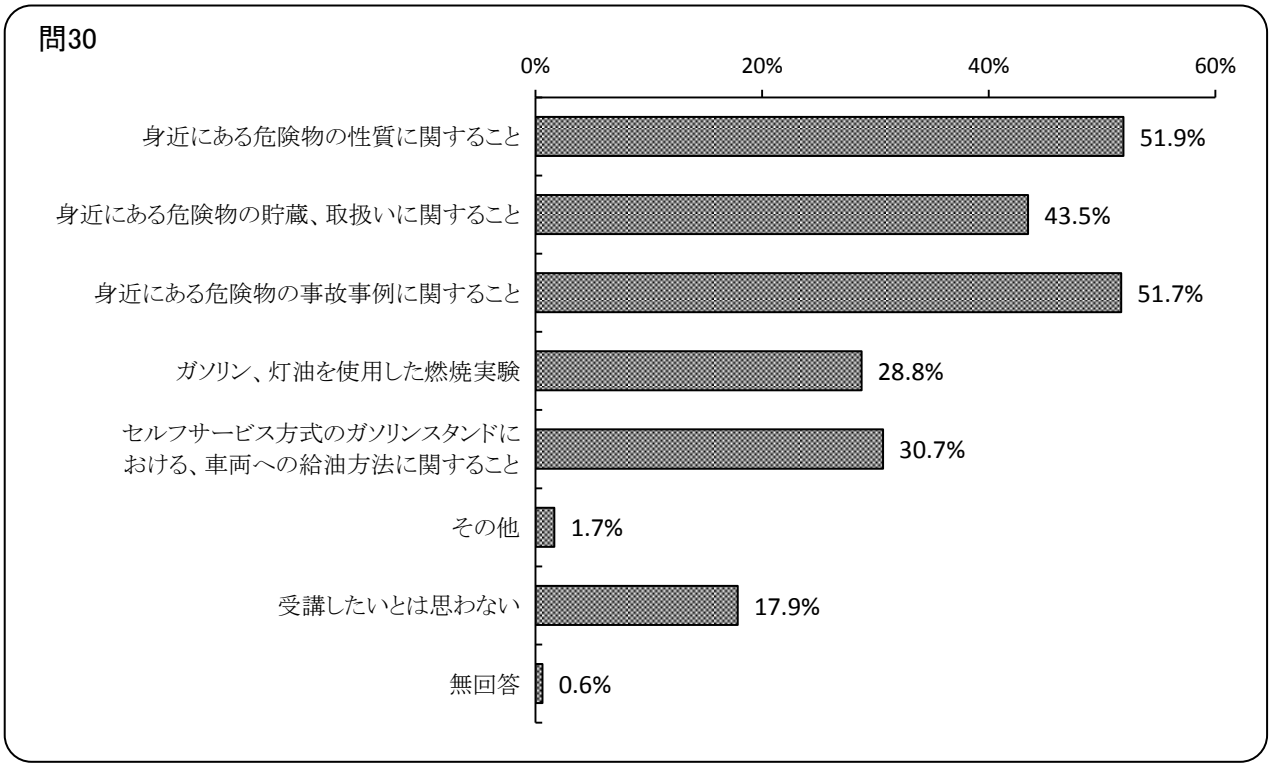


≪危険物に関する関心度≫

問 30　問 29 で「2 ない」と回答された方にお伺いします。
危険物に関してどのような内容であれば、出前講座を受講したいと思いますか。
【複数回答可:いくつでも】

「身近にある危険物の性質に関すること」(51.9%)、「身近にある危険物の事故事例に関すること」(51.7%)、「身近にある危険物の貯蔵、取扱いに関すること」(43.5%)といった普段使用することのある危険物に対し、関心が高いことがうかがえる。

	選択項目(N= 476) (MT= 226.7%)	回答数	構成比
1	身近にある危険物の性質に関すること	247	51.9%
2	身近にある危険物の貯蔵、取扱いに関すること	207	43.5%
3	身近にある危険物の事故事例に関すること	246	51.7%
4	ガソリン、灯油を使用した燃焼実験	137	28.8%
5	セルフサービス方式のガソリンスタンドにおける、車両への給油方法に関すること	146	30.7%
6	その他	8	1.7%
7	受講したいとは思わない	85	17.9%
	無回答	3	0.6%
	計(回答総数)	1,079	226.7%



[6 その他]

【主な意見】

- 保管方法や、無届で取扱っている場合の罰則について
- 消火器の講習

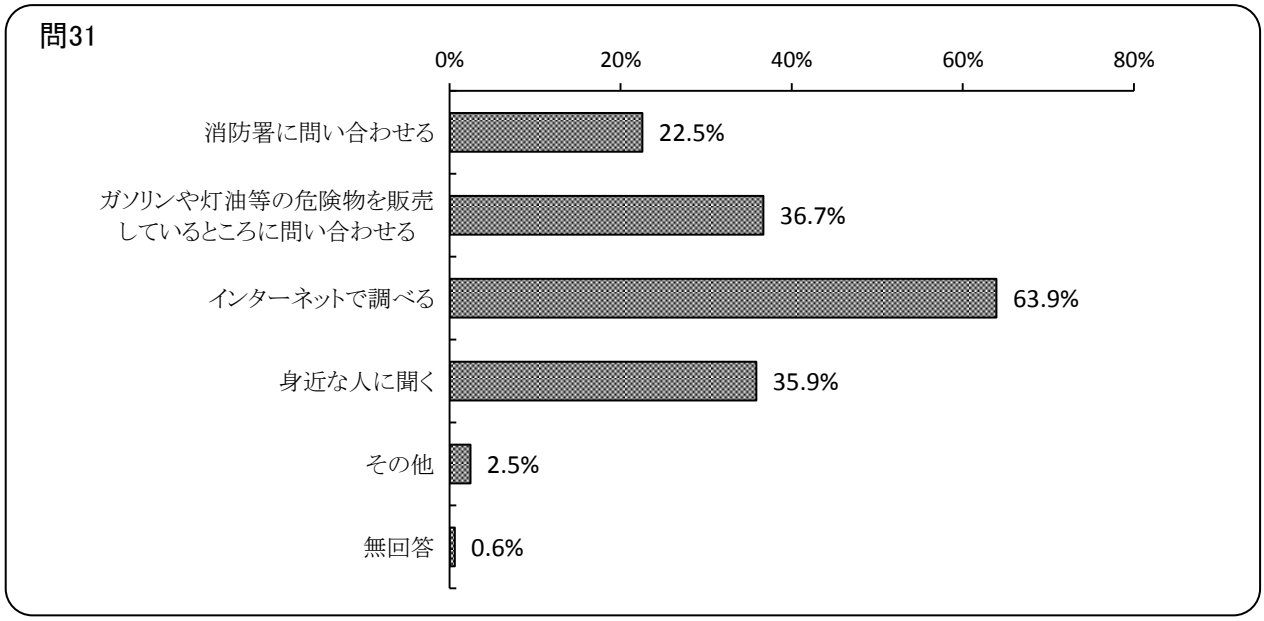
≪危険物に関する疑問の解決方法≫

問 31　ガソリンや灯油等の危険物について、疑問がある場合どのように解決しますか。

【複数回答可:いくつでも】

疑問がある場合の解決方法として「インターネットで調べる」(63.9%)と答えた方が最も多かった。次いで「ガソリンや灯油等の危険物を販売しているところに問い合わせる」(36.7%)、「身近な人に聞く」(35.9%)、「消防署に問い合わせる」(22.5%)と続いている。

	選択項目(N= 488) (MT= 162.1%)	回答数	構成比
1	消防署に問い合わせる	110	22.5%
2	ガソリンや灯油等の危険物を販売しているところに問い合わせる	179	36.7%
3	インターネットで調べる	312	63.9%
4	身近な人に聞く	175	35.9%
5	その他	12	2.5%
	無回答	3	0.6%
	計(回答総数)	791	162.1%



[5 その他]

【主な意見】

- 図書館で調べる。
- 石油ストーブやファンヒーターの取扱説明書をよく読む。

≪危険物に関する情報発信に対する自由意見≫

問 32　今後、市民の皆様に、より安全に危険物をご使用していただくための広報を効果的に行うにあたり、新しい手法やアイデアがございましたら、ご自由にご記入ください。　【自由記述】

【情報発信について】

- 自治会等で説明会を行う。
- 町会・自治会の回覧板や掲示板の活用
- いろいろなイベントに危険物に関するコーナーを設置する。
- 広報さかい等で危険物の性質や毒性、引火性、爆発等の危険性に関する記事をシリーズ化して掲載する。
- 危険物に対する安全な取扱い方法等をチラシ・テレビ等で広報する。
- 消防局で講座や見学会を開催する。
- 誤った使用法やそれによる事故を解説したマンガを製作し、各家庭に配布する。
- 不定期にバス、電車、地下鉄の車内及び駅、停車場等にポスターを掲示する。
- ガソリンスタンドなどで危険物に関するチラシを配布する。
- 正直なところ、危険物に関する広報が目にとまることはなかった。インパクトのあるデザインを用いて、毎年冬に注意喚起を行うなど定期的に案内してはどうか。
- メールマガジンの配信

【広報内容について】

- 身近なもので火事の恐れがあるストーブやこたつ、ガソリンなどの安全な取扱い方を講習会や堺市のホームページなどで紹介してほしい。
- 間違った使用による事故例を画像で紹介してほしい。
- スプレーの保管、廃棄方法をわかりやすく説明する。
- 広報やポスターではなかなか理解できないので地域で実験や説明等をしてほしい。
- 冬季の前に、灯油に関する安全な使い方等の特集を組む。
- 危険物の取り扱いについての基礎知識を取り上げてほしい。
- いかに危険であるかを具体的に明示してほしい。
- 事故の実例や具体的なミスの内容を教えてほしい。
- 電気（漏電）やガス、バーベキュー用燃料（炭）も含めた取扱いや保安の仕組みの啓発
- 法令はわりと知られているが条例は知られていないので条例全般の周知

【その他】

- 販売する側の対応が必要だと思う。
- 売り手は説明をすること
- 学校教育において危険物のことを教える機会を増やす。

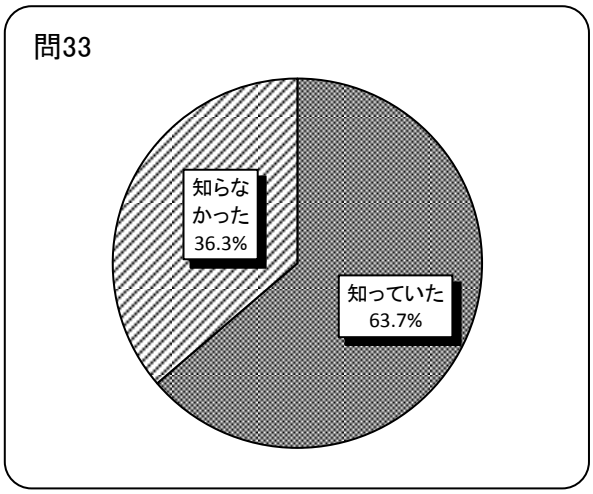
2. 大阪 880 万人訓練について

≪事前浸透率≫

問 33　9 月 5 日午前 11 時より前に、この訓練があることを知っていましたか。　【選択は1つ】

訓練があることを知っていたと回答された方が 63.7%いたが、この割合は、昨年度の 69.7%から 6 ポイント下がっており、来年度は事前の広報により力を入れる必要がある。

	選択項目(N= 488)	回答数	構成比
1	知っていた	311	63.7%
2	知らなかった	177	36.3%
	計(回答総数)	488	100.0%



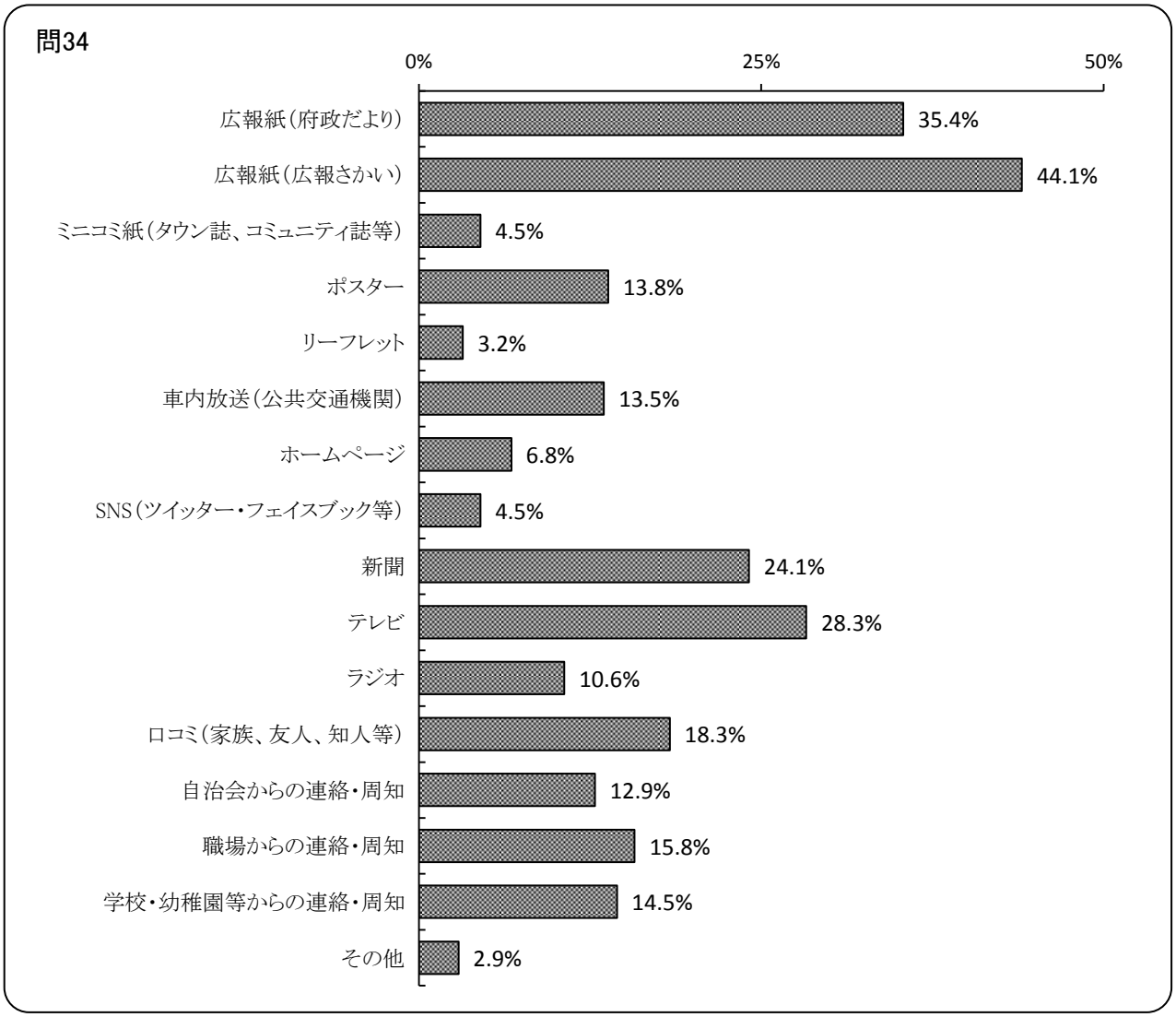
≪広報効果≫

問 34　問 33 で「1 知っていた」と回答された方にお伺いします。
この訓練があることをどこで知りましたか。　【複数回答可:いくつでも】

事前周知の方法としては、「広報紙(広報さかい)」が 44.1%、「広報紙(府政だより)」が 35.4%と、広報紙が効果的であることが分かる。

一方で、テレビが 28.3%、新聞が 24.1%、ラジオが 10.6%にとどまっていることから、次年度以降も引き続き、マスメディアをより効果的に活用した広報方法を検討することが課題である。

	選択項目(N= 311) (MT= 253.1%)	回答数	構成比
1	広報紙(府政だより)	110	35.4%
2	広報紙(広報さかい)	137	44.1%
3	ミニコミ紙(タウン誌、コミュニティ誌等)	14	4.5%
4	ポスター	43	13.8%
5	リーフレット	10	3.2%
6	車内放送(公共交通機関)	42	13.5%
7	ホームページ	21	6.8%
8	SNS(ツイッター・フェイスブック等)	14	4.5%
9	新聞	75	24.1%
10	テレビ	88	28.3%
11	ラジオ	33	10.6%
12	口コミ(家族、友人、知人等)	57	18.3%
13	自治会からの連絡・周知	40	12.9%
14	職場からの連絡・周知	49	15.8%
15	学校・幼稚園等からの連絡・周知	45	14.5%
16	その他	9	2.9%
	計(回答総数)	787	253.1%



［16 その他］

【主な意見】

- おおさか防災情報メール
- 商業施設の館内放送
- 気象情報のアプリ

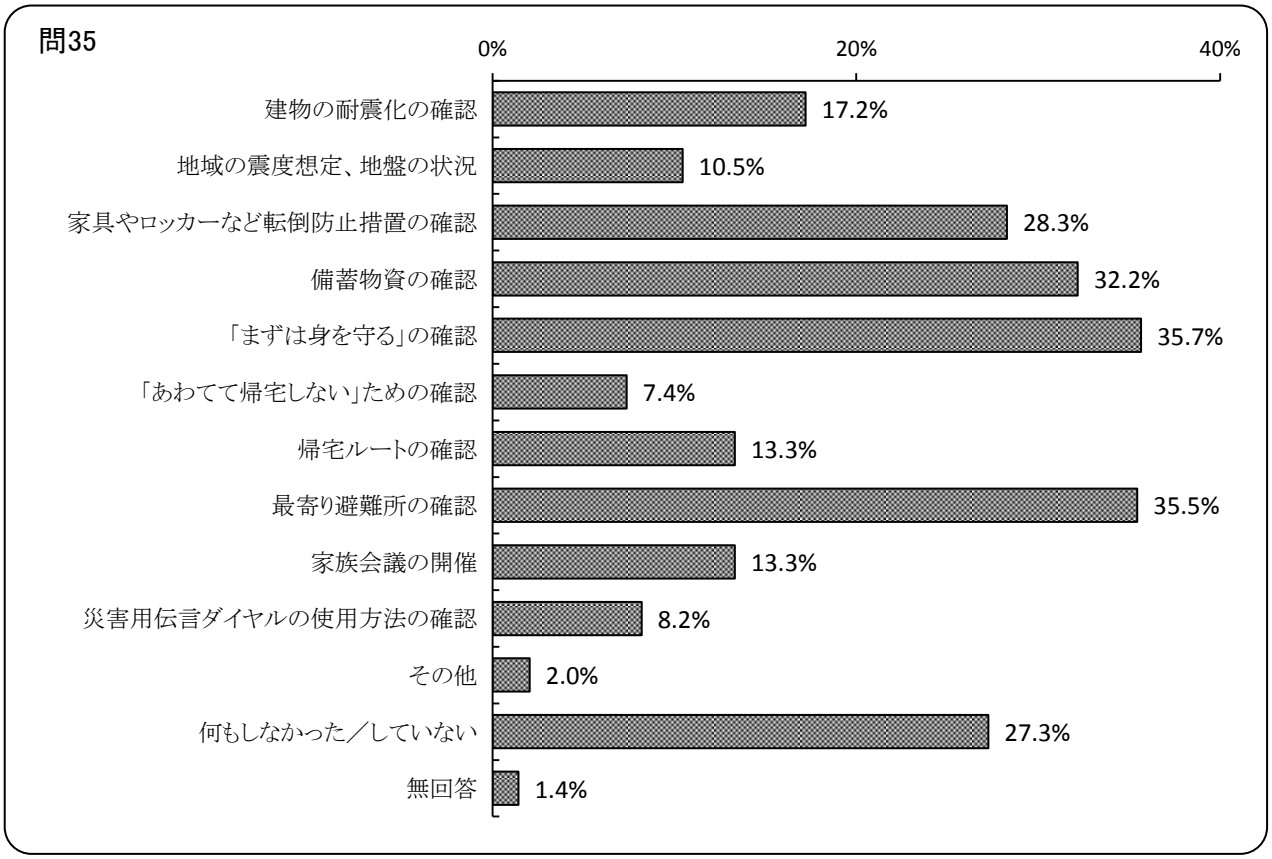
≪訓練を知る前から取り組んでいた備え≫

問 35　この訓練を知る前から、災害に備えていたことはありますか。
問 33 でこの訓練を「2 知らなかった」と回答された方は、9 月 5 日午前 11 時より前から備えていたことをご回答ください。　【複数回答可：いくつでも】

『「まずは身を守る」の確認』、「最寄りの避難所の確認」、「備蓄物資の確認」の3項目について、30%以上の方が事前の備えを行っていたことから、本訓練は、市民の皆様への自助の促進に寄与しているといえる。

一方で、「何もしなかった」と答えている方が 27.3%いることから、引き続き事前の備えについて啓発を行っていく必要がある。

	選択項目(N= 488) (MT= 232.2%)	回答数	構成比
1	建物の耐震化の確認	84	17.2%
2	地域の震度想定、地盤の状況	51	10.5%
3	家具やロッカーなど転倒防止措置の確認	138	28.3%
4	備蓄物資の確認	157	32.2%
5	「まずは身を守る」の確認	174	35.7%
6	「あわてて帰宅しない」ための確認	36	7.4%
7	帰宅ルートの確認	65	13.3%
8	最寄り避難所の確認	173	35.5%
9	家族会議の開催	65	13.3%
10	災害用伝言ダイヤルの使用方法の確認	40	8.2%
11	その他	10	2.0%
12	何もしなかった／していない	133	27.3%
	無回答	7	1.4%
	計(回答総数)	1,133	232.2%



[11 その他]

【主な意見】

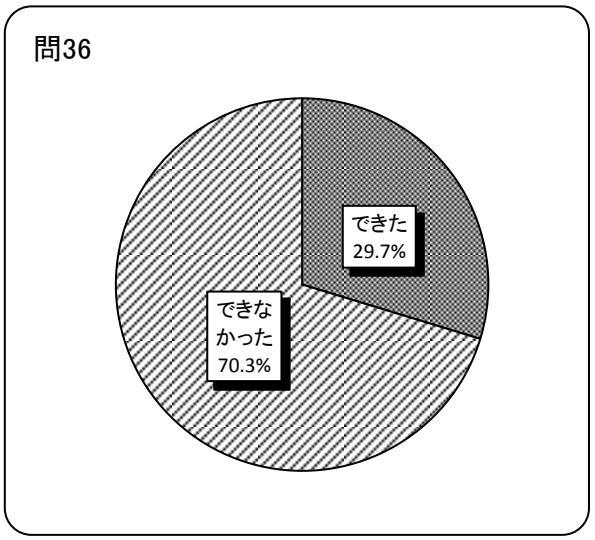
- 普段いる場所の海抜を確認
- 活断層の位置把握
- 家族の集合場所の確認

≪訓練開始合図の覚知率≫

問 36　当日、午前 11 時の訓練開始合図※を受け取ることができましたか。　【選択は1つ】
※緊急速報メールは訓練開始合図ではありません。

訓練開始合図を受け取ることができたと回答された方は 29.7%にとどまった。今後も様々な媒体から災害情報を収集することの重要性を市民の皆様に周知・啓発していく必要がある。

	選択項目(N= 488)	回答数	構成比
1	できた	145	29.7%
2	できなかった	343	70.3%
	計(回答総数)	488	100.0%

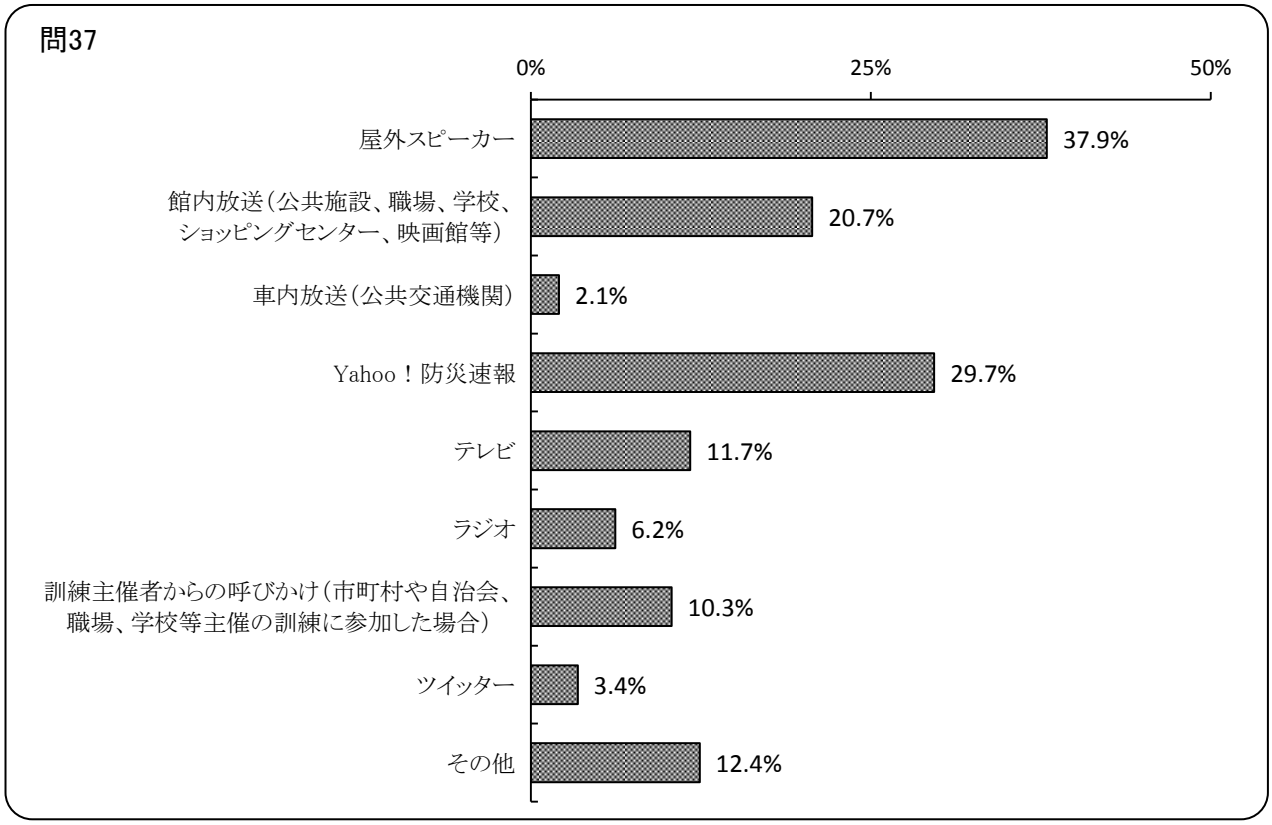


≪訓練開始合図の媒体・経路≫

問 37　問 36 で「1 できた」と回答された方にお伺いします。訓練開始合図はどのような媒体・経路で受け取ることができましたか。　【複数回答可：いくつでも】

「屋外スピーカー」で訓練開始合図を受け取ることができたと答えた方が 55 人（37.9%）と最も多かったが、屋外スピーカーのみならず、様々な媒体から災害情報を収集することの重要性を市民の皆様に周知・啓発していく必要がある。

	選択項目（ N= 145 ）（ MT= 134.5% ）	回答数	構成比
1	屋外スピーカー	55	37.9%
2	館内放送（公共施設、職場、学校、ショッピングセンター、映画館等）	30	20.7%
3	車内放送（公共交通機関）	3	2.1%
4	Yahoo！防災速報	43	29.7%
5	テレビ	17	11.7%
6	ラジオ	9	6.2%
7	訓練主催者からの呼びかけ（市町村や自治会、職場、学校等主催の訓練に参加した場合）	15	10.3%
8	ツイッター	5	3.4%
9	その他	18	12.4%
	計（回答総数）	195	134.5%



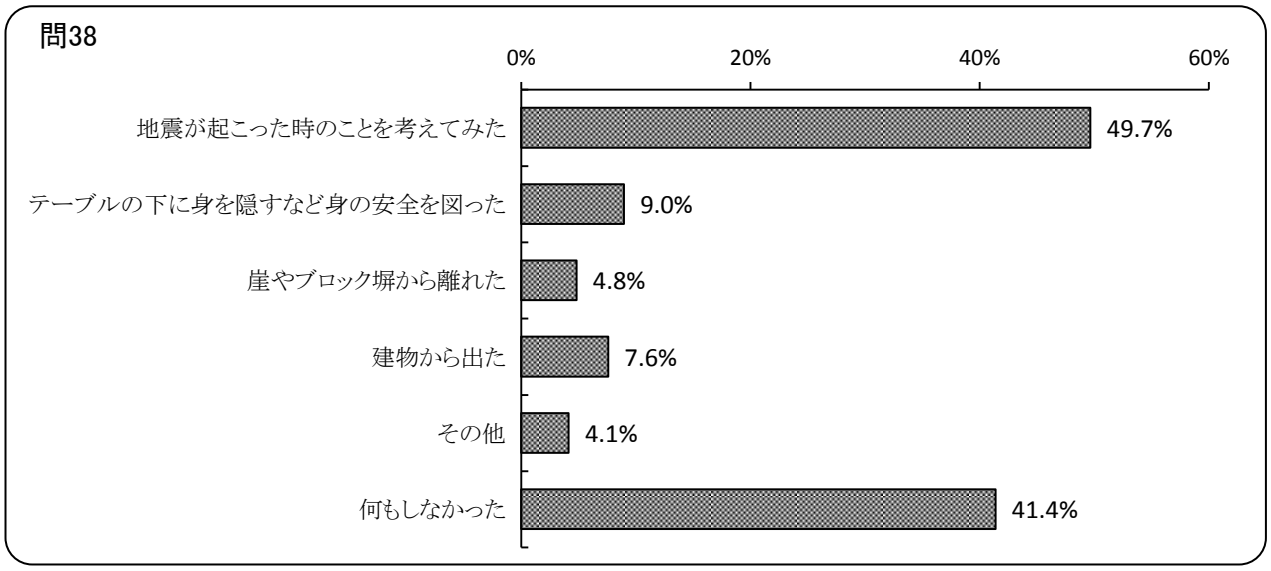
≪訓練時の行動≫

問 38　問 36 で「1 できた」と回答された方にお伺いします。訓練開始合図を受け取った後、あなたはどのようなことをしましたか。　【複数回答可：いくつでも】

「地震が起こったときのことを考えてみた」が 49.7%で、本訓練は、市民の皆様への自助の促進に寄与しているといえる。

一方で、「何もしなかった」と答えている方が 41.4%いることから、引き続き訓練開始合図を受け取った後の初動対応について啓発を行っていく必要がある。

	選択項目(N= 145) (MT= 116.6%)	回答数	構成比
1	地震が起こった時のことを考えてみた	72	49.7%
2	テーブルの下に身を隠すなど身の安全を図った	13	9.0%
3	崖やブロック塀から離れた	7	4.8%
4	建物から出た	11	7.6%
5	その他	6	4.1%
6	何もしなかった	60	41.4%
	計(回答総数)	169	116.6%



[5 その他]

【主な意見】

- 子どもに自分の身を守るように伝えた。
- 子どもたちの誘導
- 外出先の仲間と避難する方法を話し合った。

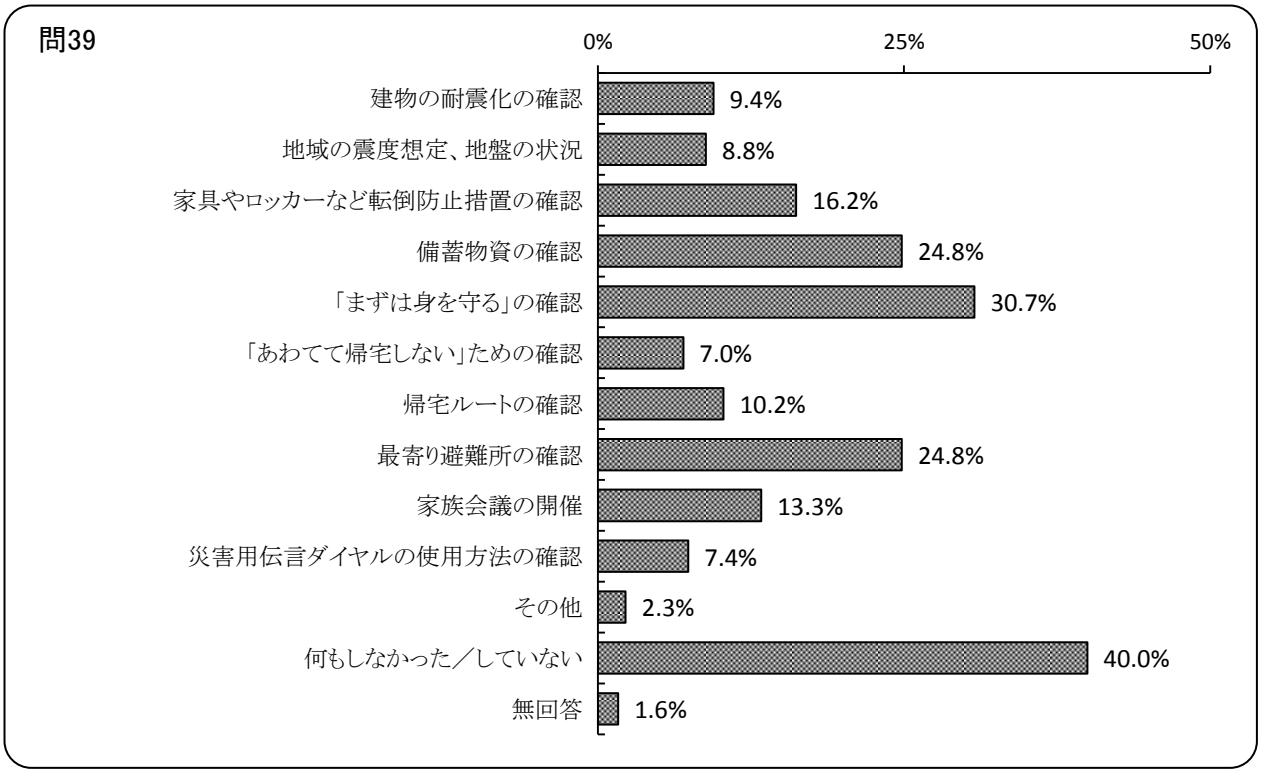
≪この訓練をきっかけにして実施した備え≫

問 39　この訓練をきっかけにして確認したことをお聞かせください。　【複数回答可：いくつでも】

『「まずは身を守る」の確認』をされた方が 30.7%、次いで「備蓄物資の確認」と「最寄りの避難所の確認」が 24.8%という結果から、本訓練は、市民の皆様への自助の促進に寄与しているといえる。

一方で、「何もしなかった」と答えている方が 40.0%いることから、引き続き自助・共助の促進を啓発していく必要がある。

	選択項目(N= 488) (MT= 196.5%)	回答数	構成比
1	建物の耐震化の確認	46	9.4%
2	地域の震度想定、地盤の状況	43	8.8%
3	家具やロッカーなど転倒防止措置の確認	79	16.2%
4	備蓄物資の確認	121	24.8%
5	「まずは身を守る」の確認	150	30.7%
6	「あわてて帰宅しない」ための確認	34	7.0%
7	帰宅ルートの確認	50	10.2%
8	最寄り避難所の確認	121	24.8%
9	家族会議の開催	65	13.3%
10	災害用伝言ダイヤルの使用方法の確認	36	7.4%
11	その他	11	2.3%
12	何もしなかった／していない	195	40.0%
	無回答	8	1.6%
	計(回答総数)	959	196.5%



[11 その他]

【主な意見】

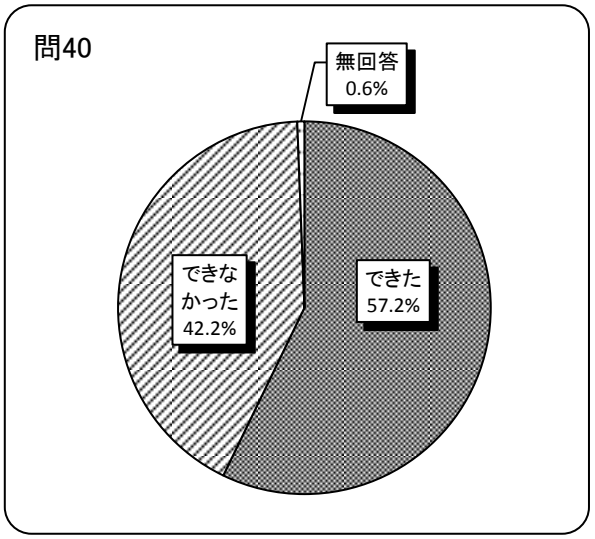
- 職員間での役割確認(避難・誘導等)
- おおさか防災情報メールの登録
- 家族の集合場所
- 防災用品の確認
- 離れている親の安否確認

≪緊急速報メール伝達率≫

問 40　当日、11 時 3 分～7 分にかけて、携帯電話に向けて緊急速報メール等を配信しましたが、受け取ることができましたか？　【選択は1つ】

緊急速報メール等を受け取ることができたと回答された方が 57.2%いたことから、緊急速報メールが今後も災害情報の伝達手段として有効であるといえる。

	選択項目(N= 488)	回答数	構成比
1	できた	279	57.2%
2	できなかった	206	42.2%
	無回答	3	0.6%
	計(回答総数)	488	100.0%

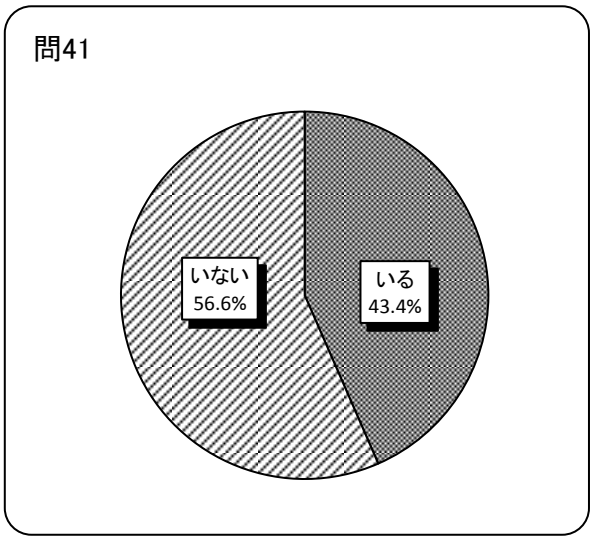


≪災害時要援護者(避難行動要支援者)の有無≫

問 41　高齢者、障害者、外国人、乳幼児、妊婦など、災害が発生又は発生するおそれがある場合に自ら必要な情報を迅速かつ的確に把握し、避難することが困難で、特に支援を必要とする方を「災害時要援護者(避難行動要支援者)」といいます。あなたの身近には、「災害時要援護者(避難行動要支援者)」の方がおられますか。【選択は1つ】

身近に「災害時要援護者(避難行動要支援者)」がいる方が 43.4%いることから、「災害時要援護者(避難行動要支援者)」は多くの方にとって身近な存在であり、今後も「災害時要援護者(避難行動要支援者)」支援対策を引き続き実施していく必要性があるといえる。

	選択項目(N= 488)	回答数	構成比
1	いる	212	43.4%
2	いない	276	56.6%
	計(回答総数)	488	100.0%

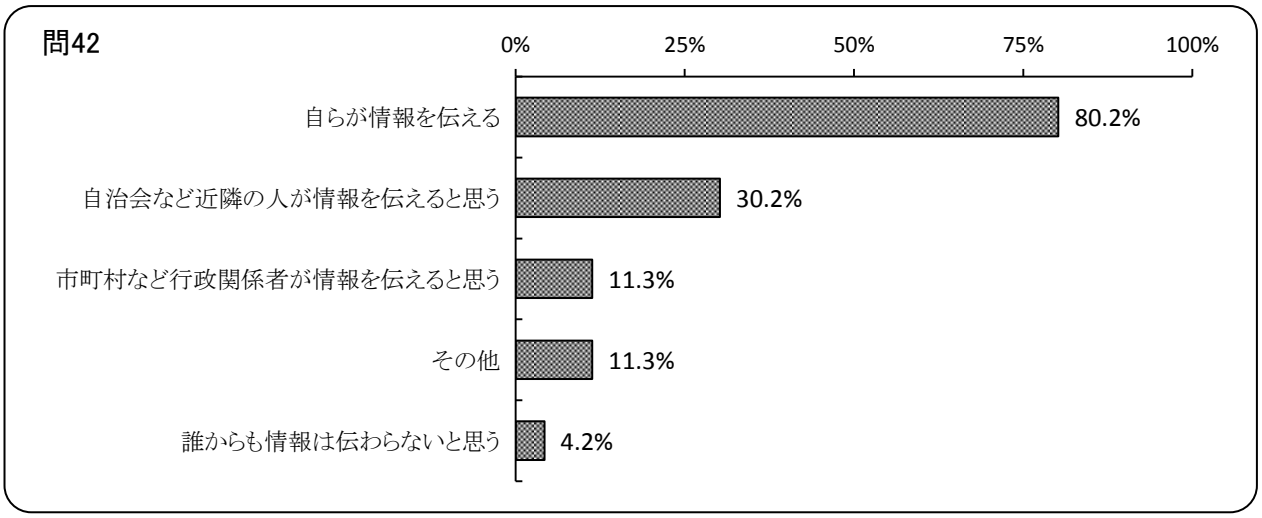


≪災害時要援護者（避難行動要支援者）への情報伝達≫

問 42　問 41 で「1 いる」と回答された方にお伺いします。
実際に災害が発生した場合、あなたの身近におられる「災害時要援護者（避難行動要支援者）」の方へどなたが情報を伝えると思いますか。　【複数回答可：いくつでも】

発生時、身近にいる「災害時要援護者（避難行動要支援者）」に「自らが情報を伝える」が 80.2%、次いで「自治会など近隣の人が情報を伝えると思う」が 30.2%となっている。自ら情報を伝えられない可能性もあるため、共助の考え方を周知・啓発し、「自治会など近隣の人が情報を伝えると思う」と答える方の割合を増加させる必要性がある。

	選択項目（N= 212 ）（MT= 137.3% ）	回答数	構成比
1	自らが情報を伝える	170	80.2%
2	自治会など近隣の人が情報を伝えると思う	64	30.2%
3	市町村など行政関係者が情報を伝えると思う	24	11.3%
4	その他	24	11.3%
5	誰からも情報は伝わらないと思う	9	4.2%
	計（回答総数）	291	137.3%



［4 その他］

【主な意見】

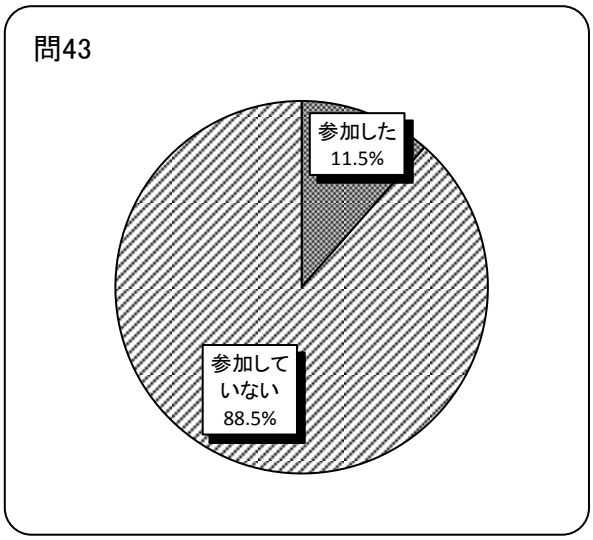
- 家族
- 民生委員
- 保育園の職員
- 老人福祉施設の担当者
- マンション管理人

≪連動訓練への参加状況≫

問 43　この訓練の当日あるいはその前後に自治会、職場・学校などが主催する避難訓練などに参加しましたか。　【選択は1つ】

「参加した」が 11.5%にとどまったため、今後も引き続き共助の考え方を周知・啓発し、避難訓練等の参加者を増加させていく必要性がある。

	選択項目(N= 488)	回答数	構成比
1	参加した	56	11.5%
2	参加していない	432	88.5%
	計(回答総数)	488	100.0%

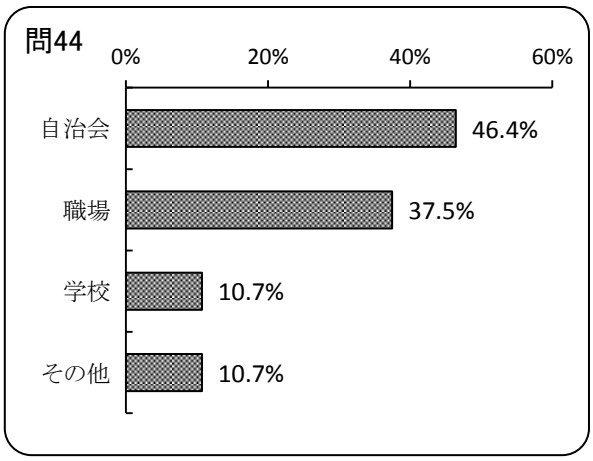


≪連動訓練の主体≫

問 44　問 43 で「1 参加した」と回答された方にお伺いします。どこが主催する訓練かお答えください。
【複数回答可:いくつでも】

「自治会」、「職場」が主催の訓練参加者が合わせて 47 名(83.9%)いたが、全回答者数に対する割合は、9.6%にとどまり、今後も引き続き共助の考え方を周知・啓発し、避難訓練等の参加者を増加させていく必要性がある。

	選択項目 (N= 56) (MT= 105.4%)	回答数	構成比
1	自治会	26	46.4%
2	職場	21	37.5%
3	学校	6	10.7%
4	その他	6	10.7%
	計(回答総数)	59	105.4%



[4 その他]

【主な意見】

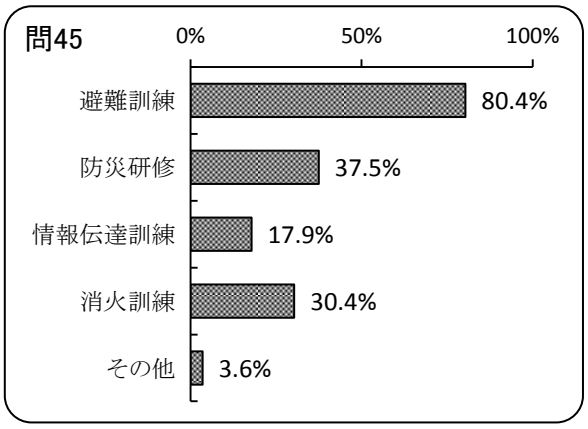
- 老人福祉施設
- 大学
- 幼稚園

≪連動訓練の内容≫

問 45　問 43 で「1 参加した」と回答された方にお伺いします。その訓練の内容をお答えください。
【複数回答可:いくつでも】

参加された訓練の種類は、「避難訓練」が 80.4%と一番多く、発災直後の避難行動を自主的に行おうとする自助意識の表れといえる。

	選択項目 (N= 56) (MT= 169.6%)	回答数	構成比
1	避難訓練	45	80.4%
2	防災研修	21	37.5%
3	情報伝達訓練	10	17.9%
4	消火訓練	17	30.4%
5	その他	2	3.6%
	計(回答総数)	95	169.6%



[5 その他]

【主な意見】

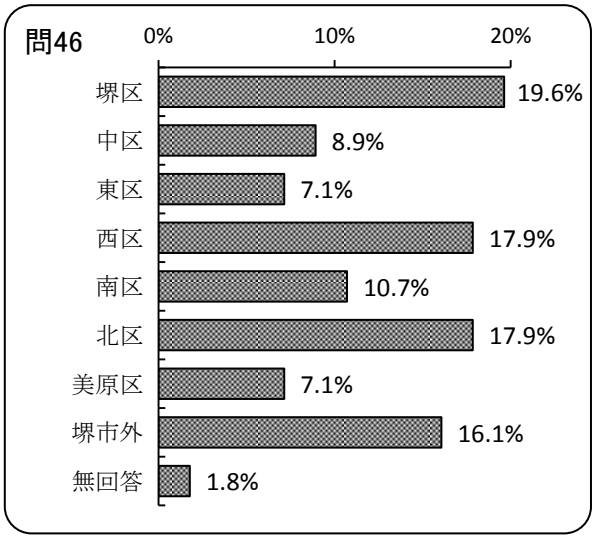
- 地震体験
- 仮設トイレの組み立て

≪連動訓練の開催場所≫

問 46　問 43 で「1 参加した」と回答された方にお伺いします。
どこで訓練に参加されましたか。　【複数回答可:いくつでも】

避難訓練の参加者は、「堺区」が 11 人(19.6%)と最も多く、次いで「西区」が 10 人(17.9%)、「北区」が 10 人(17.9%)と続いている。

	選択項目 (N= 56) (MT= 107.1%)	回答数	構成比
1	堺区	11	19.6%
2	中区	5	8.9%
3	東区	4	7.1%
4	西区	10	17.9%
5	南区	6	10.7%
6	北区	10	17.9%
7	美原区	4	7.1%
8	堺市外	9	16.1%
	無回答	1	1.8%
	計(回答総数)	60	107.1%



[8 堺市外]

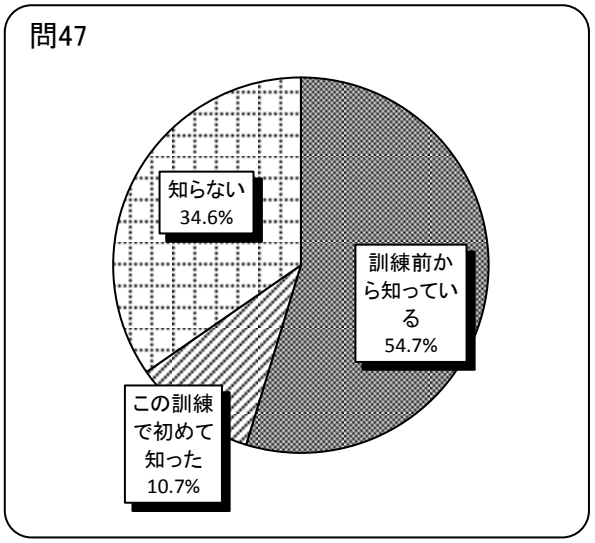
- 大阪市、藤井寺市、和泉市、和泉市、高石市

≪緊急地震速報の認知度≫

問 47　今回は発信していませんが、気象庁から発信される緊急地震速報がエリアメール／緊急速報メールによって個人の携帯電話に配信されることを知っていますか。　【選択は1つ】

緊急地震速報を本訓練実施前から知っていた人が 54.7%おり、緊急地震速報の存在が広く知られていることの表れといえる。また、本訓練で初めて知った方が 10.7%おり、少数ながら訓練成果としての表れの一つであるといえる。

	選択項目(N= 488)	回答数	構成比
1	訓練前から知っている	267	54.7%
2	この訓練で初めて知った	52	10.7%
3	知らない	169	34.6%
	計(回答総数)	488	100.0%

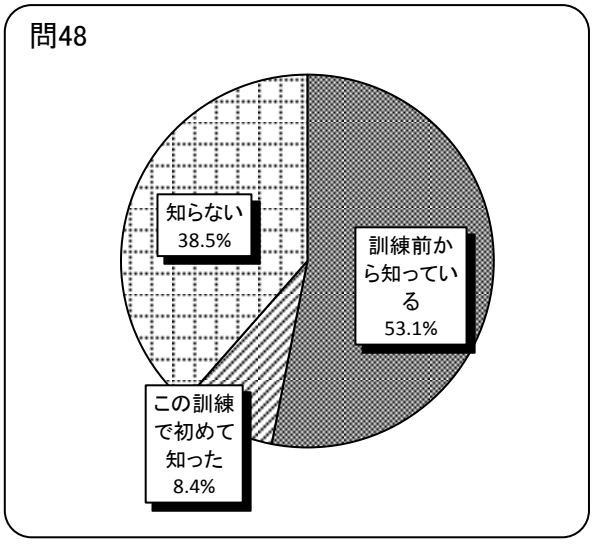


≪緊急地震速報の理解度≫

問 48　緊急地震速報は、海溝型地震の場合、大阪では実際に揺れ始める数秒～数十秒前に鳴ることを知っていますか？　【選択は1つ】

緊急地震速報は、海溝型地震の場合、大阪では実際に揺れ始める数秒～数十秒前に鳴ることを本訓練前から知っていた人が 53.1%おり、緊急地震速報の中身まで広く知られていることの表れといえる。また、本訓練で初めて知った方が 8.4%おり、少数ながら訓練成果としての表れの一つであるといえる。

	選択項目(N= 488)	回答数	構成比
1	訓練前から知っている	259	53.1%
2	この訓練で初めて知った	41	8.4%
3	知らない	188	38.5%
	計(回答総数)	488	100.0%



≪大阪 880 万人訓練に対する自由意見≫

問 49　大阪 880 万人訓練について、ご意見がございましたら、ご自由にお書きください。　【自由記述】

【大阪 880 万人訓練の意義についての意見】

- 定期的に実施することにより日常的に危険に対する心構えも身に付き良いことだと思う。
- 大阪 880 万人訓練がなければ、子どもと話し合いをする機会もなかったと思うので、とても良いことだと思う。
- ほとんどの人は他人事のようにふるまい参加している感覚は見受けられなかった。
- 毎年続けることにより万が一の災害の際にも慌てず行動できる人が多くなれば良いと思う。
- 訓練の効果は定かではないが、災害に対する喚起の意味はあったと思う。
- 災害が起きないと意識がどんどん薄くなっていってしまうので、こうやって時々訓練があると意識が高まり、家族とも話す機会ができるのでこれからも訓練は継続してほしい。

【大阪 880 万人訓練の方法についての意見】

- 年1回ではなく、年に2～3回定期的に訓練を実施してほしい。
- 公共交通機関をストップする訓練や電気・ガス・水道を全て止めてみる訓練も必要ではないかと思う。
- 平日だけでなく土日祝にも実施すべきである。
- 広く知られるためにはメディア媒体（CM）などを活用すべきである。
- わかりやすいイラストなどで説明したチラシを全戸配布してほしい。

【緊急速報メールについての意見】

- メールの着信音があまり危機感を持たせるものではないので、再考をお願いしたい。
- メールの着信音が高齢者には聞き取りにくいものだった。
- 緊急速報メールは、これからも続けてほしい。
- メールはほとんどの人が利用しているので、緊急速報メールは一番早く情報が入って良いと思う。
- どの携帯電話でも緊急速報メールを確実に受け取れるようにしてほしい。
- 11時3分に大阪府から緊急速報メールが配信された後に、堺市以外の市町村では、大阪府からの配信の後、10分以上間隔を空けて緊急速報メールの配信を行っているが、堺市では、大阪府からの配信の後、11時5分、7分と間隔を空けずに緊急速報メールの配信を行っている。訓練のメリハリという観点からは、堺市で実施したように、大阪府からの配信の後、間隔を空けずに市町村からメール配信がされる方が良い。

【その他の意見】

- メール受信時、店のスタッフなどの誘導が全くなかったので災害時に大丈夫なのかと思った。次回はぜひ店舗スタッフも一緒に訓練するべきだと思う。
- 携帯を持っていない高齢者に対しての配慮が必要である。
- 身を守る行動をとるという趣旨の訓練は、たくさんの方に周知する目的で続けて頂きたいと思う。
- 屋外スピーカーの音が聞こえづらい。
- 私も含めてまだ「大丈夫」と思っている人が多いと思う。
- 防災に対する意識を自分自身も含めてより高めていく必要があると思う。
- 公共交通機関の車内放送をもう少し早い時期からしてもらいたい。
- 鉄道のように多くの人が利用するもので乗客を実際に避難誘導する訓練をすれば良いと思う。
- 緊急時の誘導についてのポスターを駅などに緊急掲示板を設けて掲示してほしい。
- このアンケートに回答しながら、どこに避難するかなど調べておく必要があると思った。

3. 生涯学習について

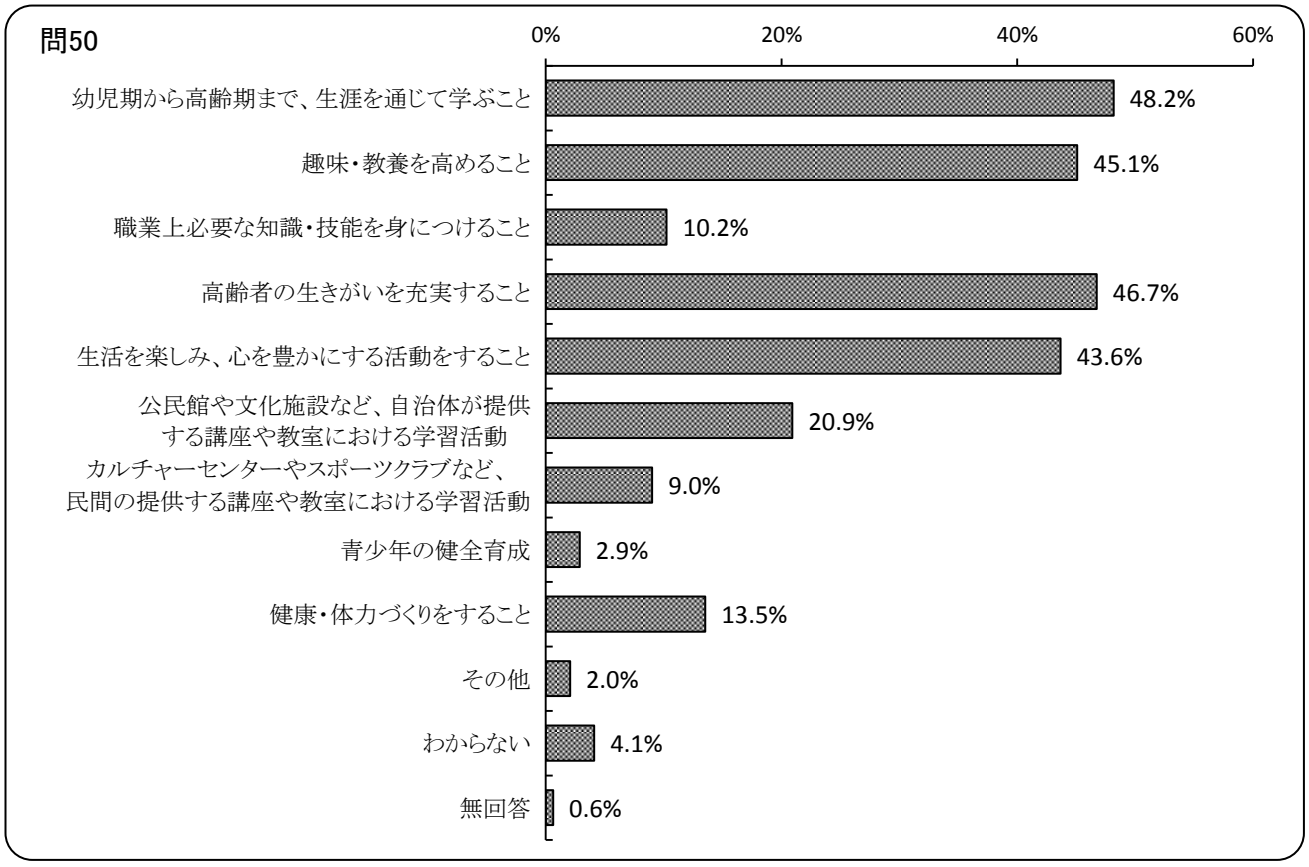
(1) 生涯学習に対するイメージについて

≪生涯学習に対するイメージ≫

問 50　「生涯学習」という言葉から、どのようなことを思い浮かべますか。特にイメージに近いものをお答えください。　【複数回答可：3つまで】

「幼児期から高齢期まで、生涯を通じて学ぶこと」(48.2%)、「高齢者の生きがいを充実すること」(46.7%)、「趣味・教養を高めること」(45.1%)、「生活を楽しみ、心を豊かにする活動をすること」(43.6%)の 4 項目がほぼ同率で高くなっており、多くの人が、生涯を通じて学び、生活を楽しむことや、心を豊かにする活動のイメージを持っていることがわかる。

	選択項目(N= 488) (MT= 246.9%)	回答数	構成比
1	幼児期から高齢期まで、生涯を通じて学ぶこと	235	48.2%
2	趣味・教養を高めること	220	45.1%
3	職業上必要な知識・技能を身につけること	50	10.2%
4	高齢者の生きがいを充実すること	228	46.7%
5	生活を楽しみ、心を豊かにする活動をすること	213	43.6%
6	公民館や文化施設など、自治体が提供する講座や教室における学習活動	102	20.9%
7	カルチャーセンターやスポーツクラブなど、民間の提供する講座や教室における学習活動	44	9.0%
8	青少年の健全育成	14	2.9%
9	健康・体力づくりをすること	66	13.5%
10	その他	10	2.0%
11	わからない	20	4.1%
	無回答	3	0.6%
	計(回答総数)	1,205	246.9%



[10 その他]

【主な意見】

- 自己が一生打ち込める趣味、教養を学べる学習活動
- 時代の流れに沿って対応(生活・職場)できるように情報と実務の勉強
- 生きて行くのに必要な、知識や活動、技術を暮らしの中で生かせるように学びあうこと
- 退職後についての学習や老後の余暇

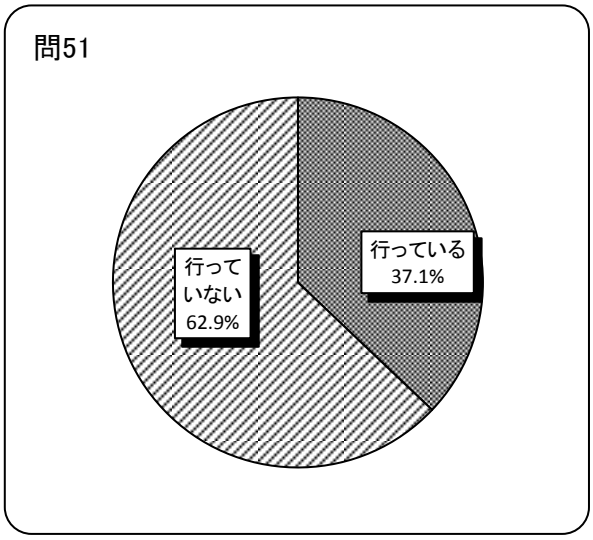
(2) 現在の生涯学習の状況について

≪生涯学習の取組状況≫

問 51　現在、生涯学習を行っていますか。　【選択は 1 つ】

「行っていない」が 62.9%と、生涯学習を行っていない人の方が多い。

	選択項目(N= 488)	回答数	構成比
1	行っている	181	37.1%
2	行っていない	307	62.9%
	計(回答総数)	488	100.0%



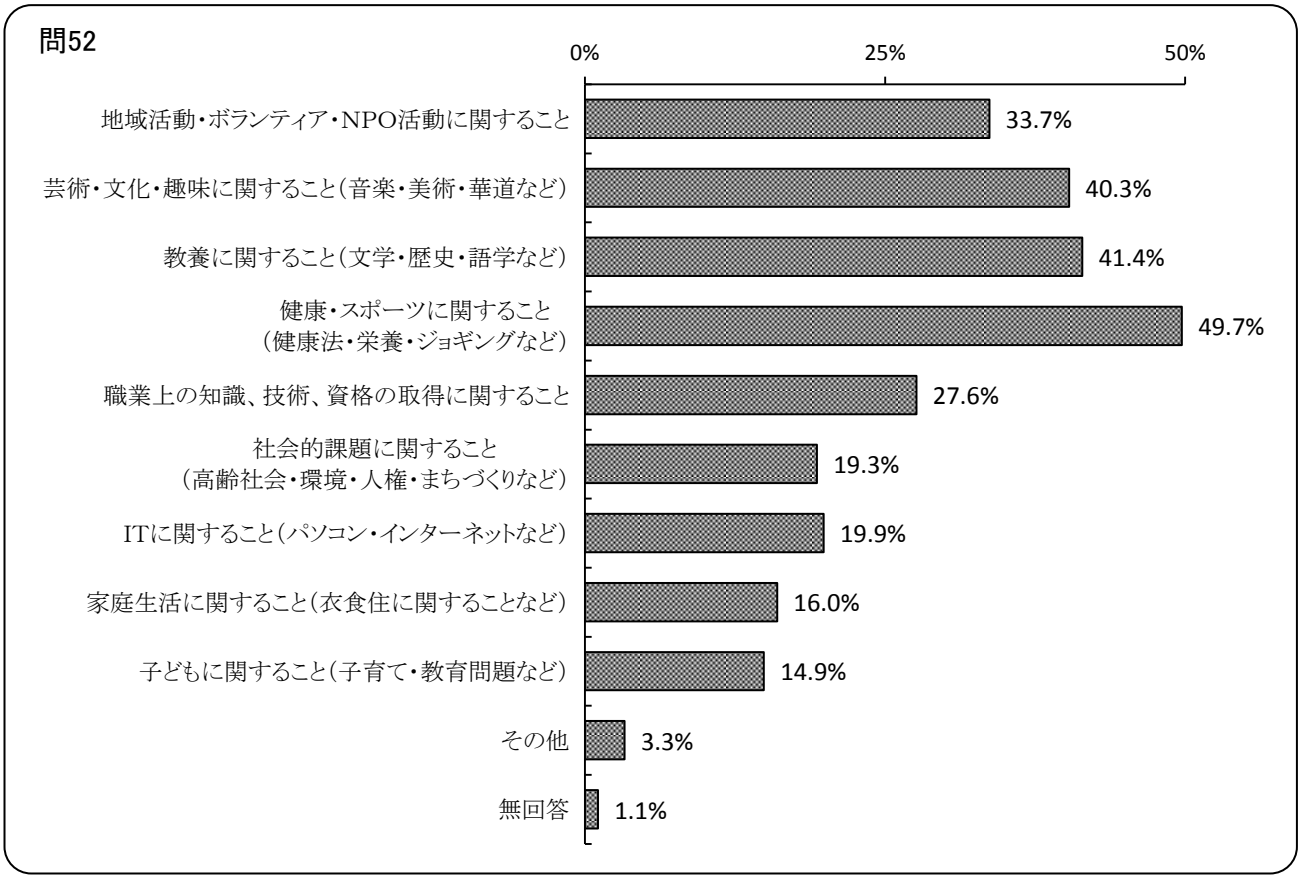
≪現在行っている生涯学習の内容≫

問 52　問 51 で「1 行っている」と回答された方にお伺いします。
現在行っている生涯学習とはどのようなものですか。　【複数回答可：いくつでも】

「健康・スポーツに関すること」が 49.7%と最も多く、次いで「教養に関すること」が 41.4%、「芸術・文化・趣味に関すること」が 40.3%と続いている。

また、「地域活動・ボランティア・NPO活動に関すること」(33.7%)、「職業上の知識、技術、資格の取得に関すること」(27.6%)も 3 割前後と、行っている人が多い。

	選択項目(N= 181) (MT= 267.4%)	回答数	構成比
1	地域活動・ボランティア・NPO活動に関すること	61	33.7%
2	芸術・文化・趣味に関すること(音楽・美術・華道など)	73	40.3%
3	教養に関すること(文学・歴史・語学など)	75	41.4%
4	健康・スポーツに関すること(健康法・栄養・ジョギングなど)	90	49.7%
5	職業上の知識、技術、資格の取得に関すること	50	27.6%
6	社会的課題に関すること(高齢社会・環境・人権・まちづくりなど)	35	19.3%
7	ITに関すること(パソコン・インターネットなど)	36	19.9%
8	家庭生活に関すること(衣食住に関することなど)	29	16.0%
9	子どもに関すること(子育て・教育問題など)	27	14.9%
10	その他	6	3.3%
	無回答	2	1.1%
	計(回答総数)	484	267.4%

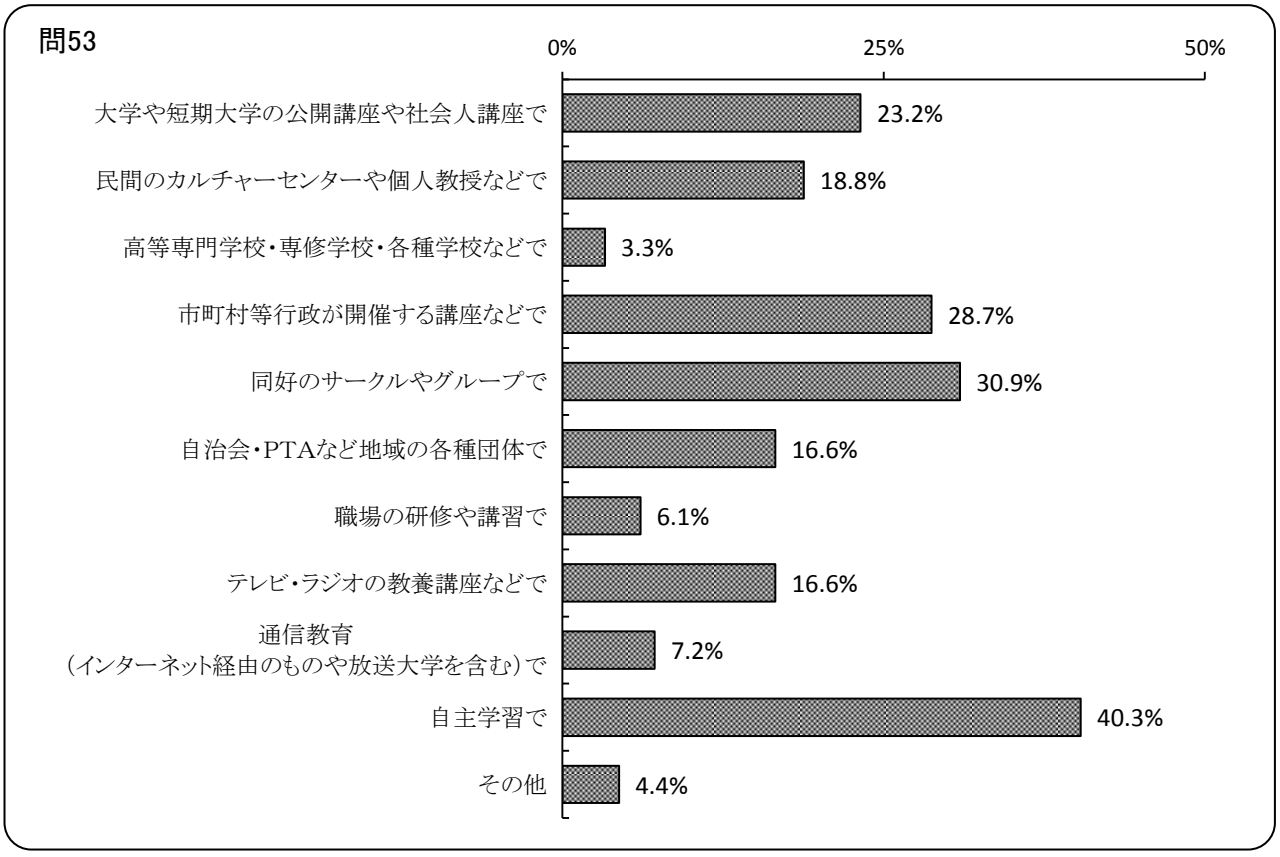


≪現在行っている生涯学習の方法≫

問 53　問 51 で「1 行っている」と回答された方にお伺いします。
現在どのような方法で生涯学習を行っていますか。　【複数回答可：3つまで】

「自主学習で」が 40.3%と最も多く、「同好のサークルやグループで」(30.9%)、「市町村等行政が開催する講座などで」(28.7%)、「大学や短期大学の公開講座や社会人講座で」(23.2%)がそれに続いている。

	選択項目(N= 181) (MT= 196.1%)	回答数	構成比
1	大学や短期大学の公開講座や社会人講座で	42	23.2%
2	民間のカルチャーセンターや個人教授などで	34	18.8%
3	高等専門学校・専修学校・各種学校などで	6	3.3%
4	市町村等行政が開催する講座などで	52	28.7%
5	同好のサークルやグループで	56	30.9%
6	自治会・PTAなど地域の各種団体で	30	16.6%
7	職場の研修や講習で	11	6.1%
8	テレビ・ラジオの教養講座などで	30	16.6%
9	通信教育(インターネット経由のものや放送大学を含む)で	13	7.2%
10	自主学習で	73	40.3%
11	その他	8	4.4%
	計(回答総数)	355	196.1%



[11 その他]

【主な意見】

- 図書館や博物館の見学やイベントで
- 地域へのボランテイア活動に参加することで
- 新聞を読むことで

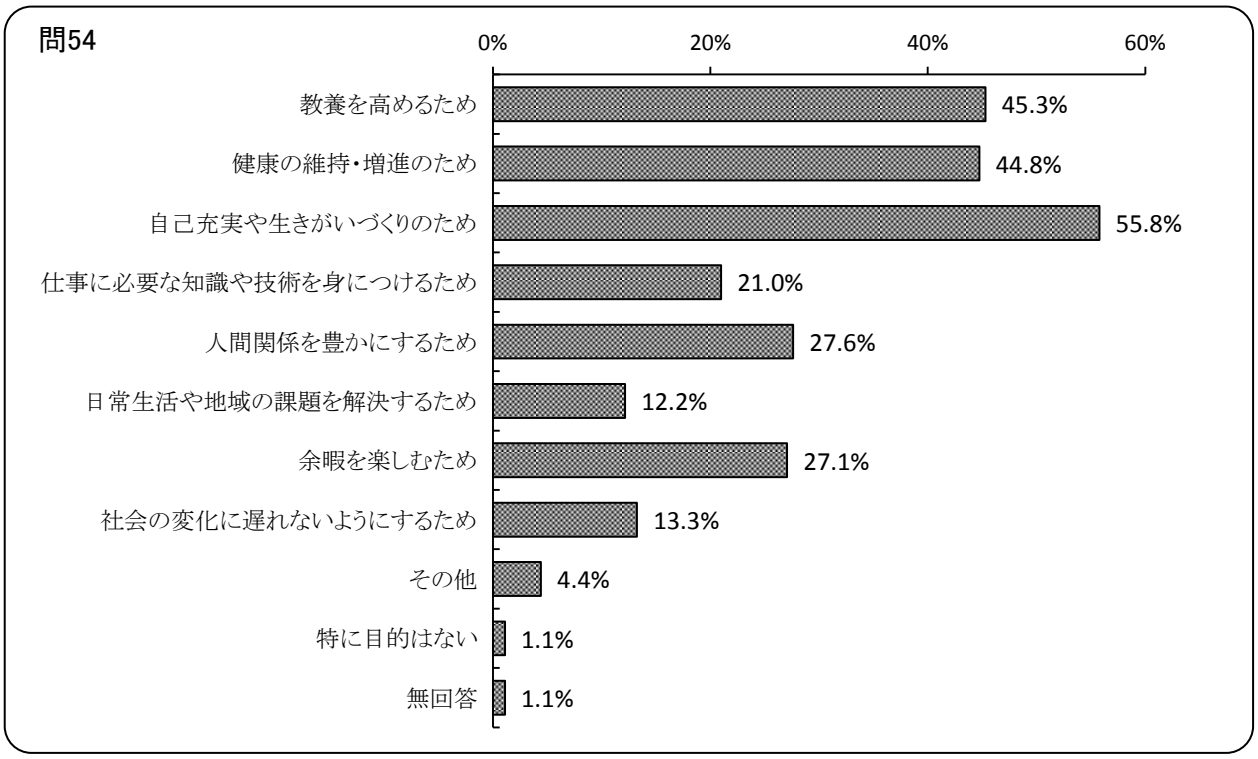
≪現在行っている生涯学習の目的≫

問 54　問 51 で「1 行っている」と回答された方にお伺いします。
現在どのような目的で生涯学習を行っていますか。【複数回答可：3つまで】

「自己充実や生きがいづくりのため」が 55.8%と最も多く、以下「教養を高めるため」(45.3%)、「健康の維持・増進のため」(44.8%)が続いており、多くの人が自分自身を高める目的で生涯学習を行っていることがわかる。

また「特に目的はない」は 1.1%で、生涯学習を行っている人は何らかの目的をもっていることがわかる。

	選択項目(N= 181) (MT= 253.6%)	回答数	構成比
1	教養を高めるため	82	45.3%
2	健康の維持・増進のため	81	44.8%
3	自己充実や生きがいづくりのため	101	55.8%
4	仕事に必要な知識や技術を身につけるため	38	21.0%
5	人間関係を豊かにするため	50	27.6%
6	日常生活や地域の課題を解決するため	22	12.2%
7	余暇を楽しむため	49	27.1%
8	社会の変化に遅れないようにするため	24	13.3%
9	その他	8	4.4%
10	特に目的はない	2	1.1%
	無回答	2	1.1%
	計(回答総数)	459	253.6%



［9 その他］

【主な意見】

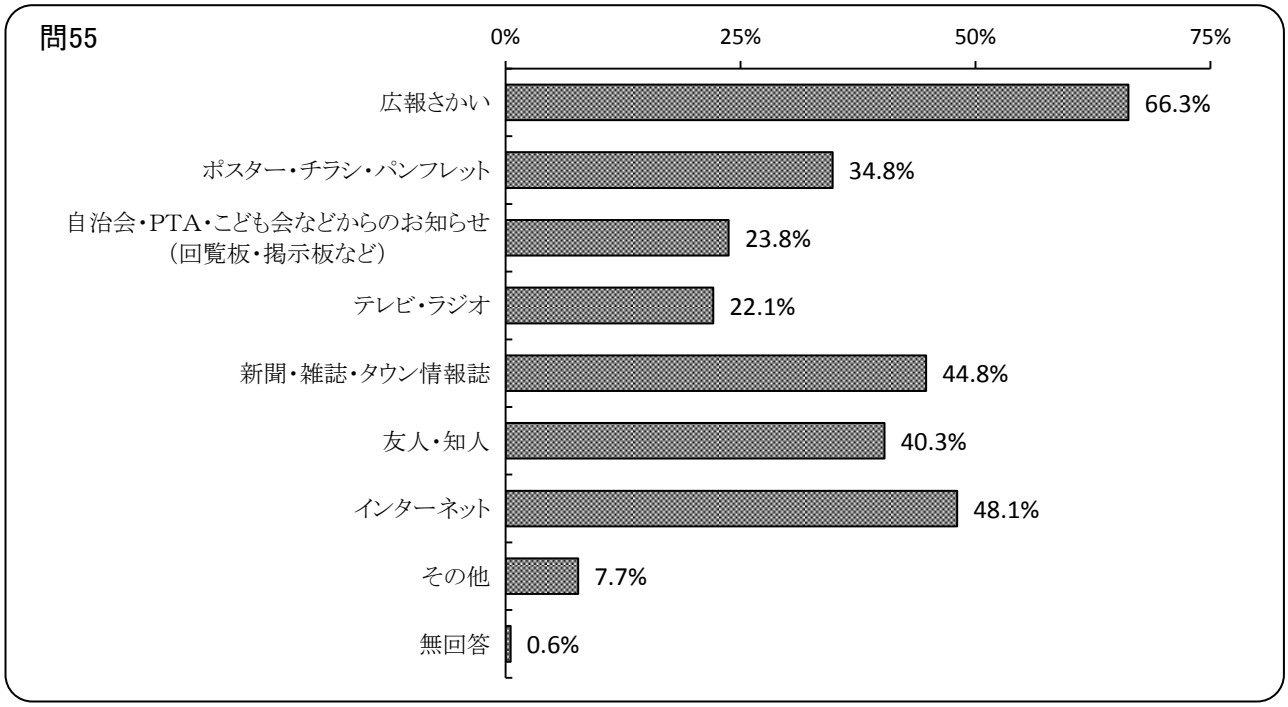
- 自分の趣味をより進めるため
- 変化する情報を得るため
- 社会参加のため
- 仲間との協調性を高めるため
- 子どもの現在から将来にかけての幸せのため
- ボランティアのため

≪生涯学習の情報を得る手段≫

問 55　問 51 で「1 行っている」と回答された方にお伺いします。
生涯学習や活動についての情報をどのような手段で得ていますか。　【複数回答可：いくつでも】

「広報さかい」が 66.3%と最も多く、以下「インターネット」(48.1%)、「新聞・雑誌・タウン情報誌」(44.8%)、「友人・知人」(40.3%)が続いている。

	選択項目(N= 181) (MT= 288.4%)	回答数	構成比
1	広報さかい	120	66.3%
2	ポスター・チラシ・パンフレット	63	34.8%
3	自治会・PTA・こども会などからのお知らせ(回覧板・掲示板など)	43	23.8%
4	テレビ・ラジオ	40	22.1%
5	新聞・雑誌・タウン情報誌	81	44.8%
6	友人・知人	73	40.3%
7	インターネット	87	48.1%
8	その他	14	7.7%
	無回答	1	0.6%
	計(回答総数)	522	288.4%

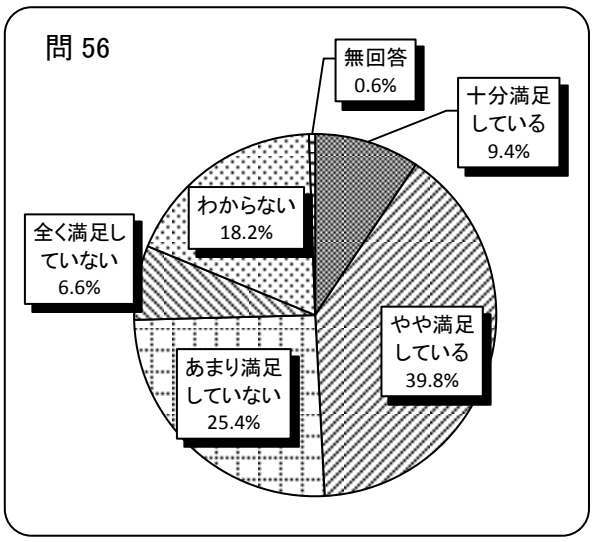


≪学習情報への満足度≫

問 56　問 51 で「1 行っている」と回答された方にお伺いします。
現在、堺市や教育委員会などから提供される学習情報にはどのくらい満足していますか。
【選択は 1 つ】

満足していると回答された方は 49.2%(「十分満足している」と「やや満足している」の合計)であり、満足していないと回答された方の 32.0%(「あまり満足していない」と「全く満足していない」の合計)を上回っている。

	選択項目(N= 181)	回答数	構成比
1	十分満足している	17	9.4%
2	やや満足している	72	39.8%
3	あまり満足していない	46	25.4%
4	全く満足していない	12	6.6%
5	わからない	33	18.2%
	無回答	1	0.6%
	計(回答総数)	181	100.0%

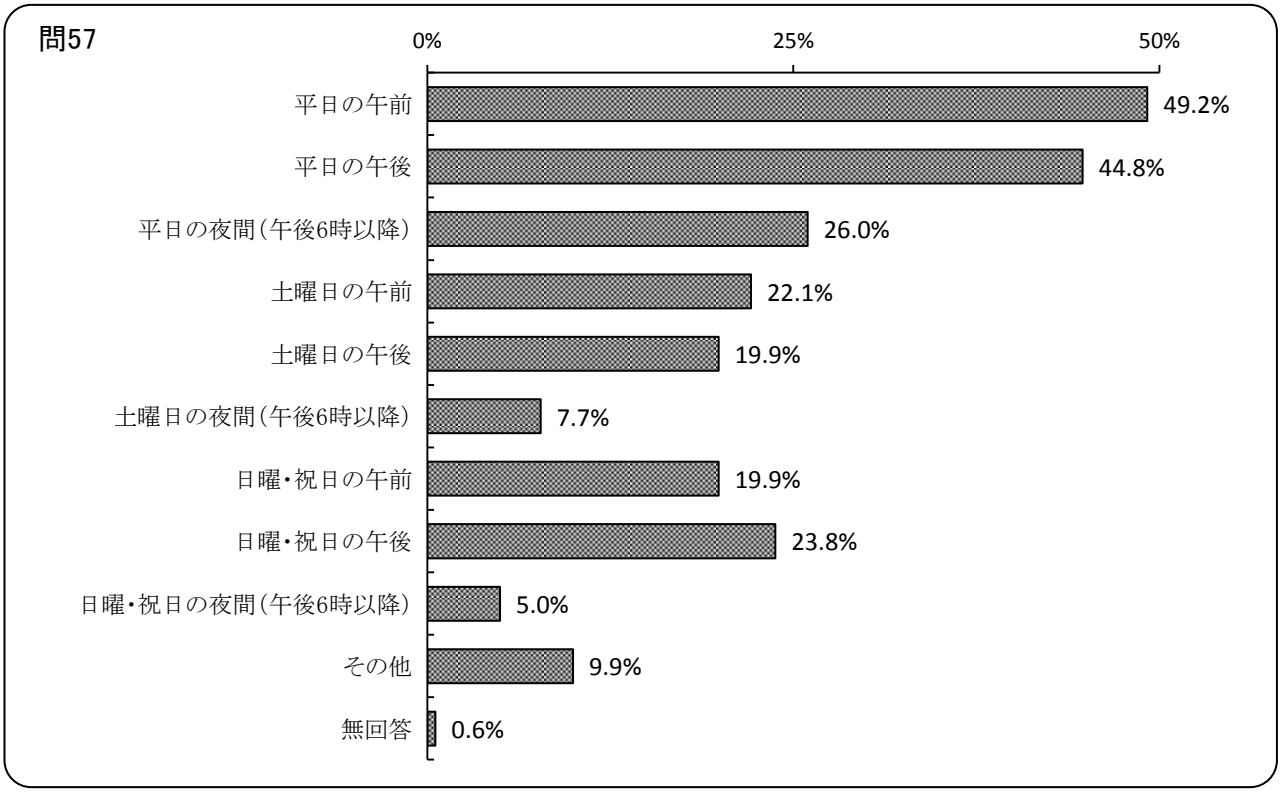


≪現在行っている生涯学習の曜日・時間帯≫

問 57　問 51 で「1 行っている」と回答された方にお伺いします。
現在、学習や活動を行っている時間帯はいつですか。　【複数回答可：いくつでも】

「平日の午前」(49.2%)や「平日の午後」(44.8%)に行っている方が多い。夜間の時間帯では「平日の夜間」が 26.0%、「土曜日の夜間」が 7.7%、「日曜・祝日の夜間」が 5.0%と、行っている人が少ないことがわかる。

	選択項目(N= 181) (MT= 228.7%)	回答数	構成比
1	平日の午前	89	49.2%
2	平日の午後	81	44.8%
3	平日の夜間(午後6時以降)	47	26.0%
4	土曜日の午前	40	22.1%
5	土曜日の午後	36	19.9%
6	土曜日の夜間(午後6時以降)	14	7.7%
7	日曜・祝日の午前	36	19.9%
8	日曜・祝日の午後	43	23.8%
9	日曜・祝日の夜間(午後6時以降)	9	5.0%
10	その他	18	9.9%
	無回答	1	0.6%
	計(回答総数)	414	228.7%



[10 その他]

【主な意見】

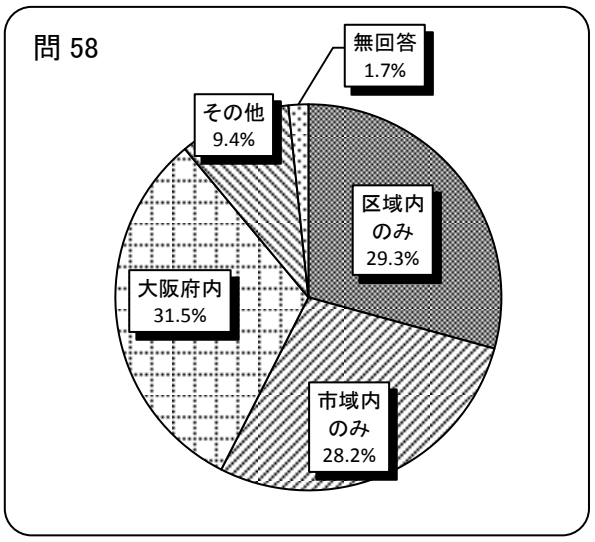
- 会社の休日や通勤時間
- 不規則、空いた時間に

≪現在行っている生涯学習の場所≫

問 58　問 51 で「1 行っている」と回答された方にお伺いします。
現在、学習や活動はどこで行っていますか。 【選択は 1 つ】

「大阪府内」(31.5%)が最も多く、「区域内のみ」(29.3%)、「市域内のみ」(28.2%)が続く。

	選択項目(N= 181)	回答数	構成比
1	区域内のみ	53	29.3%
2	市域内のみ	51	28.2%
3	大阪府内	57	31.5%
4	その他	17	9.4%
	無回答	3	1.7%
	計(回答総数)	181	100.0%



[4 その他]

【主な意見】

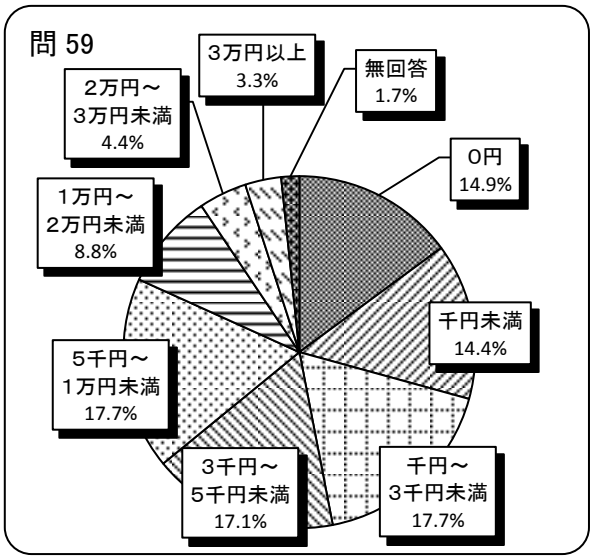
- 大阪府以外の近畿圏
- 場所にかかわりなく、内容で決める。
- インターネットでどこでも行うことができる。

≪現在行っている生涯学習の費用≫

問 59　問 51 で「1 行っている」と回答された方にお伺いします。
生涯学習を行うために月にいくらぐらい支出していますか。 【選択は 1 つ】

「0 円～1 万円未満」と回答した人が全体の 80%以上であり、費用が高額になるほど割合は低くなる。

	選択項目(N= 181)	回答数	構成比
1	0円	27	14.9%
2	千円未満	26	14.4%
3	千円～3千円未満	32	17.7%
4	3千円～5千円未満	31	17.1%
5	5千円～1万円未満	32	17.7%
6	1万円～2万円未満	16	8.8%
7	2万円～3万円未満	8	4.4%
8	3万円以上	6	3.3%
	無回答	3	1.7%
	計(回答総数)	181	100.0%

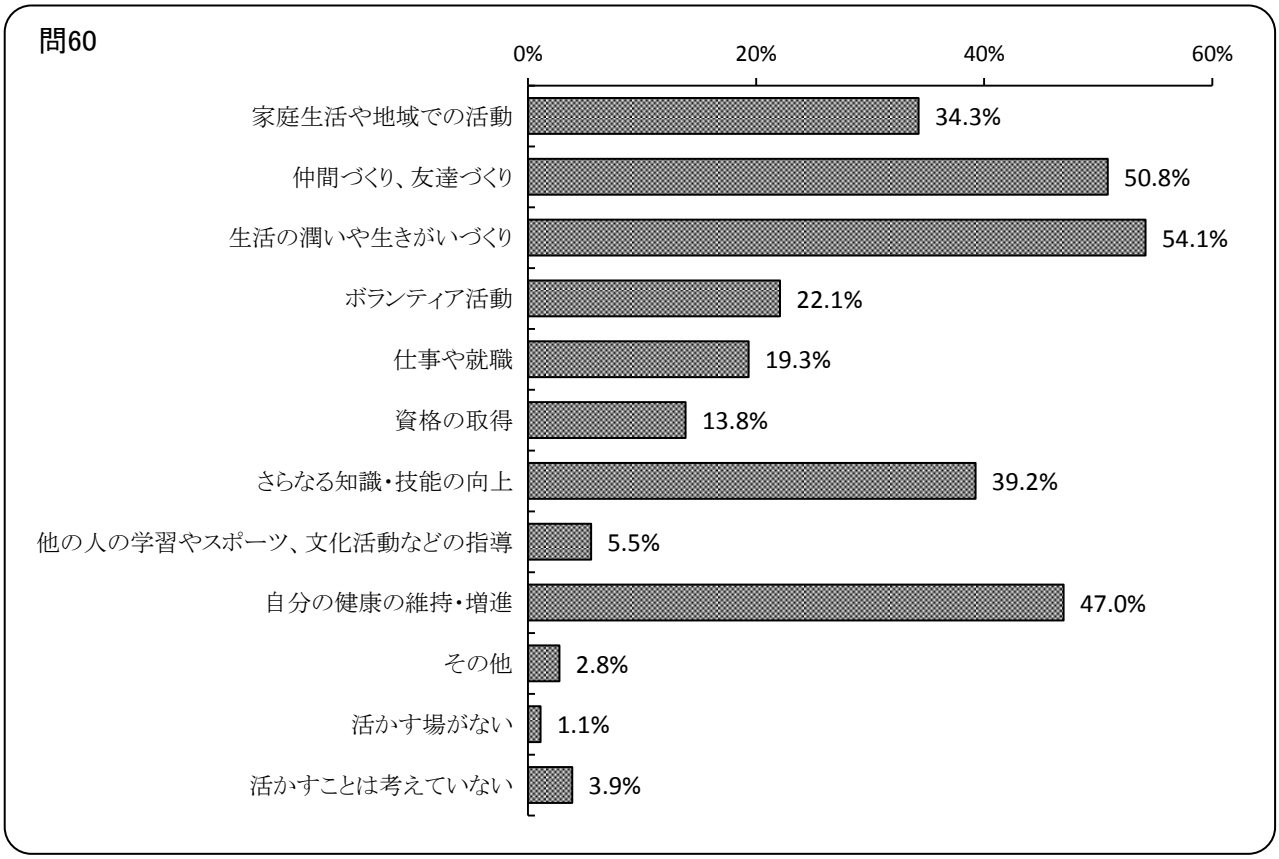


≪学習成果の活用内容≫

問 60　問 51 で「1 行っている」と回答された方にお伺いします。
生涯学習を通じて身に付けた知識・技能や経験は、どのような場面で活かされていますか。
【複数回答可：いくつでも】

「生活の潤いや生きがいづくり」(54.1%)が最も多く、次いで「仲間づくり、友達づくり」(50.8%)、「自分の健康の維持・増進」(47.0%)が続いており、個人的な生活の場面で活かされているとする人の割合が高い。

	選択項目(N= 181) (MT= 293.9%)	回答数	構成比
1	家庭生活や地域での活動	62	34.3%
2	仲間づくり、友達づくり	92	50.8%
3	生活の潤いや生きがいづくり	98	54.1%
4	ボランティア活動	40	22.1%
5	仕事や就職	35	19.3%
6	資格の取得	25	13.8%
7	さらなる知識・技能の向上	71	39.2%
8	他の人の学習やスポーツ、文化活動などの指導	10	5.5%
9	自分の健康の維持・増進	85	47.0%
10	その他	5	2.8%
11	活かす場がない	2	1.1%
12	活かすことは考えていない	7	3.9%
	計(回答総数)	532	293.9%

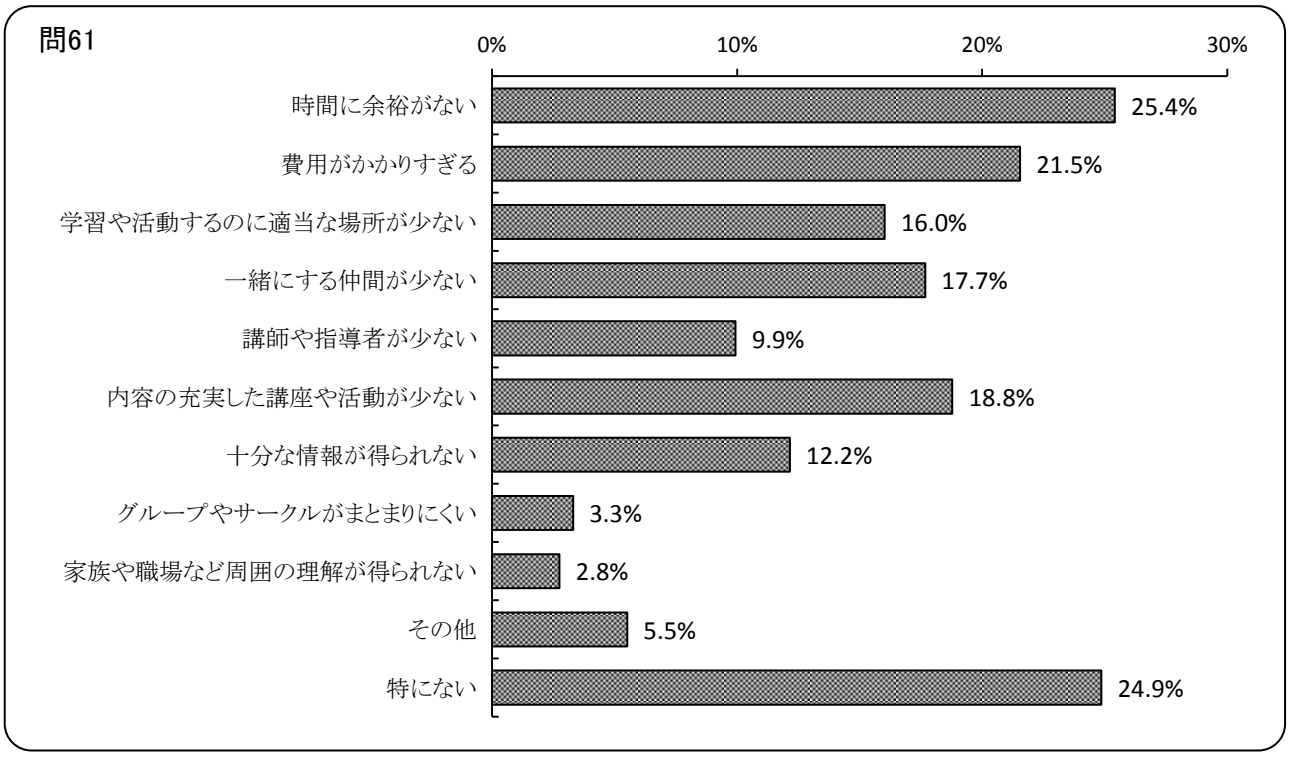


≪学習や活動で困っていること≫

問 61　問 51 で「1 行っている」と回答された方にお伺いします。
学習や活動を行ううえで、特に困っていることは何ですか。　【複数回答可：3 つまで】

「特にない」は 24.9%にとどまり、「時間に余裕がない」(25.4%)、「費用がかかりすぎる」(21.5%)、「内容の充実した講座や活動が少ない」(18.8%)、「一緒にする仲間が少ない」(17.7%)と、時間・費用・人・場所などさまざまなことに困っていることがわかる。

	選択項目(N= 181) (MT= 158.0%)	回答数	構成比
1	時間に余裕がない	46	25.4%
2	費用がかかりすぎる	39	21.5%
3	学習や活動するのに適当な場所が少ない	29	16.0%
4	一緒にする仲間が少ない	32	17.7%
5	講師や指導者が少ない	18	9.9%
6	内容の充実した講座や活動が少ない	34	18.8%
7	十分な情報が得られない	22	12.2%
8	グループやサークルがまとまりにくい	6	3.3%
9	家族や職場など周囲の理解が得られない	5	2.8%
10	その他	10	5.5%
11	特にない	45	24.9%
	計(回答総数)	286	158.0%



[10 その他]

【主な意見】

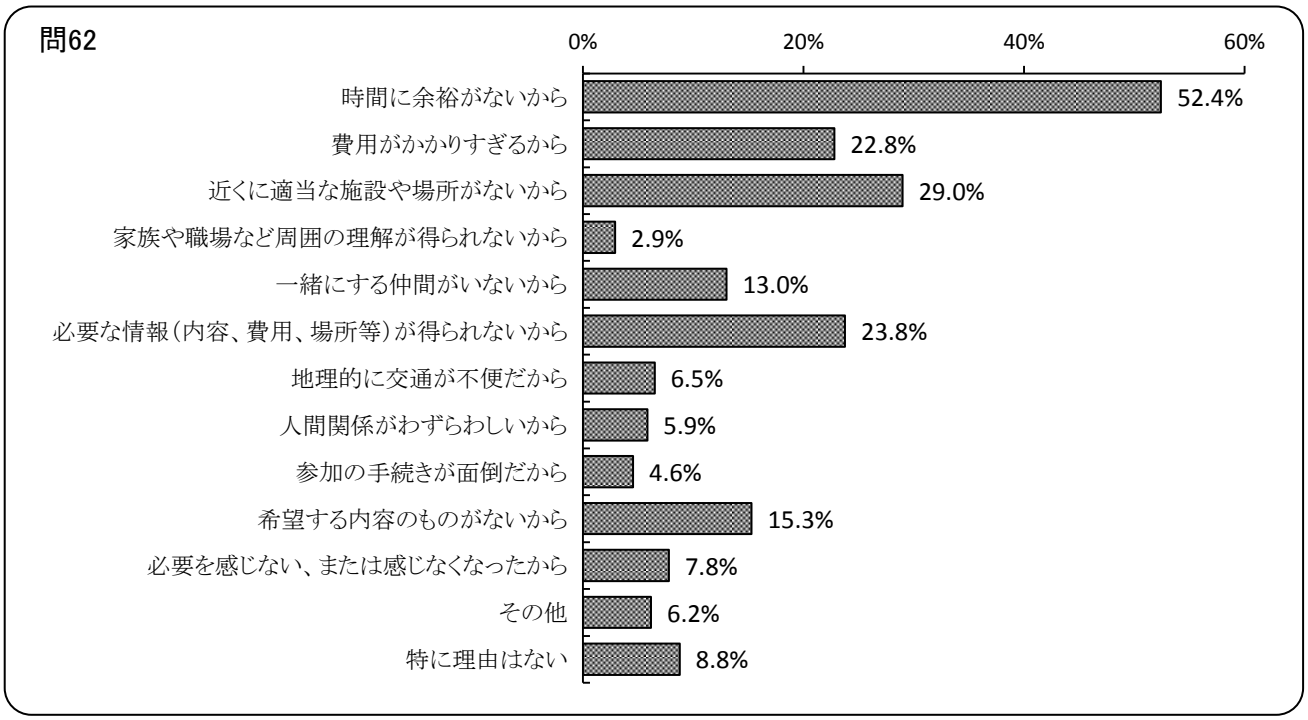
- 仕事に結びつかない。
- 託児や子ども同伴可のものがほとんどない。
- 場所が遠く、交通費が負担になっている。

≪生涯学習を行っていない理由≫

問 62　問 51 で「2 行っていない」と回答された方にお伺いします。
現在、学習や活動を行っていないのはなぜですか。主な理由をお答えください。
【複数回答可:3 つまで】

「時間に余裕がないから」が 52.4%と最も多く、以下「近くに適当な施設や場所がないから」(29.0%)、「必要な情報(内容、費用、場所等)が得られないから」(23.8%)、「費用がかかりすぎるから」(22.8%)が続いている。

	選択項目(N= 307) (MT= 199.0%)	回答数	構成比
1	時間に余裕がないから	161	52.4%
2	費用がかかりすぎるから	70	22.8%
3	近くに適当な施設や場所がないから	89	29.0%
4	家族や職場など周囲の理解が得られないから	9	2.9%
5	一緒にする仲間がいないから	40	13.0%
6	必要な情報(内容、費用、場所等)が得られないから	73	23.8%
7	地理的に交通が不便だから	20	6.5%
8	人間関係がわずらわしいから	18	5.9%
9	参加の手続きが面倒だから	14	4.6%
10	希望する内容のものがないから	47	15.3%
11	必要を感じない、または感じなくなったから	24	7.8%
12	その他	19	6.2%
13	特に理由はない	27	8.8%
	計(回答総数)	611	199.0%



[12 その他]

【主な意見】

- 健康上の理由
- 子育て中のため
- 高齢となり積極性、能力が低下してきたから

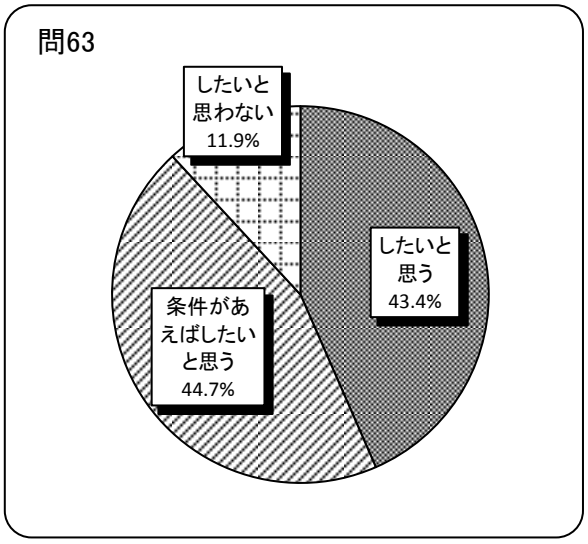
(3)今後の生涯学習について

≪今後の生涯学習の意向≫

問 63　現在、生涯学習をしている方は、今後もしたいと思いますか。生涯学習をしていない方は、今後したいと思いますか。　【選択は１つ】

「したいと思う」(43.4%)と「条件があえばしたいと思う」(44.7%)と回答された方を合わせると 88.1%となり、多くの方が今後生涯学習をしたいと思っていることがわかる。

	選択項目(N= 488)	回答数	構成比
1	したいと思う	212	43.4%
2	条件があえばしたいと思う	218	44.7%
3	したいと思わない	58	11.9%
	計(回答総数)	488	100.0%

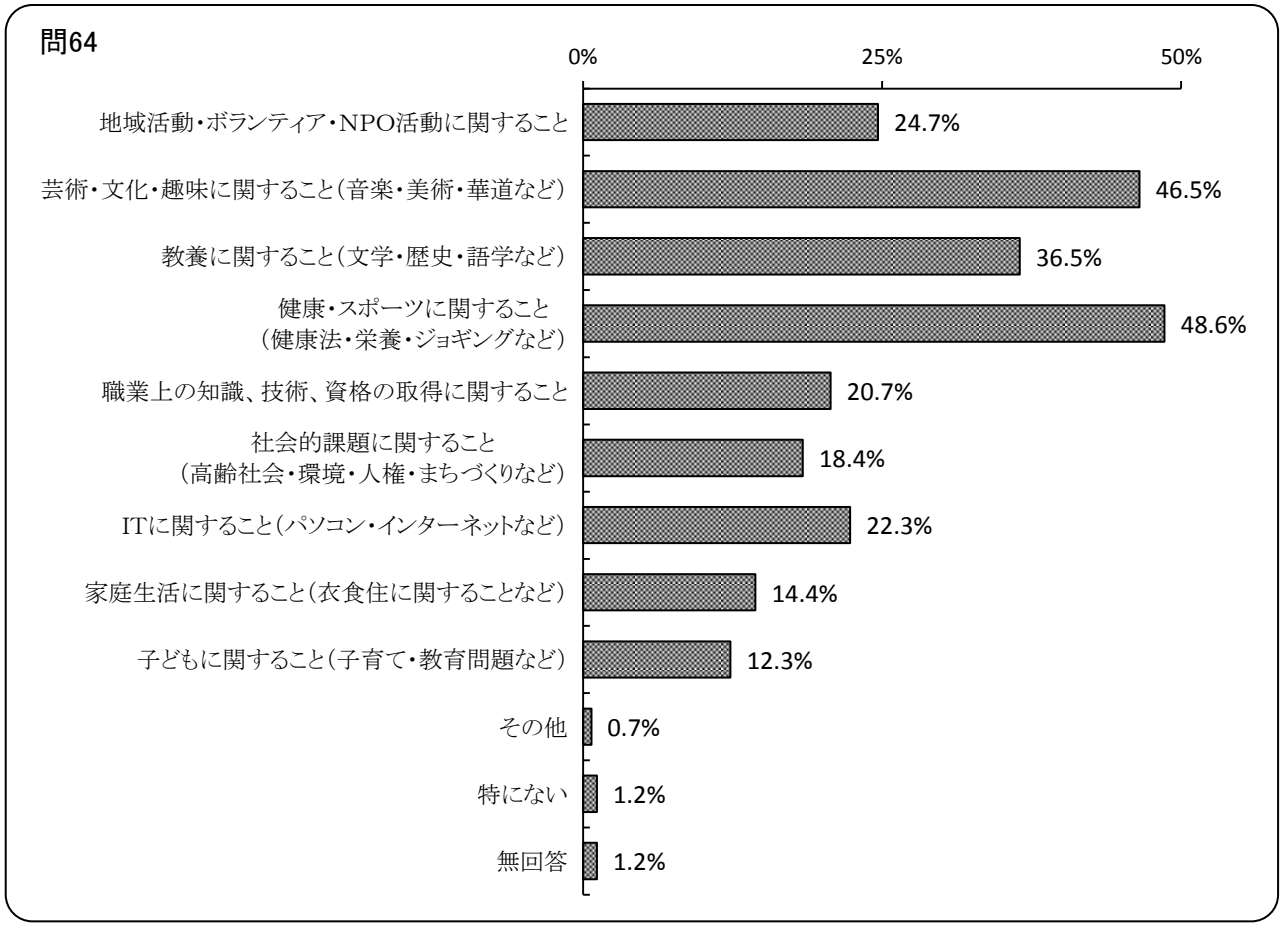


≪今後行いたい生涯学習の分野≫

問 64　問 63 で「1 したいと思う」「2 条件があえばしたいと思う」と回答された方にお伺いします。
今後行ってみたい生涯学習の分野はどういうものですか。　【複数回答可：3 つまで】

「健康・スポーツに関すること」が 48.6%と最も多く、次いで「芸術・文化・趣味に関すること」(46.5%)、「教養に関すること」の 36.5%が続いており、問 52≪現在行っている生涯学習≫の内容とほぼ同じである。

	選択項目(N= 430) (MT= 247.4%)	回答数	構成比
1	地域活動・ボランティア・NPO活動に関すること	106	24.7%
2	芸術・文化・趣味に関すること(音楽・美術・華道など)	200	46.5%
3	教養に関すること(文学・歴史・語学など)	157	36.5%
4	健康・スポーツに関すること(健康法・栄養・ジョギングなど)	209	48.6%
5	職業上の知識、技術、資格の取得に関すること	89	20.7%
6	社会的課題に関すること(高齢社会・環境・人権・まちづくりなど)	79	18.4%
7	ITに関すること(パソコン・インターネットなど)	96	22.3%
8	家庭生活に関すること(衣食住に関することなど)	62	14.4%
9	子どもに関すること(子育て・教育問題など)	53	12.3%
10	その他	3	0.7%
11	特にない	5	1.2%
	無回答	5	1.2%
	計(回答総数)	1,064	247.4%

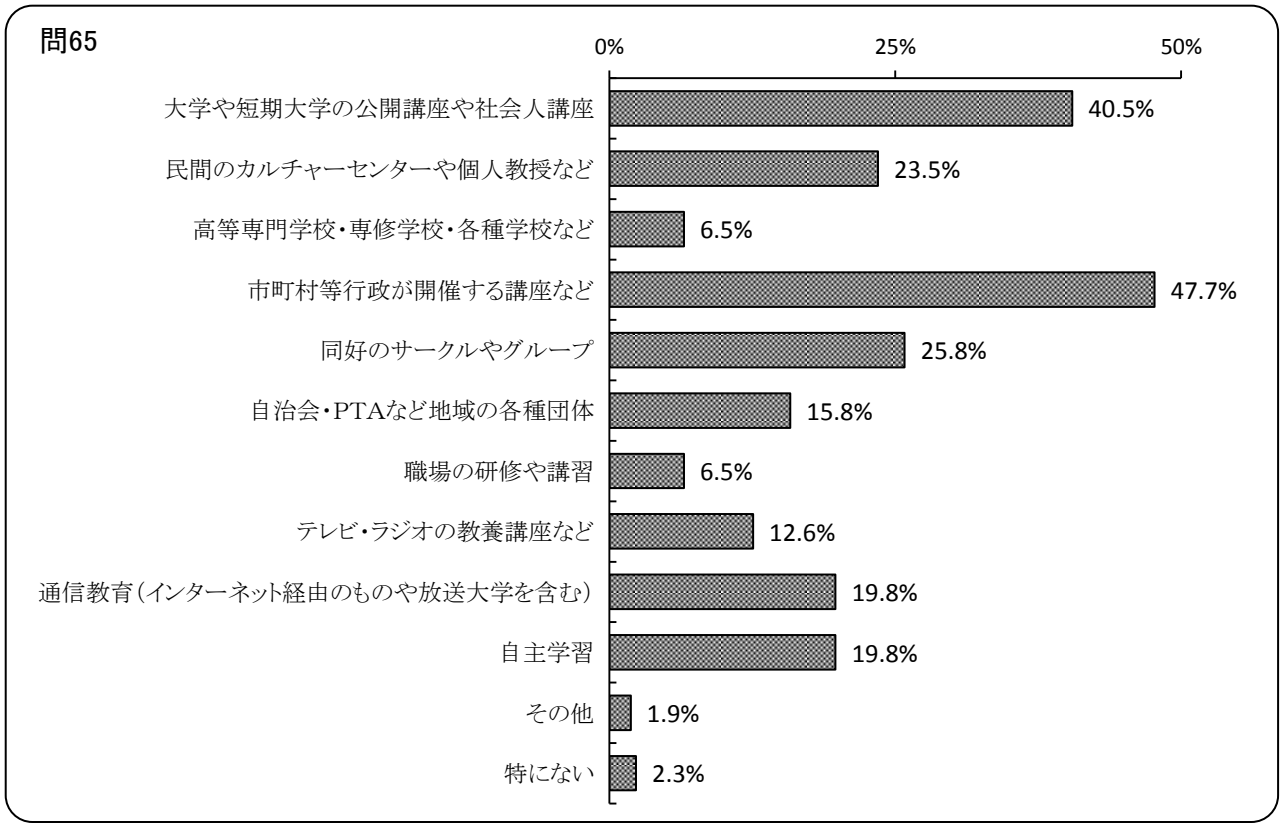


≪今後行いたい生涯学習の方法≫

問 65　問 63 で「1 したいと思う」「2 条件があえばしたいと思う」と回答された方にお伺いします。
今後どのような方法で生涯学習を行いたいですか。　【複数回答可：3 つまで】

「市町村等行政が開催する講座など」（47.7%）、「大学や短期大学の公開講座や社会人講座」（40.5%）の 2 項目の割合が高く、問 53≪現在行っている生涯学習の方法≫とは異なる。

	選択項目（ N= 430 ）（ MT= 222.6% ）	回答数	構成比
1	大学や短期大学の公開講座や社会人講座	174	40.5%
2	民間のカルチャーセンターや個人教授など	101	23.5%
3	高等専門学校・専修学校・各種学校など	28	6.5%
4	市町村等行政が開催する講座など	205	47.7%
5	同好のサークルやグループ	111	25.8%
6	自治会・PTAなど地域の各種団体	68	15.8%
7	職場の研修や講習	28	6.5%
8	テレビ・ラジオの教養講座など	54	12.6%
9	通信教育（インターネット経由のものや放送大学を含む）	85	19.8%
10	自主学習	85	19.8%
11	その他	8	1.9%
12	特にない	10	2.3%
	計（回答総数）	957	222.6%



[11 その他]

【主な意見】

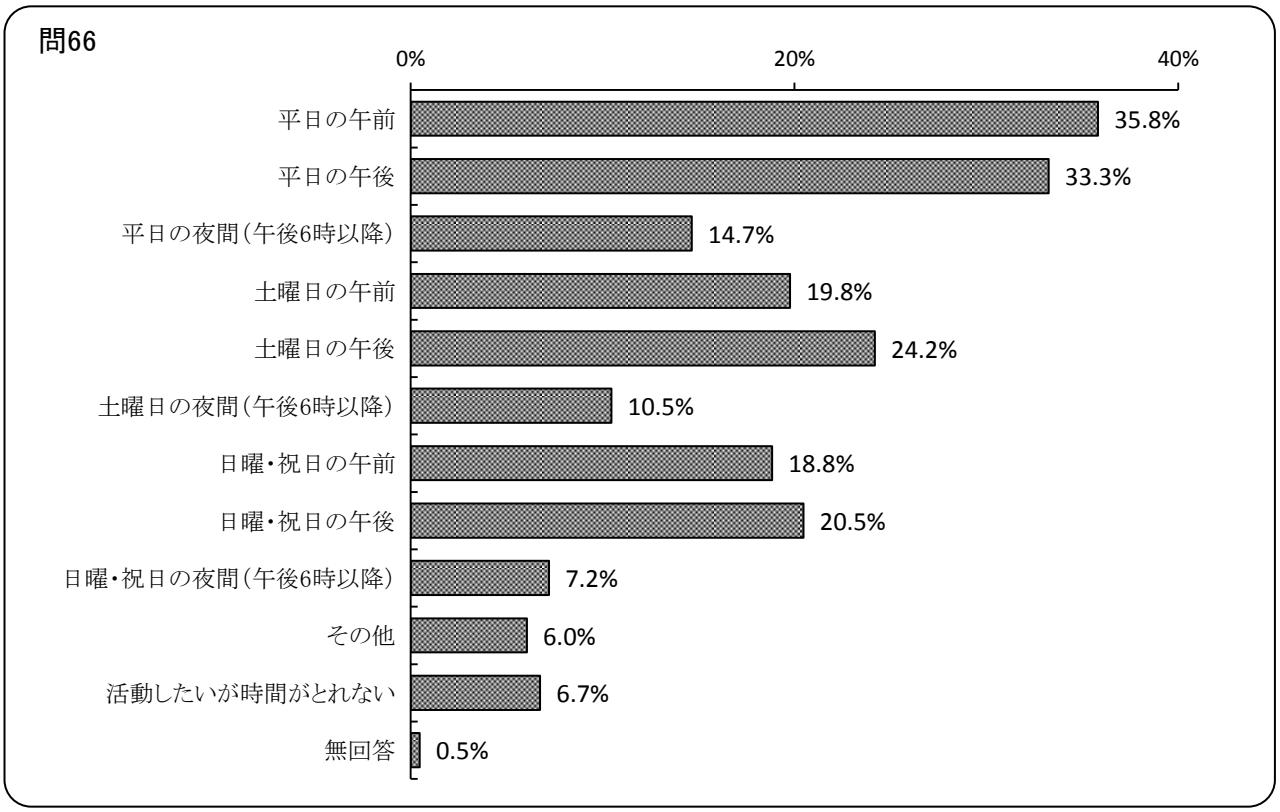
- 後輩への無形遺産の伝達
- 大学や専門機関にて

≪学習しやすい曜日・時間帯≫

問 66　問 63 で「1 したいと思う」「2 条件があえばしたいと思う」と回答された方にお伺いします。
生涯学習をする場合、学習や活動をしやすい時間帯はいつですか。　【複数回答可：いくつでも】

「平日の午前」(35.8%)、「平日の午後」(33.3%)の２項目が多く、「土曜日の午後」(24.2%)、「日曜・祝日の午後」(20.5%)が続いている。「夜間」が学習しやすいと答えた人の割合は「平日の夜間」(14.7%)に比べ土曜日、日曜日は割合が低い。

	選択項目(N= 430) (MT= 197.9%)	回答数	構成比
1	平日の午前	154	35.8%
2	平日の午後	143	33.3%
3	平日の夜間(午後6時以降)	63	14.7%
4	土曜日の午前	85	19.8%
5	土曜日の午後	104	24.2%
6	土曜日の夜間(午後6時以降)	45	10.5%
7	日曜・祝日の午前	81	18.8%
8	日曜・祝日の午後	88	20.5%
9	日曜・祝日の夜間(午後6時以降)	31	7.2%
10	その他	26	6.0%
11	活動したいが時間がとれない	29	6.7%
	無回答	2	0.5%
	計(回答総数)	851	197.9%



[10 その他]

【主な意見】

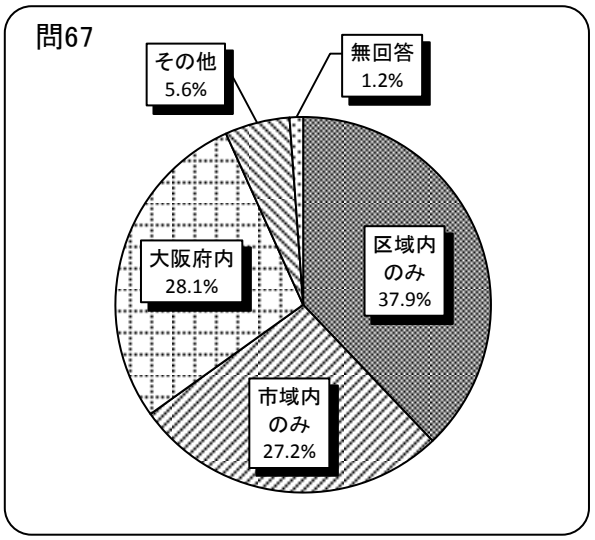
- いつでもよい
- 空いた時間

≪生涯学習の活動可能な場所≫

問 67　問 63 で「1 したいと思う」「2 条件があえばしたいと思う」と回答された方にお伺いします。
生涯学習をする場合、学習や活動が可能な場所はどこですか。　【選択は 1 つ】

「区域内のみ」が 37.9%と最も割合が高く、以下「大阪府内」(28.1%)、「市域内のみ」(27.2%)と続いている。

	選択項目(N= 430)	回答数	構成比
1	区域内のみ	163	37.9%
2	市域内のみ	117	27.2%
3	大阪府内	121	28.1%
4	その他	24	5.6%
	無回答	5	1.2%
	計(回答総数)	430	100.0%



[4 その他]

【主な意見】

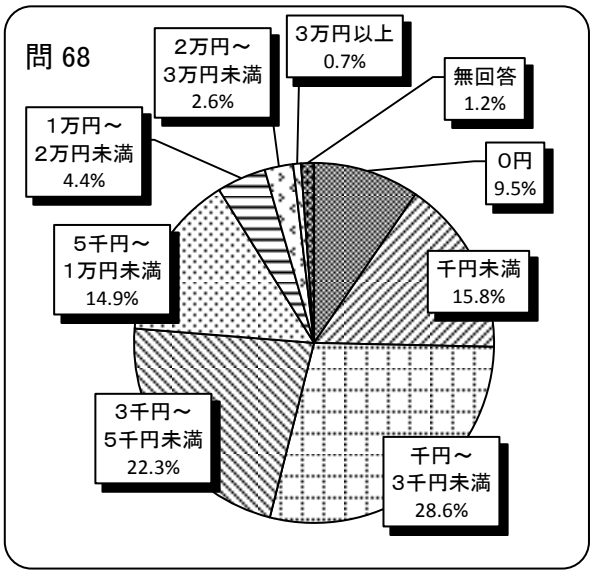
- 条件があえばどこでもいい。
- インターネットでどこでも行うことができる。
- 交通の便が良いところ
- 近畿圏、京阪神圏
- 自宅または自宅の近く
- 子どもを預けることができるところ

≪生涯学習への支出可能額≫

問 68　問 63 で「1 したいと思う」「2 条件があえばしたいと思う」と回答された方にお伺いします。
生涯学習を行うために月にいくらぐらいまで支出してもよいと思いますか。　【選択は 1 つ】

「1 千円～3 千円未満」(28.6%)が最も多く、次いで「3 千円～5 千円未満」(22.3%)となっている。1 万円未満の割合を合計すると 91.1%となり、9 割の方が 1 万円未満の費用を希望していることがわかる。

	選択項目(N= 430)	回答数	構成比
1	0円	41	9.5%
2	千円未満	68	15.8%
3	千円～3千円未満	123	28.6%
4	3千円～5千円未満	96	22.3%
5	5千円～1万円未満	64	14.9%
6	1万円～2万円未満	19	4.4%
7	2万円～3万円未満	11	2.6%
8	3万円以上	3	0.7%
	無回答	5	1.2%
	計(回答総数)	430	100.0%

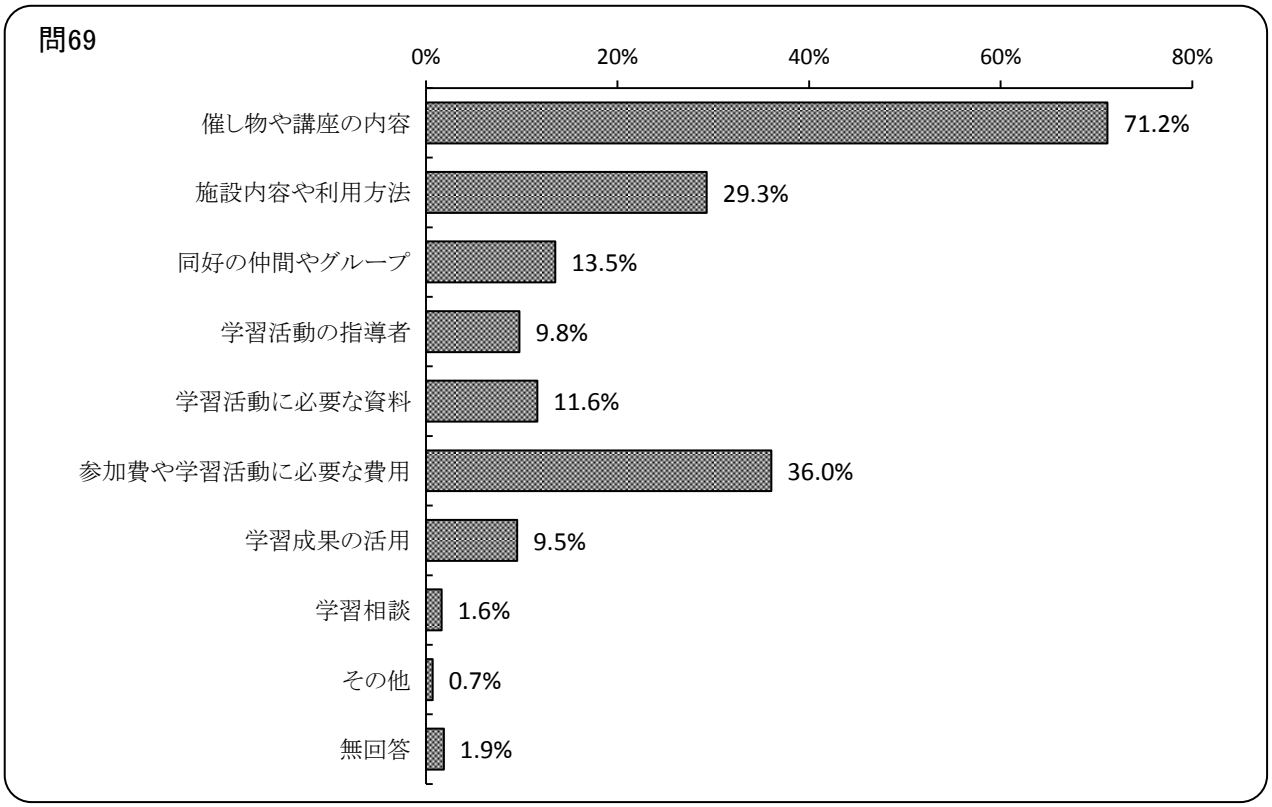


≪学習や活動に望ましい情報≫

問 69　問 63 で「1 したいと思う」「2 条件があえばしたいと思う」と回答された方にお伺いします。
今後学んだり、活動したりするのに、どのような情報があればよいと思いますか。特に望むものをお答えください。　【複数回答可：2つまで】

「催し物や講座の内容」が 71.2%と最も多く、次いで「参加費や学習活動に必要な費用」(36.0%)、「施設内容や利用方法」(29.3%)と続いている。

	選択項目(N= 430) (MT= 185.1%)	回答数	構成比
1	催し物や講座の内容	306	71.2%
2	施設内容や利用方法	126	29.3%
3	同好の仲間やグループ	58	13.5%
4	学習活動の指導者	42	9.8%
5	学習活動に必要な資料	50	11.6%
6	参加費や学習活動に必要な費用	155	36.0%
7	学習成果の活用	41	9.5%
8	学習相談	7	1.6%
9	その他	3	0.7%
	無回答	8	1.9%
	計(回答総数)	796	185.1%



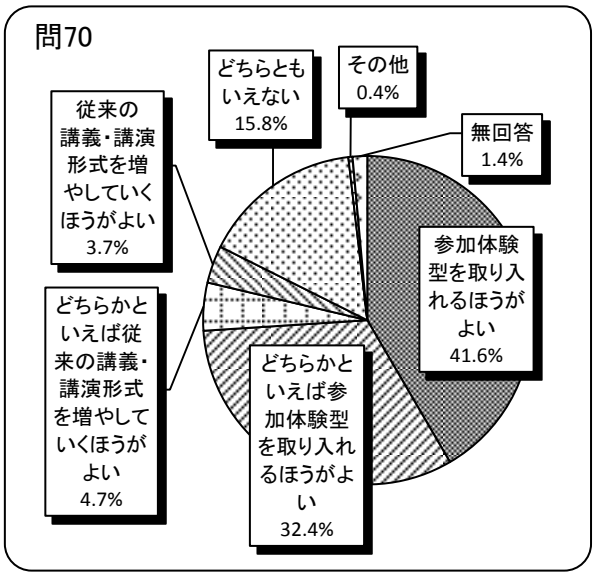
(4) 堺市が実施する講座・講習について

≪参加体験型の講座の賛否≫

問 70　従来の講義・講演形式の講座に加え、ワークショップなど、受講者が話し合いやまち歩きといった、さまざまな体験に参加しながら学ぶことができる、いわゆる参加体験型の形式の講座も増えていますが、このことについてどのように思いますか。　【選択は 1 つ】

「参加体験型を取り入れるほうがよい」(41.6%)と「どちらといえば参加体験型を取り入れるほうがよい」(32.4%)を合わせると、74.0%の方が参加体験型を取り入れるほうがよいと考えている。

	選択項目(N= 488)	回答数	構成比
1	参加体験型を取り入れるほうがよい	203	41.6%
2	どちらかといえば参加体験型を取り入れるほうがよい	158	32.4%
3	どちらかといえば従来の講義・講演形式を増やしていくほうがよい	23	4.7%
4	従来の講義・講演形式を増やしていくほうがよい	18	3.7%
5	どちらともいえない	77	15.8%
6	その他	2	0.4%
	無回答	7	1.4%
	計(回答総数)	488	100.0%

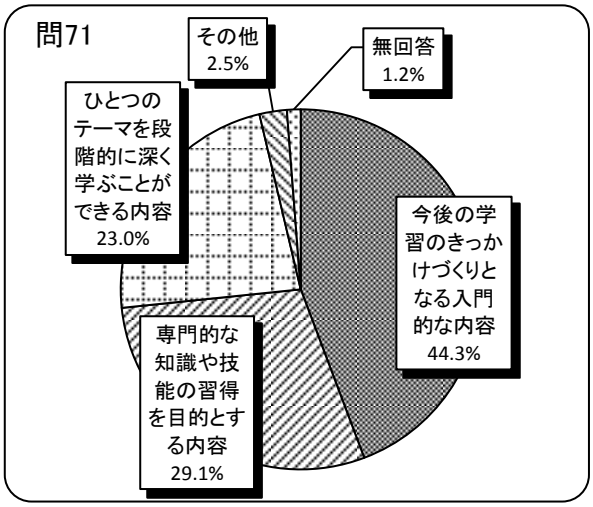


≪市の講座で望む内容≫

問 71　市の講座内容としては、どのようなものを望みますか。　【選択は 1 つ】

「今後の学習のきっかけづくりとなる入門的な内容」が 44.3%と最も多く、「専門的な知識や技能の習得を目的とする内容」の 29.1%や「ひとつのテーマを段階的に深く学ぶことができる内容」の 23.0%が続いている。

	選択項目(N= 488)	回答数	構成比
1	今後の学習のきっかけづくりとなる入門的な内容	216	44.3%
2	専門的な知識や技能の習得を目的とする内容	142	29.1%
3	ひとつのテーマを段階的に深く学ぶことができる内容	112	23.0%
4	その他	12	2.5%
	無回答	6	1.2%
	計(回答総数)	488	100.0%



[4 その他]

【主な意見】

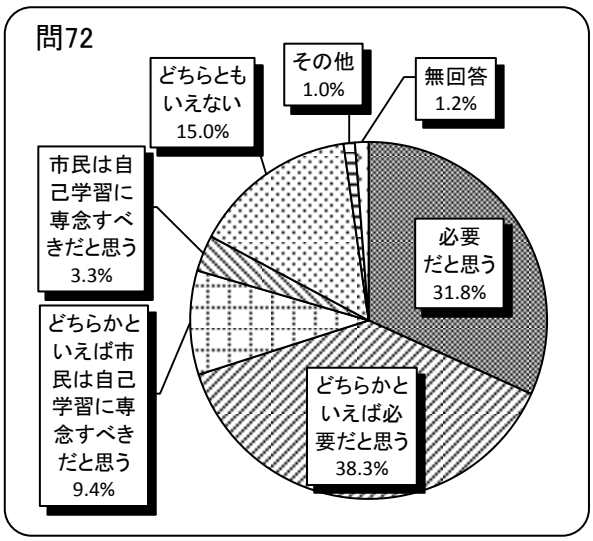
- 初心者向けのものから中・上級者向けのものまで幅広く
- 地域の児童を対象とする社会教育の指導者養成講座

≪市民協働型講座の必要性≫

問 72　市が実施する講座において、市と、学習した市民が協働して講座の企画・運営をしたり、市民が講師として参加することが必要だと思いますか。　【選択は 1 つ】

「必要だと思う」(31.8%)と「どちらかといえば必要だと思う」(38.3%)を合わせると70.1%となり、「どちらかといえば市民は自己学習に専念すべきだと思う」(9.4%)と「市民は自己学習に専念すべきだと思う」(3.3%)とを合わせた 12.7%を大きく上回っている。

	選択項目(N= 488)	回答数	構成比
1	必要だと思う	155	31.8%
2	どちらかといえば必要だと思う	187	38.3%
3	どちらかといえば市民は自己学習に専念すべきだと思う	46	9.4%
4	市民は自己学習に専念すべきだと思う	16	3.3%
5	どちらともいえない	73	15.0%
6	その他	5	1.0%
	無回答	6	1.2%
	計(回答総数)	488	100.0%

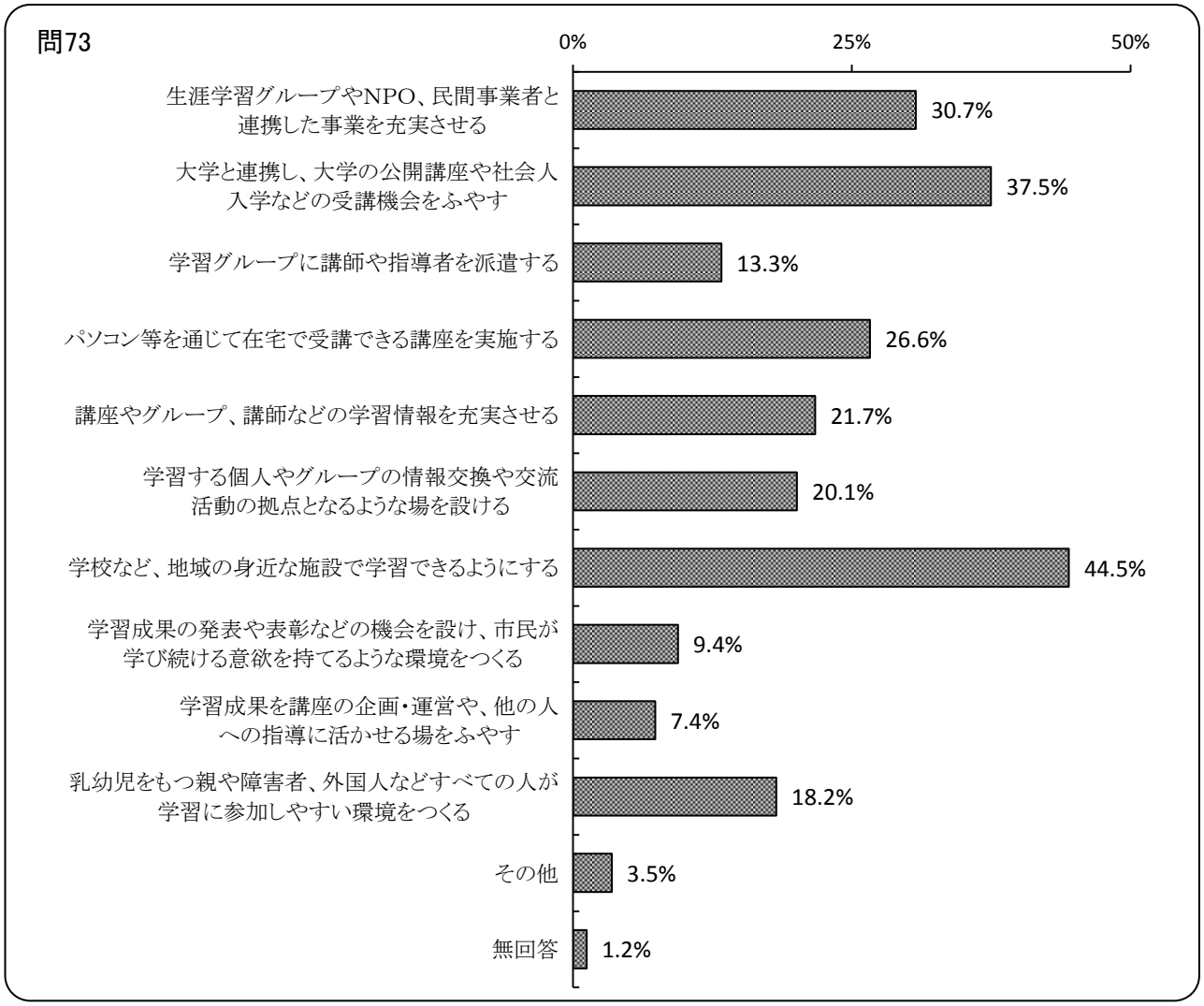


≪市の生涯学習施策で大切だと思うこと≫

問 73　市民の生涯学習を一層活発にするために、市の施策として、特にどのようなことが大切であると思いますか。　【複数選択可:3 つまで】

「学校など、地域の身近な施設で学習できるようにする」が 44.5%と最も多く、次いで「大学と連携し、大学の公開講座や社会人入学などの受講機会をふやす」(37.5%)となっており、学習する場に対するニーズが高い。

	選択項目(N= 488)(MT= 234.2%)	回答数	構成比
1	生涯学習グループやNPO、民間事業者と連携した事業を充実させる	150	30.7%
2	大学と連携し、大学の公開講座や社会人入学などの受講機会をふやす	183	37.5%
3	学習グループに講師や指導者を派遣する	65	13.3%
4	パソコン等を通じて在宅で受講できる講座を実施する	130	26.6%
5	講座やグループ、講師などの学習情報を充実させる	106	21.7%
6	学習する個人やグループの情報交換や交流活動の拠点となるような場を設ける	98	20.1%
7	学校など、地域の身近な施設で学習できるようにする	217	44.5%
8	学習成果の発表や表彰などの機会を設け、市民が学び続ける意欲を持てるような環境をつくる	46	9.4%
9	学習成果を講座の企画・運営や、他の人への指導に活かせる場をふやす	36	7.4%
10	乳幼児をもつ親や障害者、外国人などすべての人が学習に参加しやすい環境をつくる	89	18.2%
11	その他	17	3.5%
	無回答	6	1.2%
	計(回答総数)	1,143	234.2%



[11 その他]

【主な意見】

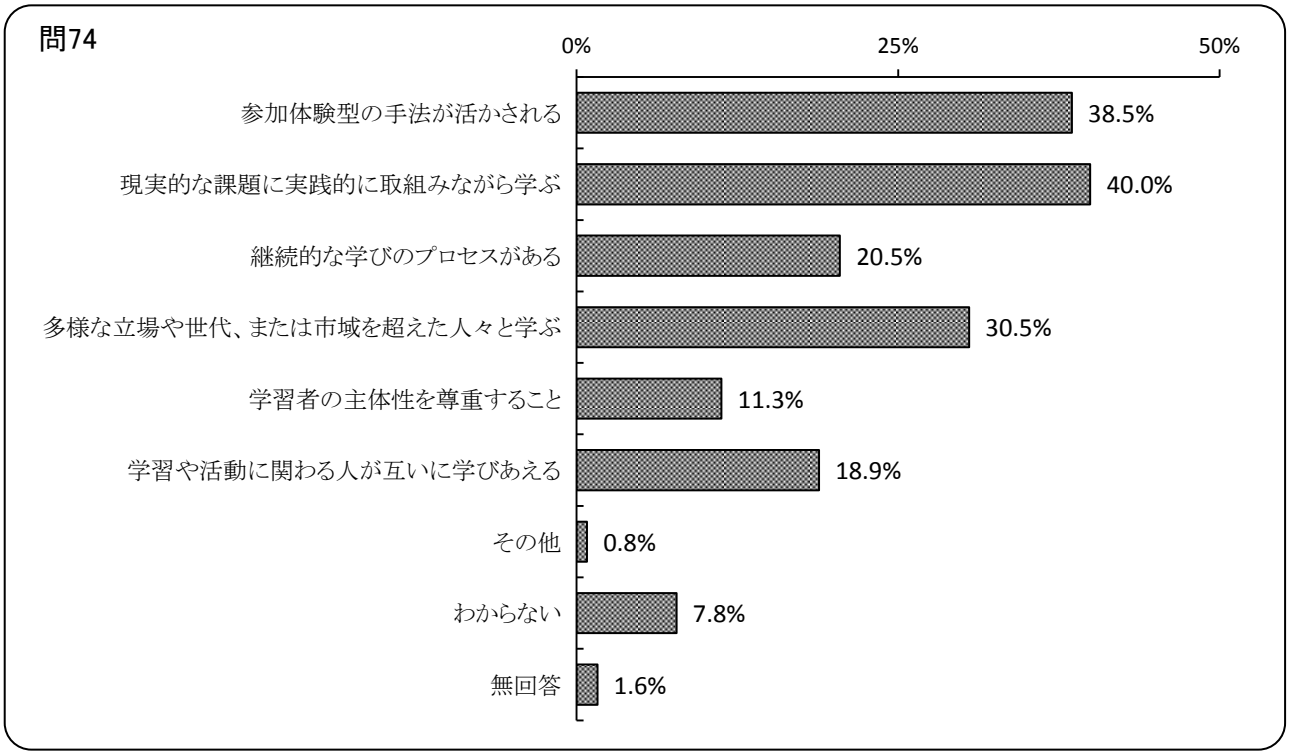
- 生涯学習のやりがいや必要性を市民全般に呼び掛けること
- ワンストップ的相談窓口の設立
- 年齢の幅を広げて、学生と交流できる環境づくり
- 職業訓練や資格取得につながるもの

≪持続可能な社会づくりの担い手となるための生涯学習について≫

問 74　今、世界には環境、貧困、人権、平和、開発といったさまざまな問題があります。これらの現代社会の課題を自らの問題として捉え身近なところから取組むことにより、それらの解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そして、それによって持続可能な社会を創造していくことをめざす学習や活動が大切だと言われています。そのためには、特にどのような学び方が必要だと思いますか。　【複数選択可：2 つまで】

「現実的な課題に実践的に取組みながら学ぶ」(40.0%)、「参加体験型の手法が活かされる」(38.5%)、「多様な立場や世代、または市域を超えた人々と学ぶ」(30.5%)の 3 項目の割合が高い。

	選択項目(N= 488) (MT= 169.9%)	回答数	構成比
1	参加体験型の手法が活かされる	188	38.5%
2	現実的な課題に実践的に取組みながら学ぶ	195	40.0%
3	継続的な学びのプロセスがある	100	20.5%
4	多様な立場や世代、または市域を超えた人々と学ぶ	149	30.5%
5	学習者の主体性を尊重すること	55	11.3%
6	学習や活動に関わる人が互いに学びあえる	92	18.9%
7	その他	4	0.8%
8	わからない	38	7.8%
	無回答	8	1.6%
	計(回答総数)	829	169.9%



≪市の生涯学習施策への自由意見≫

問 75　市の生涯学習施策について、ご提案やご意見があればお書きください。　【自由記述】

【生涯学習全般について】

- 生涯学習というと一定の年代が多いイメージだが、若い世代から高齢者までいろんな年代層が交流できるということをきちんと広めてほしい。
- 人として生きている限り前向きに学習を続けたいので、市の生涯学習推進プランには賛同し活用していく。
- 現在は多様な観点から施策を実施していると思うが、今後はこれからの堺市の進むべき方向性とその課題、時代を先取りした観点も加え、総合的重点的に施策を展開すると効果的である。
- 世代を超えた交流は、お互いを助ける心の支えになるので、いろんな世代が交流できる場所になればいい。
- 生涯学習をすることで生活が豊かになることを、多くの市民が理解するように呼びかけることが大切である。
- 堺市と市民との協力で学びの機会が増え、生きがいのある学習を行うことが堺市への愛着につながるので、いろいろな工夫とチャレンジ精神が大切である。
- 一生勉強だが、勉強できる環境がなければできないので、市の取り組みは良いと思う。
- 学んだ知識・経験を地域社会に役立てることで、結果的に住みやすく活気のあるまちづくりにつながる。
- 生涯学習とは学びの場でもあり、人と人との出会いの場でもある。そこで出会った人が協力することで仲間づくり、地域づくりへと発展する。
- 地域のつながりという観点では市の生涯学習はもっと盛んに行うべきである。

【広報や周知について】

- 情報発信の力が弱く、どこで何ができるかわからないので、もっと広報に力をいれてほしい。
- 広報紙だけでなく、ホームページ上への詳細情報の掲載やインターネットで講座の申込等ができるようにしてほしい。
- 広報紙やテレビ、ホームページ、新聞といったメディア媒体を利用しもっと周知するべきである。
- 自主的学習グループの活動やメンバーの紹介などもわかる広報誌を作ってほしい。
- 市のホームページで生涯学習の情報を得ようと思っても非常にわかりにくく、また情報量も少ない。
- 私自身が何かを生涯学習で教えたいと思っても、どういうルートで講座を持てるのかわからない。教えてもらう立場でも広報に出ない講座もいろいろあるようだが、それらを調べる方法がわからないのが実情である。
- 習い事をしたいと思っても、情報が少ないために一歩踏み出すことができない。さまざまな分野の情報がたくさんほしい。

【場所について】

- 小学校や地域会館をはじめ、区役所や公民館など地域の身近な施設での学習機会を提供してほしい。
- 身近な場所で手話ボランティアや保育士もお願いすれば、受講者も増え市民すべてに機会が与えられると思う。
- サークルや自主活動グループの活動できる拠点を増やしてほしい。

【時間帯について】

- 日常では学習する時間が持てないため、自由な時間に学べるインターネットでの学習機会が増えることを希望する。
- 働いている人も参加しやすいように夜間や土・日・祝日の開催を増やし、いろいろな立場の人が参加できるようバランスのとれた視野で日時や場所を設定することが大切である。

【社会参加について】

- 講座終了後は、学んだことを地域やボランティアで活かす等の社会に貢献する機会を与えてほしい。
- 市の生涯学習に参加後、活動の場が広がり有意義に生活している。
- 生涯学習にて一定の成果を収めた人たちが、自主的にグループ作りをし、または単独でも実際の活動に参画できるよう、導くことやその環境づくりも必要である。それが持続的に充実すれば、街の特色ある文化へ成長していくものと思う。
- 市内にある大学で、市民を講師として活用したり、研究活動に参画させたりするなど連携を図ることが望ましい。

【その他】

- 子育て世代にはなかなか自由になる時間ないが、自己成長したいという気持ちは誰にでもあるので、身近な場所で託児や授乳室があり、単発で参加できる講座があればよい。
- 基礎からはじめ応用、実践まで内容を深めて達成感が感じられるような講座を希望する。
- 学ぶ内容、メニューの選択肢をもっと幅広くしてほしい。
- 市民講座は無料または安価な費用での開催を希望する。
- 大学、その他の機関と連携してよりよい社会の構築のため、社会問題を中心に学習機会を提供してほしい。
- 社会的課題や地域課題、まちづくりなどの学習機会を提供してほしい。
- 高齢者や障害者をはじめ、どんな人でも参加しやすい環境を作ってほしい。
- 時間や場所の制約なく学べるように、インターネット等を使い、自宅で学べるようにしてはどうか。
- 講座の内容だけでなく開催場所や時間帯の多様化が進むことを希望する。
- 図書館を充実させ、内容の豊富なものにしてほしい。
- 比較的短時間で、そして学校などで学習できる場があれば、世代を超えていろいろな人が生涯学習受講について考えることができるのではないかと思う。
- シニア向けの継続的な生涯学習内容を織り込んだ内容を望む。
- もっと積極的な参加が必要だとは思うが、なかなか第一歩が踏み出せない人も多いと思う。
- 少しでも社会に何か役立つことをしたい。そのための「生涯学習」を未だ求めて生き甲斐にしている。
- 高齢者や子育て世代等の特定の人を対象とせず、中高年や学生等も対象としてほしい。

平成26年度　第2回市政モニターアンケート報告書

1．危険物（ガソリン、灯油等）に関する意識調査について
2．大阪 880 万人訓練について
3．生涯学習について

発行月　平成26年（2014年）11月
編集・発行　堺市市長公室広報部市政情報課
〒590-0078　堺市堺区南瓦町3番1号
TEL　072－228－7475
FAX　072－228－7444
URL　http://www.city.sakai.lg.jp/

行政資料番号　1－C3－14－0210